Canon

EOS M6 Mark II

この使用説明書は、EOS M6 Mark IIのファームウェアがVer.1.1.0以上であることを前提に説明しています。

J
詳細ガイド

章目次
目 次
機能目次
索 引

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（📖28）、および『取り扱い上のご注意』（📖31）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



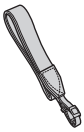
カメラ
（ボディキャップ付き）



バッテリーパック
LP-E17
（保護カバー付き）



充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E17



ストラップ

- メモリーカード（🕮11）、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- 詳細ガイド／使用説明書については、『使用説明書について』（🕮4）を参照してください。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（🕮4）。
- なお、レンズの使用説明書（PDFファイル）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラとWi-Fi機能の基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。
すべての使い方をまとめた「詳細ガイド」（本書／PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

詳細ガイド／各使用説明書のダウンロードについて

詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

- ダウンロードサイト
  - **詳細ガイド／補足情報**
    canon.jp/eos-manual
  - **レンズ使用説明書**
    canon.jp/lens-acc-manual
  - **ソフトウェア使用説明書**
    canon.jp/eos-sw-manual

- **PDFファイルを見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。**
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。
- ダウンロードしたPDFファイルをダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

QRコードから詳細ガイド／各使用説明書をダウンロード

スマートフォン、タブレット使用時は、QRコードから詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）をダウンロードすることができます。

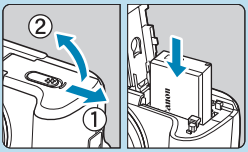
www.canon.com/icpd

- QRコード読み取りには、アプリケーションが必要です。
- お住まいの国または地域を選択し、詳細ガイド／各使用説明書をダウンロードします。
- 【：**使用説明書・ソフトウェアURL**】を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

すぐ撮影するには

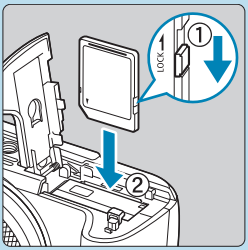
1



バッテリーを入れる（📖44）

- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください（📖42）。

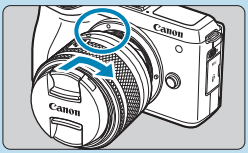
2



カードを入れる（📖44）

- カードの表を、カメラの表面側にして差し込みます。

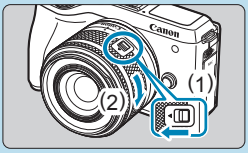
3



レンズを取り付ける（📖51）

- レンズとカメラの白いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。
- レンズキャップを外します。

4

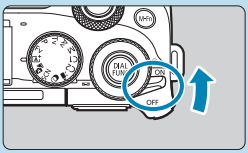


撮影の準備をする

- （1）を押したまま、（2）を少し回し、（1）を離します。
- 「カチッ」と音がするまで、さらに（2）を回します。

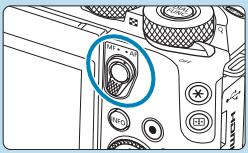
章目次
目 次
機能目次
索 引

5



電源スイッチを〈ON〉にする
(📖49)

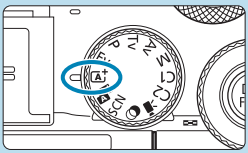
6



フォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

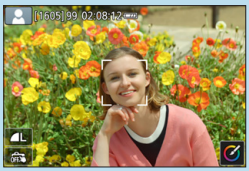
7



モードダイヤルを〈A+〉にする
(📖72)

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

8

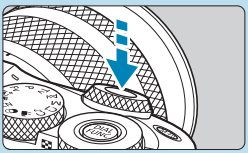


ピントを合わせる（📖60）

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム【 】が顔の部分に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

すぐ撮影するには

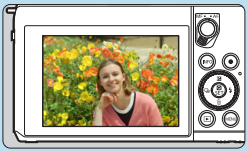
9



撮影する（📖60）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

10



画像を確認する

- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（📖306）。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像の再生』（📖306）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『画像消去』（📖329）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

本書について

本文中の絵文字について

〈 〉：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈 〉：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉：〈 〉十字キーの上下左右ボタンを示しています。
〈 〉：コントローラーホイールを示しています。
〈Q〉〈SET〉：クイック設定ボタン／設定ボタンを示しています。
*：操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

• その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用：ページタイトル右の応用は、応用撮影ゾーン（〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モード）および動画マニュアル露出撮影限定の機能であることを示しています。
***：参照ページを示しています。
：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
：補足説明や補足事項を記載しています。
：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
？：困ったときの手助けになる内容を記載しています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

本書について

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（🕮49）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ／EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（492）。

- **SD/SDHC/SDXCメモリーカード**
  UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適応する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは581を参照してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

章目次

はじめに 2

準備と基本操作 41

かんたん撮影ゾーン 71

応用撮影ゾーン 105

撮影 117

ストロボ撮影 285

再生 303

無線通信機能 377

機能設定 483

カスタム機能／マイメニュー 527

資料 551

章目次 目 次 機能目次 索 引

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書について 4
すぐ撮影するには 6
本書について 9
使用できるカードについて 11
章目次 12
目　次 13
機能目次 23
安全上のご注意 28
取り扱い上のご注意 31
各部の名称 34

準備と基本操作　41

バッテリーを充電する 42
バッテリーとカードを入れる／取り出す 44
モニターを使う 48
電源を入れる 49
レンズを取り付ける／取り外す 51
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す 53
電子ビューファインダー（別売）を使う 56
基本操作 59
メニュー機能の操作と設定 64
画面にタッチして操作する 68
クイック設定 69

章目次　目 次　機能目次　索 引

目 次

かんたん撮影ゾーン 71

シーンインテリジェントオートモード／
プラスムービーオートモード（全自動）..... 72
スペシャルシーンモード（SCN）..... 80
自分撮りモード..... 82
ポートレートモード..... 83
美肌モード..... 84
風景モード..... 85
スポーツモード..... 86
流し撮りモード..... 87
クローズアップモード..... 89
料理モード..... 90
夜景ポートレートモード..... 91
手持ち夜景モード..... 92
HDR逆光補正モード..... 93
〈SCN〉モードの注意事項..... 94
クリエイティブフィルターモード..... 98

応用撮影ゾーン 105

プログラムAEモード（P）..... 106
シャッター優先AEモード（Tv）..... 108
絞り優先AEモード（Av）..... 110
マニュアル露出モード（M）..... 112
フレキシブルAEモード（Fv）..... 114

章目次 目 次 機能目次 索 引

目 次

撮影 117

静止画撮影 118

メニュー目次：静止画撮影 119
記録画質 124
静止画アスペクト比 127
撮影画像の確認時間 129
レンズ光学補正 130
ドライブモード 135
セルフタイマー撮影 137
RAWバーストモード 139
露出補正 142
AEB設定 143
静止画ISO感度に関する設定 145
オートライティングオプティマイザ 151
高輝度側・階調優先 152
測光モード 153
測光タイマー 155
露出Simulation 156
ホワイトバランス 157
ホワイトバランス補正／ブラケット設定 162
色空間 164
ピクチャースタイルの選択 165
ピクチャースタイルの調整 168
ピクチャースタイルの登録 171

章目次
目 次
機能目次
索 引

目 次

長秒時露光のノイズ低減 173
高感度撮影時のノイズ低減 174
ダストデリートデータ取得 176
HDRモード 178
フォーカスブラケット撮影 182
タッチシャッター 186
シャッター方式 188
インターバルタイマー 189
長時間露光（バルブ）撮影 192
フリッカーレス撮影 195
AF動作 197
AF方式 200
瞳AF 211
コンティニュアスAF 213
タッチ＆ドラッグAF設定 214
レンズの電子式手動フォーカス 216
AF補助光の投光 217
手ブレ補正設定 218
露出の固定（AEロック） 219
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） 220
MFピーキング設定（輪郭強調） 222
フォーカスモードの切り換え 223
ダイジェスト形式 224
リモコン撮影 225
静止画撮影全般の注意事項 226

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影 229

メニュー目次：動画撮影 230
動画モード 234
HDR動画モード 241
動画記録画質 243
録音 250
タイムラプス動画 252
ビデオスナップ 263
ジオラマ風動画 268
動画電子IS 270
動画自動水平補正 272
動画サーボAF 273
その他のメニュー機能 278
動画撮影全般の注意事項 282

ストロボ撮影 285

内蔵ストロボ撮影 286
ストロボ機能の設定 291
外部ストロボ撮影 302

再生 303

メニュー目次：再生タブ 304
画像の再生 306
画像の拡大表示 309
インデックス表示（複数画像表示） 310

章目次
目 次
機能目次
索 引

目 次

動画の再生 311
動画の前後部分のカット 315
フレームの切り出し 317
ダイジェスト動画の編集 319
RAWバースト画像からの静止画の切り出し 321
テレビで見る 323
画像プロテクト 325
画像回転 328
画像消去 329
印刷指定 333
フォトブック指定 337
クリエイティブフィルター 340
RAW現像 343
クリエイティブアシスト 349
クイック設定からのRAW現像 351
赤目補正 352
アルバム編集 353
トリミング 356
リサイズ 358
レーティング 360
スライドショー 363
画像検索の条件設定 365
メイン電子ダイヤルでの画像送り 367
再生情報表示設定 369
ハイライト警告表示 371

章目次
目 次
機能目次
索 引

AFフレーム表示 372
再生時のグリッド 373
前回の画像から再生 374
拡大倍率設定（約） 375

無線通信機能 377

メニュー目次：無線タブ 378
Wi-Fi/Bluetooth接続の選択 379
スマートフォンと通信 381
パソコンとWi-Fi接続 410
プリンターとWi-Fi接続 418
Webサービスへ画像を送信 428
アクセスポイントを使用したWi-Fi接続 443
ワイヤレスリモコンと接続 448
2回目以降のWi-Fi接続 451
複数の接続設定の登録 453
Wi-Fi機能の設定 454
Bluetooth機能の設定 455
ニックネームの変更 456
スマートフォンを使用した位置情報の付加 457
接続設定の変更／削除 460
無線通信の設定初期化 462
情報表示画面 463
仮想キーボードの操作方法 464
エラー表示の対応 465

目 次

無線通信機能での注意事項 476
セキュリティーについて 478
ネットワークの設定を確認する 479
無線通信機能の接続状態 480

機能設定 483

メニュー目次：機能設定タブ 484
フォルダ選択 486
画像番号 488
縦位置画像回転表示 491
カード初期化 492
撮影モードガイド 494
機能ガイド 495
エコモード 496
節電 497
画面の明るさ 498
日付／時刻／エリア 499
言語 502
フォーカスモードスイッチ（AF/MF） 503
ビデオ方式 504
センサークリーニング 505
タッチ操作 509
電子音 510
HDMI出力解像度 511
HDMI HDR出力 512

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影時シャッターボタンの機能 513
撮影情報表示設定 514
撮影画面表示設定 517
ファインダー表示形式 517
表示先設定 518
鏡像表示 519
ヘルプ機能 520
カスタム撮影モード（C1, C2） 521
カメラの初期化 522
著作権情報 523
その他の情報 525

カスタム機能／マイメニュー 527

メニュー目次：カスタム機能タブ 528
カスタム機能の設定方法 529
カスタム機能で変更できる内容 530
カスタム機能の設定解除 544
メニュー目次：マイメニュータブ 545
マイメニューの登録 546

資料 551

ソフトウェア 552
パソコンへの画像の取り込み 554
カメラ内での充電 556
家庭用電源アクセサリー 557

目 次

故障かな？と思ったら 558
エラー表示 577
データシート 578
情報表示 585
索 引 598

章目次
目 次
機能目次
索 引

機能目次

電源

- バッテリー充電（📖42）
- バッテリー残量（📖50）
- エコモード（📖496）
- 節電機能（📖497）

カード

- カード初期化（📖492）
- 動画記録可能カード（📖581）

レンズ

- 取り付け（📖51、📖53）
- 取り外し（📖52、📖55）
- レンズなしレリーズ（📖543）

基本設定

- 日付／時刻／エリア（📖499）
- 言語（📖502）
- 電子音（📖510）
- カメラ設定初期化（📖522）
- 著作権情報（📖523）

モニター

- チルト（📖48）
- タッチ操作（📖68）
- 機能ガイド（📖495）
- 明るさ（📖498）
- 水準器（📖514）
- ヘルプ機能（📖520）

AF

- AF動作（📖197）
- AF方式（📖200）
- AFフレーム選択（📖205）
- 瞳AF（📖211）
- コンティニュアスAF（📖213）
- タッチ&ドラッグAF（📖214）
- 電子式手動フォーカス（📖216）
- AF補助光（📖217）
- 手動ピント合わせ（📖220）
- MFピーキング設定（📖222）

測光

- 測光モード（📖153）

ドライブ

- 連続撮影可能枚数（📖126）
- ドライブモード（📖135）
- セルフタイマー（📖137）

章目次
目 次
機能目次
索 引

機能目次

画像記録

- フォルダ作成／選択（📖486）
- 画像番号（📖488）

画質

- 記録画質（📖124）
- 静止画アスペクト比（📖127）
- レンズ光学補正（📖130）
- ISO感度（静止画）（📖145）
- オートライティングオプティマイザ（📖151）
- 高輝度側・階調優先（📖152）
- ホワイトバランス（📖157）
- 色空間（📖164）
- ピクチャースタイル（📖165）
- 長秒時露光ノイズ低減（📖173）
- 高感度時ノイズ低減（📖174）
- フリッカーレス撮影（📖195）

撮影

- 撮影モード（📖36）
- クイック設定（📖69）
- クリエイティブアシスト（📖78）
- クリエイティブフィルター（📖98）
- 被写界深度確認（📖111）
- RAWバーストモード（📖139）
- HDRモード（📖178）
- フォーカスブラケット（📖182）
- タッチシャッター（📖186）
- インターバルタイマー（📖189）
- バルブタイマー（📖193）
- 拡大表示（📖207）
- リモコン（📖225）
- リモートスイッチ（📖225）
- 撮影情報表示設定（📖514）
- グリッド（📖515）
- エラー表示（📖577）

露出

- 露出補正（M+ISOオート）（📖113）
- 露出補正（📖142）
- AEB（📖143）
- 露出Simulation（📖156）
- AEロック（📖219）
- セイフティシフト（📖533）

ストロボ

- 内蔵ストロボ（📖286）
- ストロボ調光補正（📖288）
- FEロック（📖289）
- 内蔵ストロボ機能設定（📖294）
- 外部ストロボ機能設定（📖296）
- 外部ストロボカスタム機能（📖300）
- 外部ストロボ（📖302）

動画撮影

- 自動露出撮影（📖234）
- マニュアル露出撮影（📖236）
- HDR動画（📖241）
- 動画記録サイズ（📖243）
- 録音（📖250）
- ウィンドカット（📖250）
- アッテネーター（📖251）
- マイク（📖251）
- タイムラプス動画（📖252）
- ビデオスナップ（📖263）
- 動画サーボAF（📖273）
- 動画サーボAFの被写体追従特性（📖275）
- 動画サーボAF時のAF速度（📖276）
- リモコン撮影（📖278）
- ISO感度（動画）（📖279）
- HDMI出力（📖280）
- オートスローシャッター（📖281）

機能目次

再生

- 撮影画像の確認時間（📖129）
- 1枚表示（📖306）
- タッチ再生（📖308）
- 拡大（📖309）
- インデックス表示（📖310）
- 動画再生（📖311）
- 動画前後カット（📖315）
- フレーム切り出し（4K）（📖317）
- 静止画切り出し（RAWバースト画像）（📖321）
- テレビで見る（📖323）
- プロテクト（保護）（📖325）
- 回転（📖328）
- 消去（📖329）
- レーティング（📖360）
- スライドショー（📖363）
- 画像検索の条件設定（📖365）
- 画像送り（ジャンプ表示）（📖367）
- 再生画像情報設定（📖369）
- ハイライト警告表示（📖371）
- AFフレーム表示（📖372）
- グリッド表示（📖373）
- HDMI出力解像度（📖511）
- HDR出力（📖512）
- 撮影情報表示（📖590）

画像加工

- クリエイティブフィルター（📖340）
- RAW現像（📖343）
- 赤目補正（📖352）
- ビデオスナップアルバム（📖353）
- JPEGトリミング（📖356）
- JPEGリサイズ（📖358）

印刷指定

- 印刷指定（DPOF）（📖333）
- フォトブック指定（📖337）

カスタマイズ

- カスタム撮影モード（📖521）
- カスタム機能（C.Fn）（📖528）
- 操作ボタンカスタマイズ（📖537）
- 操作ダイヤルカスタマイズ（📖542）
- マイメニュー（📖546）

章目次
目 次
機能目次
索 引

センサークリーニング／ダスト除去

- ダストデリートデータ取得（📖176）
- センサークリーニング（📖505）
- 手作業（📖507）

ソフトウェア

- ダウンロード／インストール（📖552）
- ソフトウェア使用説明書（📖553）

無線通信機能

- スマートフォンと通信（📖381）
- スマートフォンに画像を自動送信（📖396）
- EOS Utilityでカメラを操作（📖410）
- パソコンに画像を自動送信（📖415）
- Wi-Fi対応プリンターで印刷（📖418）
- Webサービスへ画像を送信（📖428）
- ワイヤレスリモコンと接続（📖448）
- 位置情報を画像に付加（📖457）
- 無線通信設定初期化（📖462）

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠警告　死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。

ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

- 指定外の電源は使わない。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。

光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。

感電の原因となります。

- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
  - 指定外の製品で使わない。
  - 熱したり、火中投入しない。
  - 指定外の製品で充電しない。
  - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 液漏れしたものは使わない。
  - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

章目次　目 次
機能目次　索 引

- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
  - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
  - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
  - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
  - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5℃～40℃の範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

安全上のご注意

⚠注意　傷害を負う可能性がある内容です。

●ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
●長い時間、ファインダーや画面を見続けない。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。
●ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
●製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
●ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
●レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。
けがやカメラの故障の原因となります。
●三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
●カメラを三脚につけたまま移動しない。
けがや事故の原因となります。
●製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。
●使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などで内蔵ストロボやシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

取り扱い上のご注意

- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
  なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニターについて

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

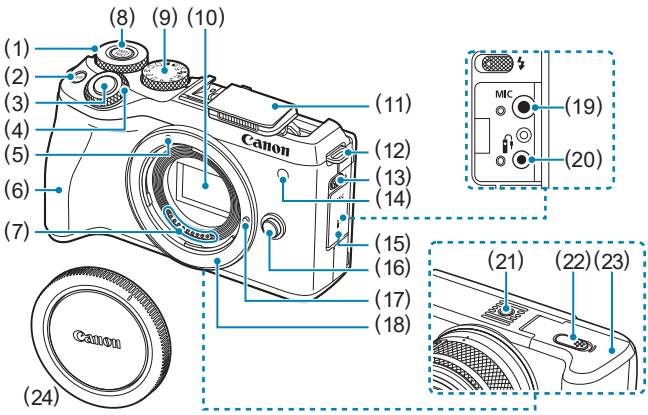
- 撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点(1）やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

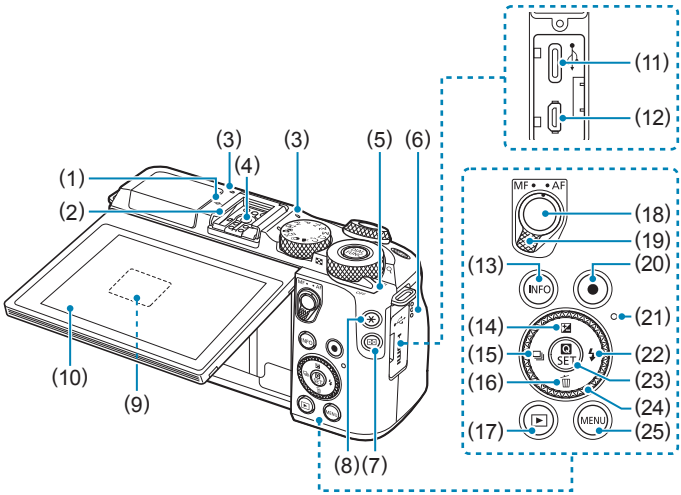


各部の名称



(1) 〈 〉サブ電子ダイヤル
(2) 〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
(3) シャッターボタン
(4) 〈 〉メイン電子ダイヤル
(5) EF-Mレンズ取り付け指標
(6) グリップ
(7) 接点
(8) 〈DIAL FUNC〉ダイヤルファンクションボタン
(9) モードダイヤル
(10) 撮像素子
(11) 内蔵ストロボ
(12) ストラップ取り付け部
(13) 〈 〉ストロボアップレバー
(14) AF補助光／赤目緩和／セルフタイマー／リモコンランプ
(15) 端子カバー
(16) レンズロック解除ボタン
(17) レンズロックピン
(18) レンズマウント
(19) 〈**MIC**〉外部マイク入力端子
(20) 〈 〉リモコン端子
(21) 三脚ねじ穴
(22) DCカプラーコード通し部
(23) カード／バッテリー収納部ふた
(24) ボディキャップ

章目次
目 次
機能目次
索 引

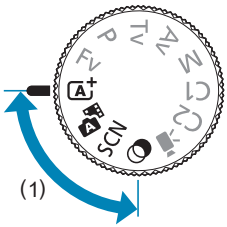


(1) 〈⊖〉撮像面マーク
(2) アクセサリーシュー
(3) マイク
(4) シンクロ接点
(5) 電源スイッチ
(6) スピーカー
(7) 〈⊞〉AFフレームボタン
(8) 〈✳〉AEロック／FEロックボタン
(9) シリアル番号（機番）
(10) モニター
(11) 〈•⇠〉デジタル端子
(12) 〈**HDMI OUT**〉HDMI出力端子
(13) 〈**INFO**〉インフォボタン
(14) 〈▲／⊠〉上／露出補正ボタン
(15) 〈◀／❑〉左／ドライブモードボタン
(16) 〈▼／🗑〉下／消去ボタン
(17) 〈▶〉再生ボタン
(18) AFスタートボタン
(19) フォーカスモードスイッチ
(20) 動画撮影ボタン
(21) アクセスランプ
(22) 〈▶／ϟ〉右／ストロボボタン
(23) 〈Q／**SET**〉クイック設定／設定ボタン
(24) 〈✥／✺〉十字キー／コントローラーホイール
(25) 〈**MENU**〉メニューボタン

各部の名称

モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンと、動画撮影モードがあります。



(1) かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

／ ：**シーンインテリジェントオート／プラスムービーオート**（📖72）

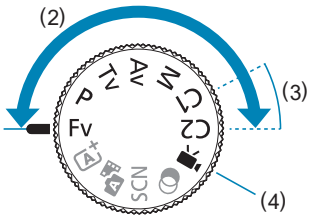
SCN：**スペシャルシーン**（📖80）

	自分撮り（📖82）		クローズアップ（📖89）
	ポートレート（📖83）		料理（📖90）
	美肌（📖84）		夜景ポートレート（📖91）
	風景（📖85）		手持ち夜景（📖92）
	スポーツ（📖86）		HDR逆光補正（📖93）
	流し撮り（📖87）		

：**クリエイティブフィルター**（📖98）

	ラフモノクロ（📖100）		ジオラマ風（📖101）
	ソフトフォーカス（📖100）	HDR	HDR絵画調標準（📖101）
	魚眼風（📖100）	HDR	HDRグラフィック調（📖101）
	水彩風（📖100）	HDR	HDR油彩調（📖101）
	トイカメラ風（📖100）	HDR	HDRビンテージ調（📖101）

章目次
目 次
機能目次
索 引



(2) 応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

Fv	フレキシブルAE（📖114）
P	プログラムAE（📖106）
Tv	シャッター優先AE（📖108）
Av	絞り優先AE（📖110）
M	マニュアル露出（📖112）

(3) カスタム撮影モード

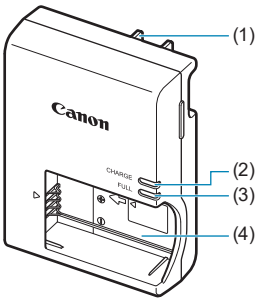
撮影モード〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉やAF動作、メニュー機能などを、〈**C1**〉〈**C2**〉に登録することができます（📖521）。

(4) 🎥：動画撮影（📖234）

各部の名称

バッテリーチャージャーLC-E17

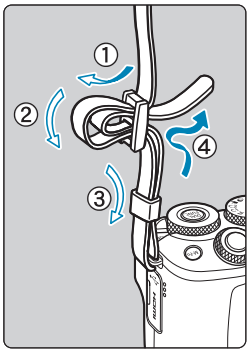
バッテリーパックLP-E17の充電器です（42）。



(1) 電源プラグ
(2) 充電ランプ
(3) 充電完了ランプ
(4) バッテリー取り付け部

章目次
目 次
機能目次
索 引

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

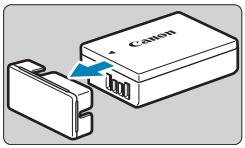
章目次
目 次
機能目次
索 引

準備と基本操作

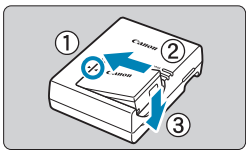
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

バッテリーを充電する

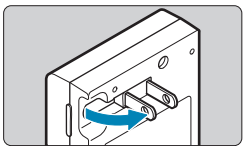


1 付属の保護カバーを外す

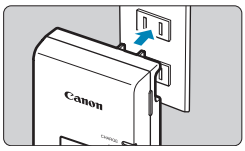


2 バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす



4 電源プラグをコンセントに差し込む

- 自動的に充電が始まり、充電ランプ（1）がオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプ（2）が緑色に点灯します。
- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。**なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
  充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていきます。
- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**
- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
  バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です**
  新しいバッテリーをお買い求めください。

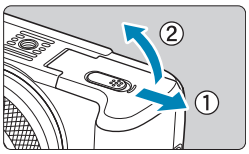
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- 付属の充電器は、バッテリーパックLP-E17以外は充電できません。

バッテリーとカードを入れる／取り出す

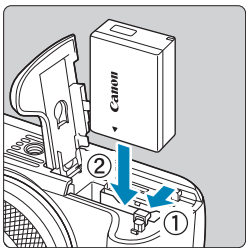
充電したバッテリーパックLP-E17をカメラに入れます。

- カードの書き込み禁止スイッチ（1）が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方

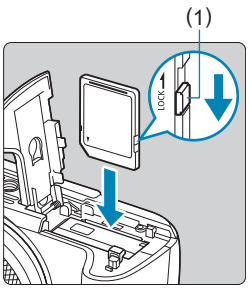


1 カード／バッテリー収納部ふたをスライドして、ふたを開ける



2 バッテリーを入れる

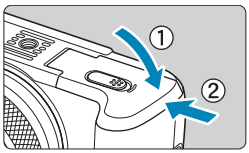
- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 カードを入れる

- 図のように、カードの表をカメラの表面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

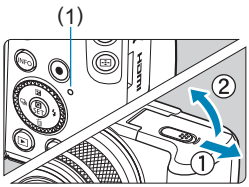


4 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

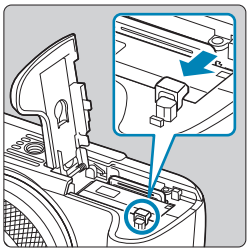
- バッテリーパックLP-E17以外は使用できません。
- カード／バッテリー収納部ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

取り出し方



1 カード／バッテリー収納部ふたを開ける

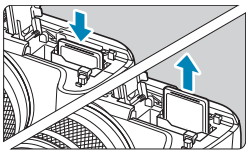
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプ（1）が消えていることを確認して、ふたを開きます。**
- モニターに［書き込み中...］と表示されたときは、ふたを閉じてください。



2 バッテリーを取り出す

- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー（付属／📖42）を取り付けてください。

バッテリーとカードを入れる／取り出す



3 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。

4 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（📖492）。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。

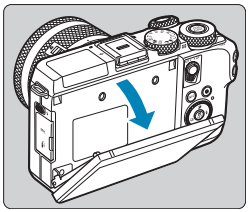
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **カードを取り出す**
  - **バッテリーを取り出す**
  - **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **電源コードの抜き差しを行う**（家庭用電源アクセサリー（別売）使用時）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（📖488）。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（📖492）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。
- UHS-II対応のmicroSDHC/SDXCカードと、（microSDカードからSDカードへの）変換アダプターの組み合わせによる使用はおすすめできません。UHS-II対応カードを使用するときは、UHS-IIに対応したSDHC/SDXCカードの使用をおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

モニターを使う

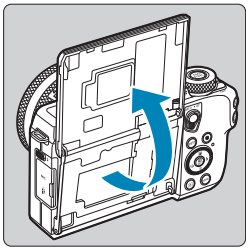
モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

下向きに開く



- 画面の上部を手前に引き下げます。
- 約45°まで開くことができます。

上向きに開く

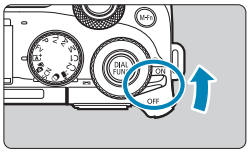


- 画面を持ち上げ、約180°まで開くことができます。
- 撮影モードで画面を開いてレンズ側に向けると、画像が鏡像（左右反転）で表示されます。

- カメラを使わないときは、閉じた状態で保管してください。
- 画面は、故障の原因となるため無理に広げないでください。

章目次 目 次
機能目次 索 引

電源を入れる



- 〈ON〉
  カメラが作動します。
- 〈OFF〉
  カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

日付／時刻／エリアの設定

電源スイッチを入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、📖499を参照して日付/時刻/エリアを設定してください。

表示言語の変更

表示言語を変更するときは、📖502を参照してください。

撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈ON〉または〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます(小さな音が鳴ることがあります)。清掃中は、モニターに［ ］が表示されます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、［ ］が表示されないことがありますが、故障ではありません。

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、**［書き込み中...］**が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

電源を入れる

バッテリー残量表示



：バッテリーの残量は十分です。
：バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
：まもなくバッテリー切れになります。（点滅表示）
：バッテリーを充電してください。

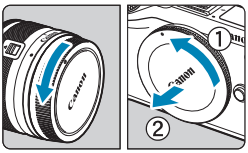
- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

レンズを取り付ける／取り外す

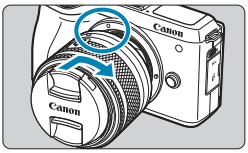
このカメラでは、EF-Mレンズを使用できます。また、別売のマウントアダプター EF-EOS Mを使用すると、EFレンズ、EF-Sレンズも使用できます。

取り付け方



1 キャップを外す

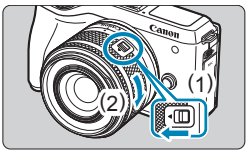
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの白いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズキャップを外す



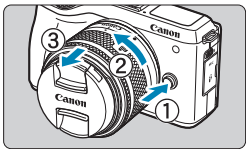
4 撮影の準備をする

- （1）を押したまま、（2）を少し回し、（1）を離します。
- 「カチッ」と音がするまで、さらに（2）を回します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

レンズを取り付ける／取り外す

取り外し方

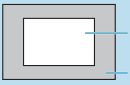


レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

- **撮影画角について**
  - 撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



- レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください（📖4）。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

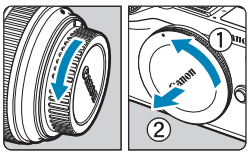
レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

章目次
目 次
機能目次
索 引

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す

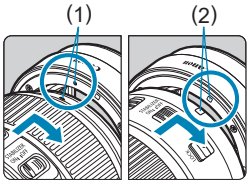
別売のマウントアダプター EF-EOS Mを使用すると、EFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。

取り付け方



1 キャップを外す

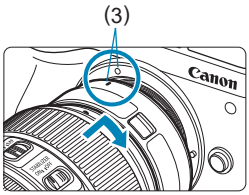
- レンズとアダプターとボディのキャップを外します。



2 アダプターにレンズを取り付ける

- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

(1) 赤い指標
(2) 白い指標

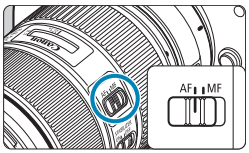


3 カメラにアダプターを取り付ける

- アダプターとカメラの白いレンズ取り付け指標（3）を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す



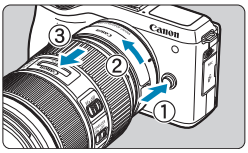
4 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

5 レンズキャップを外す

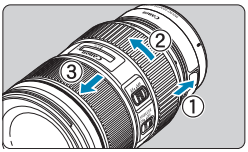
章目次
目 次
機能目次
索 引

取り外し方



1 レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。



2 レンズをアダプターから取り外す

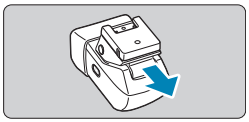
- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにキャップを取り付けます。

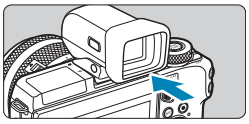
- レンズに関する注意事項は、📖52をご確認ください。
- EFレンズ、EF-Sレンズを取り付けたときは、カメラのフォーカスモードスイッチは無効になります。
- カメラより重いレンズを使うときは、レンズ側を支えて、持ち運んだり、撮影してください。
- 超望遠レンズなど、三脚座が付いたEFレンズを使うときは、レンズの三脚座に三脚を取り付けてください。三脚座がないレンズは、マウントアダプターの三脚座に三脚を取り付けてください。

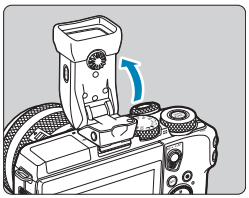
章目次
目 次
機能目次
索 引

電子ビューファインダー(別売)を使う

電子ビューファインダー（別売）を使うと、被写体をしっかりとらえて撮影しやすくなります。
なお、電子ビューファインダーを使うと、カメラ背面の画面（液晶モニター）を使ったときよりも撮影できる枚数や時間が少なくなります。







1 カメラの電源を切る

2 アクセサリーシューに電子ビューファインダーを取り付ける

- アクセサリーシューのキャップを外します。
- 電子ビューファインダーのカバーを外します。
- アクセサリーシュー（📖35）に電子ビューファインダーを図のようにカチッとなるまで差し込みます。

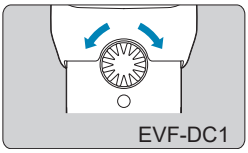
3 電子ビューファインダーの角度を調節する

- 撮影シーンや目的に応じて、電子ビューファインダーの角度を約90度まで変えられます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

4 カメラの電源を入れて、画面または電子ビューファインダーの表示を切り換える

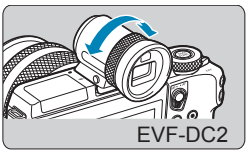
- 電子ビューファインダーに目を近づけるとファインダーが表示され、カメラの画面は消えます。
- 目を離すとファインダーの表示が消え、カメラの画面が表示されます。



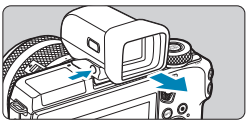
EVF-DC1

5 視度を調節する

- 電子ビューファインダーの表示がはっきり見えるようにダイヤルを回します。



EVF-DC2



6 カメラから取り外す

- 使い終わったら、カメラの電源を切り、電子ビューファインダーの〈UNLOCK〉ボタンを押しながら外します。
- 電子ビューファインダーを使用しないときは、カメラから取り外して保管してください。

電子ビューファインダー（別売）を使う

- 電子ビューファインダーとカメラの画面を同時に表示することはできません。
- 電子ビューファインダー表示中は、カメラの画面のタッチ操作はできません。

- 電子ビューファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 縦横比（📖127）の設定によっては、左右または上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。
- 電子ビューファインダーの〈◧〉ボタンを押して表示先を切り換えることもできます。
- **[🔧:表示先設定]**を選び、**[表示先切り換え]**を**[マニュアル]**にしたあと、**[マニュアル表示先]**を**[ファインダー]**にすると、目を離してもカメラの画面には表示されないので、電子ビューファインダーの〈◧〉ボタンを押して表示させてください。
- **[🔧：撮影情報表示設定]**を選んでから**[ファインダー縦表示]**を**[切]**にすると、カメラを縦位置で構えても撮影情報の画面表示が変わらなくなります。
- 電子ビューファインダーとカメラの画面の明るさ（📖498）は、それぞれに設定できます。
- **[🔧:ファインダー表示形式]**を**[表示2]**にすると、撮影画面を縮小して表示できます。
- EVF-DC2は角度を調整することはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

基本操作

カメラの構え方

モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくは📖48を参照してください。


通常のアングル


ローアングル

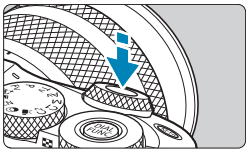

ハイアングル

章目次
目 次
機能目次
索 引

基本操作

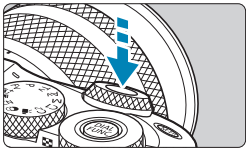
シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニターに8秒間（測光タイマー）*表示されます。
* 測光タイマーの初期値は8秒です。



全押し

撮影されます。

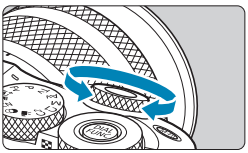
- **手ブレしにくい撮影のしかた**

  手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。
  - カメラが動かないようしっかり構える。
  - シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

章目次
目 次
機能目次
索 引

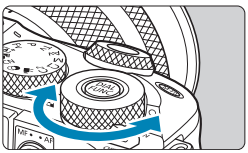
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

〈 〉メイン電子ダイヤル



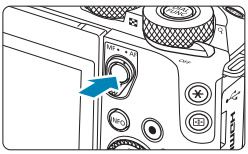
モニターを見ながら〈 〉を回します。シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

〈 〉サブ電子ダイヤル



モニターを見ながら〈 〉を回します。再生画像を拡大表示したり、インデックス表示したりすることができます。

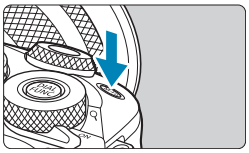
AFスタートボタン



応用撮影ゾーンのときは、シャッターボタンの半押しと同じ操作を行うことができます。

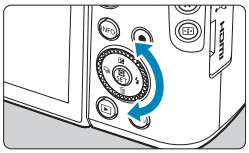
基本操作

〈M-Fn〉マルチファンクションボタン



〈M-Fn〉ボタンを押したあと〈 〉を回すと、ISO感度を設定することができます。

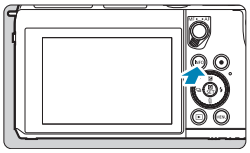
〈 〉コントローラーホイール



コントローラーホイールを回すと、項目を選んだり画像の切り換えなどができます。また、一部の操作を除き、〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉と同じ操作ができます。
よく使う機能を割り当てることもできます(📖542)。

章目次
目 次
機能目次
索 引

INFOボタン

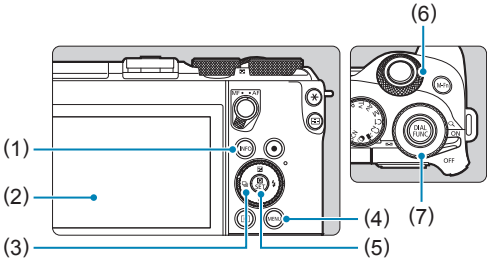


〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。



章目次
目 次
機能目次
索 引

メニュー機能の操作と設定



(1) 〈INFO〉ボタン
(2) モニター
(3) 〈✥〉十字キー／コントローラーホイール
(4) 〈MENU〉ボタン
(5) 〈SET〉ボタン
(6) メイン電子ダイヤル
(7) サブ電子ダイヤル

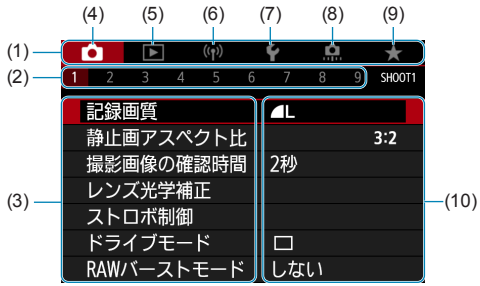
かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



* かんたん撮影ゾーンのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

応用撮影ゾーンのメニュー画面



(1) メインタブ	(6) (( )) : 無線機能
(2) サブタブ	(7) : 機能設定
(3) メニュー項目	(8) : カスタム機能
(4) : 撮影	(9) ★ : マイメニュー
(5) : 再生	(10) 設定内容

メニュー機能の設定操作



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- 〈INFO〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈 〉を回してサブタブを選びます。

メニュー機能の操作と設定



3 項目を選ぶ

- 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を選ぶ

- 〈 〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

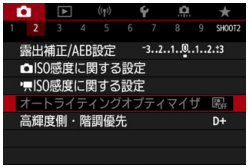
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり、〈✥〉十字キーやコントローラーホイールでメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

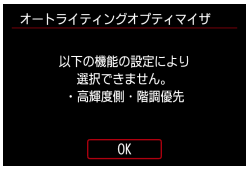
章目次 目 次
機能目次 索 引

メニュー項目の灰色表示

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈**SET**〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。
優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

- **[：カメラの初期化]**の**[基本設定]**でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（522）。

画面にタッチして操作する

カメラのモニター（タッチパネル）は、指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）



- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば【Q】をタッチすると、クイック設定の状態になります。【↩】をタッチすると、元の画面に戻ります。

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



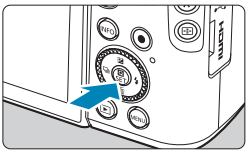
- モニターに指を触れたまま動かします。

- 【：電子音】を【タッチ音切】に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります（📖510）。
- タッチしたときの反応を設定することができます（📖509）。

章目次 目 次
機能目次 索 引

クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。この操作を「クイック設定」といいます（〈A+〉モードを除く）。



1 〈Q〉ボタンを押す（⏲10）

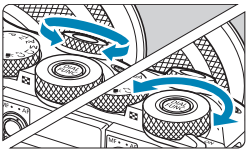


2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して選びます。



- 左の画面が表示されているときは、〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉を押して選びます。



3 内容を選ぶ

- 〈 〉または〈 〉を回すか、〈◄〉〈►〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。

● 画面にタッチしてクイック設定を行うこともできます（📖68）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

章目次
目 次
機能目次
索 引

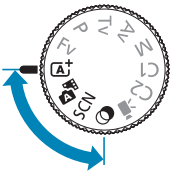
かんたん撮影ゾーン

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。
「かんたん撮影ゾーン」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。









章目次
目 次
機能目次
索 引

シーンインテリジェントオートモード／プラスムービーオートモード(全自動)

〈A+〉〈🎥〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます。
また、〈🎥〉モードでは、静止画を撮影するだけで、静止画が記録されると同時に撮影直前の約2～4秒のシーンも動画として記録され、1日をまとめた短編動画（ダイジェスト動画）ができます（224、319）。



1 モードダイヤルを〈A+〉または〈🎥〉にする



2 〈SET〉を押す

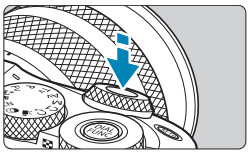
- メッセージを確認して [OK] を選びます。



3 カメラを被写体（写したいもの）に向ける

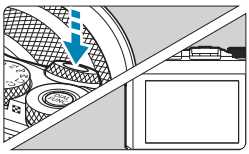
- 撮影条件により、被写体に枠が表示されることがあります。
- 人の顔を検知したときは、顔にAFフレームが表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- **[ϟ]** が点滅するときは、〈ϟ〉レバーを操作して内蔵ストロボを上げてください。
- **[📷:コンティニュアスAF] [しない]** 設定時は、画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることもできます。（＝タッチAF）
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光（📖217）が自動投光されます。
- 止まっている被写体のときは、ピントが合うと、AFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。（＝ワンショットAF／〈A+〉のみ）
- 動いている被写体のときは、AFフレームが青色で表示され（〈A+〉のみ）、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます。電子音は鳴りません。（＝サーボAF）



5 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 画面に撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボを収納するときは、手で押し下げます。

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

シーンインテリジェントオートモード／プラスムービーオートモード（全自動）

- AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。ワンショットAFに自動設定されても、シャッターボタン半押し中に、被写体が動いたと判断したときは、サーボAFに切り換わります（〈[A+]〉のみ）。
- 〈[A+]〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影ゾーン（📖37）にして、【[SCN]】以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（📖165）。

[movie]：プラスムービーオート

- 静止画を撮影する約4秒前からカメラを被写体に向けておくと、ダイジェスト動画もきれいに撮影できます。
- 静止画と一緒にダイジェスト動画が撮影されるため、〈[A+]〉モードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- 電源を入れたり〈[movie]〉モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、ダイジェスト動画が記録されないことがあります。
- ダイジェスト動画には、カメラやレンズを操作したときの音と振動が記録されます。
- ダイジェスト動画の画質は、【[FHD 29.97P]】（NTSC時）または【[FHD 25.00P]】（PAL時）です。ビデオ方式の設定によって異なります。
- シャッターボタンを半押ししたときやセルフタイマーなどの電子音は鳴りません。
- 次のときは、同じ日に〈[movie]〉モードで作成されたダイジェスト動画でも、別ファイルとして保存されます。
  - ダイジェスト動画の記録時間が約29分59秒になったとき（ダイジェスト動画の容量が約4GBを超えたときも、別ファイルとして保存されることがあります）
  - ダイジェスト動画を保護したとき
  - サマータイムの設定、ビデオ方式、エリア設定を変えたとき
- 記録されるシャッター音は、変えたり消すことはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ブレの少ない画像の撮影

- （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
- リモートスイッチ（別売／📖225）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／📖225）などの使用をおすすめします。

こんなときは

- **ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯する）**

  明暗差（コントラスト）のある部分にカメラを向けてシャッターボタンを半押ししてください（📖60）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **複数のAFフレームが同時に表示される**

  複数のAFフレームが同時に表示されたときは、表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体にAFフレームが表示されているときは、そのまま撮影してください。

- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない**

  フォーカスモードがMFになっているときは、AFにしてください。

- **シャッタースピード（数字）が点滅している**

  光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EL／EXスピードライト（別売／📖302）を使用して撮影することをおすすめします。

- **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**

  レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

シーンインテリジェントオートモード／プラスムービーオートモード（全自動）

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。
止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

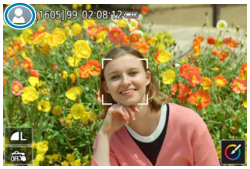
動いているものを撮影する（〈A+〉のみ）



シャッターボタンを半押しし、青いAFフレームが表示されたときは、カメラが被写体の動きを認識し、サーボAFでピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

シーン判別アイコンについて



カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、📖589を参照してください。

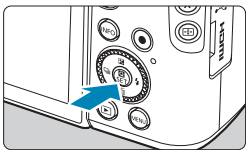
画面をタッチして設定を変更する



アイコンにタッチして、設定を変更することができます。

シーンインテリジェントオートモード／プラスムービーオートモード（全自動）

効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）



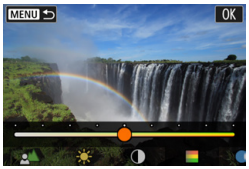
1 〈Q〉ボタンを押す

- メッセージを確認して［OK］を選びます。



2 効果を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で効果を選び、〈SET〉を押します。



3 効果の度合い・内容を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で設定し、〈SET〉を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈✱〉ボタンを押して［OK］を選びます。

クリエイティブアシストの効果

- ［プリセット］
  用意された効果の中から選ぶことができます。
  ［B&W］を設定したときは［鮮やかさ］［色あい1］［色あい2］は選べません。
- ［背景ぼかし］
  背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。［オート］に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ（F値）によっては、設定できない位置があります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- **[☀] 明るさ**
  画像の明るさを設定することができます。
- **[◑] コントラスト**
  コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。
- **[目] 鮮やかさ**
  色の鮮やかさを設定することができます。
- **[CC] 色あい1**
  アンバーとブルーの色あいを設定することができます。
- **[CC] 色あい2**
  グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。
- **[色] モノクロ**
  モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。**[切]** を設定したときはカラーで撮影されます。**[切]** 以外を設定したときは **[鮮やかさ]** **[色あい1]** **[色あい2]** は選べません。

- ストロボ撮影時、**[背景ぼかし]** は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、**[📷：クリエイティブアシスト設定記憶]** を **[する]** に設定しておくと、設定が保持されます。

効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、クリエイティブアシストの設定画面で〈INFO〉ボタンを押して **[OK]** を選びます。最大3つまで **[プリセット]** の **[USER*]** に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、**[USER*]** のいずれかを上書きする必要があります。

スペシャルシーンモード(SCN)

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。
*〈**SCN**〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。



1 モードダイヤルを〈**SCN**〉にする



2 〈SET〉を押す



3 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して撮影モードを選び、〈SET〉を押します。

- 各撮影モードの注意事項は、まとめて記載しています（🕮94）。注意事項を読んでから撮影してください。

- **[撮影モードガイド]** を **[表示しない]** に設定しているときは、手順2のあと、クイック設定画面が表示されます。〈◄〉〈►〉を押して撮影モードを選びます。
- 思いどおりの効果が得られないことがあるため、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

SCNモードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	自分撮り	82
	ポートレート	83
	美肌	84
	風景	85
	スポーツ	86
	流し撮り	87

撮影モード		参照頁
	クローズアップ	89
	料理	90
	夜景ポートレート	91
	手持ち夜景	92
	HDR逆光補正	93

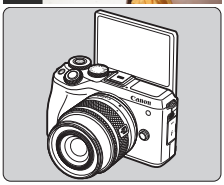
● 撮影モードは、モードダイヤルを〈**SCN**〉に合わせたあと、[**📷：撮影モード**]から設定することもできます。

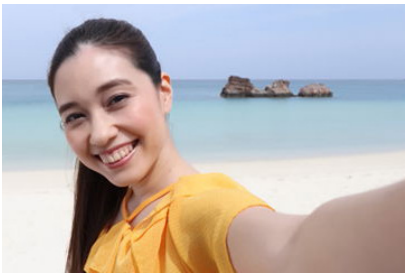
章目次
目 次
機能目次
索 引

自分撮りモード

自分撮りをするときは、【🤳】（自分撮り）を使用します。モニターをレンズ側に向けます。画像処理によって肌がなめらかに見えるよう美肌の効果をかけるほか、明るさや背景を自分好みに設定し、自分が浮き立つような画像にすることができます。







撮影のポイント

- **明るさや美肌効果を設定する**

  [明るさ]や**[美肌効果]**を5段階から選ぶことができます。**[背景]**で背景のぼかし具合も設定できます。

- **画面をタッチして撮影する**

  シャッターボタン全押しだけでなく、【📷】にタッチして【📷】（タッチシャッター：する）に設定すると、画面にタッチして撮影することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ポートレートモード

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、[🎭]（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。





撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**

  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、[📷:瞳AF]［する］に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

- **連続撮影する**

  初期状態では、[🖳]（低速連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

美肌モード

人物の肌をきれいに写したいときは、【】（美肌）を使用します。画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかけることができます。





撮影のポイント

- **顔の大きさを調整する**

  美肌効果をかける主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう大きさを調整すると、効果的に美肌効果をかけることができます。

- **顔にピントを合わせる**

  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、**【:瞳AF】【する】**に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

風景モード

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、[🏞]（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。





撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

- **夜景を撮影するときは**

  [🏞]でカメラを手に持って撮影すると、手ブレしますので、三脚を使用してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

スポーツモード

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、[🏃]（スポーツ）を使用します。



(1)



撮影のポイント

- **望遠レンズを使用する**

  遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。

- **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

  初期状態では、[📷:AF方式]は[🏃+追尾優先AF]に設定されています。シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム（1）が表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

- **連続撮影する**

  初期状態では、[🖳H]（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

流し撮りモード

被写体の背景が流れるようなスピード感のある写真を撮りたいときは、[流し撮り]（流し撮り）を使用します。[流し撮り]モードに対応しているレンズを使用すると、被写体のブレを検出して補正が行われるため、被写体ブレを軽減することができます。

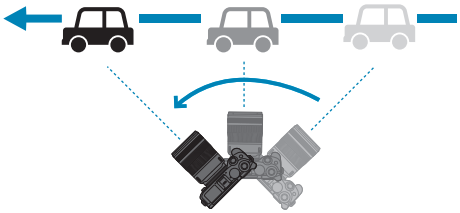




撮影のポイント

- **被写体に合わせてカメラを動かす**

  動いている被写体を追いかけるように、カメラを滑らかに動かして撮影します。動いている被写体のピントを合わせたい位置にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押ししたまま、被写体の速度に合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを全押しします。その後も被写体の動きに合わせてカメラを動かします。



章目次
目 次
機能目次
索 引

流し撮りモード

- **背景を流す効果の度合いを設定する**

  [流し効果] で「背景が流れたように写る度合い」を設定することができます。**[大]** にすると、シャッタースピードが遅くなり、被写体の背景がより流れたような写真になります。なお、被写体ブレが目立つときは、**[流し効果]** を **[中]** または **[小]** に変更すると、被写体のブレが軽減されます。

- **連続撮影する**

  初期設定では、**[🖳]**（連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのまま被写体の動きに合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われます。

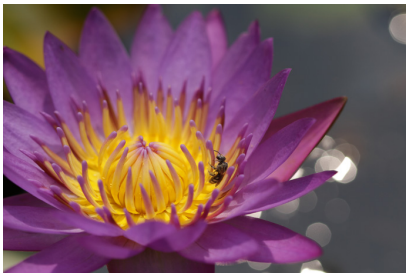
- **[📶]** モードに対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- **[📶]** モードに対応したレンズを使用したときは、レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、被写体のブレに対する補正と、**[流し効果]** の設定に応じたシャッタースピードの自動調整が行われます。
- AF方式は、**[1点AF]** **[ゾーンAF]** のみ設定できます。初期設定は **[ゾーンAF]** の設定で、画面中央のゾーンが選択された状態になっています。
- 手ブレしないように脇をしっかり締め、カメラを両手で構え、被写体の動きに合わせてカメラを滑らかに動かして撮影することをおすすめします。
- 電車や車など、同じ方向に一定の速度で動く被写体を撮影すると、より効果が発揮されます。
- テスト撮影を行ったり、撮影直後に画像を再生して、撮影結果を確認することをおすすめします。
- 望遠レンズを使用するときは手ブレや被写体ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚や一脚の使用をおすすめします。
- **[📶]** モードは、最高約4.0コマ/秒で連続して撮影が行われます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

クローズアップモード

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、【🌷】（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。





撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
  背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- **写したいものにできるだけ近づく**
  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。
- **ズームレンズは望遠側にする**
  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

料理モード

料理を撮りたいときは、【🍴】（料理）を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。





撮影のポイント

- **色あいを変える**

  [色あい]を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは**【暖色】**側に、赤みが強すぎるときは**【寒色】**側に設定を変更して撮影してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

夜景ポートレートモード

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、【🌃】（夜景ポートレート）を使用します。なお、**撮影には内蔵ストロボまたは外部ストロボが必要です。**三脚の使用をおすすめします。





撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

- **画像の明るさを確認する**

  撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

- **他の撮影モードでも撮影しておく**

  ブレた写真になりやすいので、〈🅰+〉モードでも撮影しておくことをおすすめします。

- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

手持ち夜景モード

[📷]（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。





撮影のポイント

- **カメラをしっかり構える**

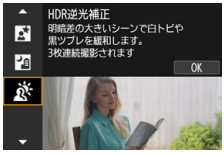
  撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

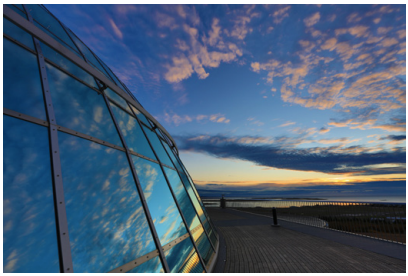
章目次
目 次
機能目次
索 引

HDR逆光補正モード

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、【🏞】（HDR逆光補正）を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

*「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。





撮影のポイント

- **カメラをしっかり構える**

  撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

〈SCN〉モードの注意事項

：自分撮り

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 【 】モードで設定した【美肌効果】は、【 】モードには反映されません。
- ストロボモードを【 】にしてストロボを上げているときは、【背景ぼかし:オート】に固定されます。

：美肌

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 【 】モードで設定した内容は、【 】モードの設定には反映されません。

：風景

- ストロボ撮影はできません。

：スポーツ

- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- 内蔵ストロボは発光しません。外部ストロボを使用したときは、連続撮影速度が低下します。

：流し撮り

- シャッタースピードが遅くなります。そのため、流し撮り以外の撮影には適していません。
- 初期状態では【 】に設定されます。なお、【 】【 】は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 【 】モードに対応しているレンズで撮影を行ったときに、レンズの手ブレ補正効果は、撮影した画像には反映されますが、撮影時の画面では確認できません（レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、撮影する瞬間だけ手ブレ補正機能、および被写体のブレに対する補正機能が作動します）。
- 【 】モードに対応していないレンズで撮影すると、被写体のブレに対する補正は行われませんが、【流し効果】の設定に応じたシャッタースピードの自動調整のみ行われます。
- （夏の晴天下など）明るい場所で撮影したときや、遅い被写体を撮影したときは、設定した量の流し効果が得られないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

：流し撮り（続き）

- [ ] モードに対応したレンズを使用して、次のような被写体を撮影したときや、次のような撮影条件のときは、被写体のブレの補正が適切に行われないことがあります。
  - 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  - 暗い場所にある被写体
  - 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  - 繰り返し模様の被写体
  - 模様が少ない被写体や、単調な模様の被写体
  - 写り込みがある被写体（ガラスに反射した像など）
  - ゾーンAFフレームよりも小さい被写体
  - ゾーンAFフレームの中に動いている被写体が2つ以上あるとき
  - 移動方向や速度が不規則な被写体
  - 不規則な動きが含まれている被写体（走っている人の上下運動など）
  - 速度変化が大きい被写体（動き出し直後や、カーブを曲がっているなど）
  - カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
  - 被写体の動きにカメラの動かし方が合っていないとき
  - レンズの焦点距離が長いとき

：料理

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、**[色あい]**が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

〈SCN〉モードの注意事項

：夜景ポートレート

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、フォーカスモードをMFにして手動でピントを合わせてください（🕮7、🕮54）。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、フォーカスモードをMFにして手動でピントを合わせてください（🕮7、🕮54）。
- 画面に表示される映像は、撮影した画像と完全には同じになりません。
- ストロボ発光時に、露出オーバーで適正露出が得られないときは、自動的にシャッタースピードやISO感度が変わって白トビを軽減し、適正露出で撮影します。使用するレンズによって、ストロボ撮影時は、シャッターボタンを半押ししたときに画面に表示されるシャッタースピードやISO感度とは異なる設定で撮影されることがあります。このとき、ストロボ光の届かない背景部分の明るさが変化することがあります。

：手持ち夜景

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、フォーカスモードをMFにして手動でピントを合わせてください（🕮7、🕮54）。
- 画面に表示される映像は、撮影した画像と完全には同じになりません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

🤳：手持ち夜景（続き）

- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は【BUSY】が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

：HDR逆光補正

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は【BUSY】が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

クリエイティブフィルターモード

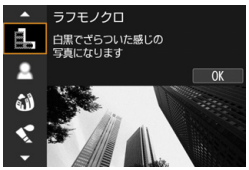
フィルター効果を付けた画像を撮影することができます。撮影前にフィルター効果を確認することができます。



1 モードダイヤルを〈◎〉にする



2 〈SET〉を押す



3 フィルター効果を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉でフィルター効果（📖100～📖101）を選び〈SET〉を押します。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。



4 効果を調整して撮影する

- 〈Q〉ボタンを押し、[クリエイティブフィルター]の下のアイコンを選びます（🖷、HDR、HDR、HDR、HDRを除く）。
- 〈◄〉〈►〉で効果を調整し、〈SET〉を押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、L の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 設定時は、連続撮影は設定できません。
- [ ] で撮影した画像には、ダストデリートデータ（176）は付加されません。

- [ ] のときは、モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- [ ] [ ] のときは、モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- 応用撮影ゾーンのときは、クイック設定で [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] を設定することができます。
- 思いどおりの効果が得られないことがあるため、事前に試し撮りすることをおすすめします。

クリエイティブフィルターモード

各クリエイティブフィルターの特徴

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AFフレームは、中央1点固定になります。
- **水彩風**
  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- **ジオラマ風**

  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は『ジオラマ風の操作』（103）を参照してください。AF方式は1点AFになります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。

- **HDR絵画調標準**

  白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **HDRグラフィック調**

  [HDR絵画調標準]よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **HDR油彩調**

  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

- **HDRビンテージ調**

  鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

- **[HDR] [HDR] [HDR] [HDR]**は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。102の注意事項を参照してください。

クリエイティブフィルターモード

［HDR］［HDR］［HDR］［HDR］の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- フィルター効果の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は［BUSY］が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ジオラマ風の操作





1 AFフレームを移動する

- 〈⊞〉ボタンを2回押すとAFフレームがオレンジ色に変わり、移動させることができます。
- 〈✥〉十字キーで、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。

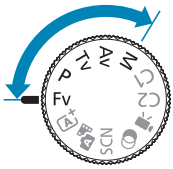
2 ジオラマ枠を移動する

- AFフレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させてAFフレームの位置に合わせます。
- 〈⊞〉ボタンを押すか画面右下の［✥］をタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動させることができます。
- ［⿻］をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- ジオラマ枠が横向きの場合は〈◄〉〈►〉、縦向きの場合は〈▲〉〈▼〉でも、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で、ジオラマ枠が移動します。〈INFO〉ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。

3 撮影する

章目次
目 次
機能目次
索 引

応用撮影ゾーン



応用撮影ゾーンでは、シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- モードダイヤルを回したあとに、撮影モードの説明が表示されたときは、〈SET〉を押すと説明が消えます（📖494）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

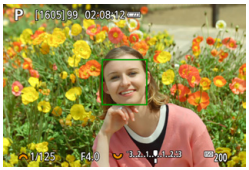
プログラムAEモード(P)

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

*〈**P**〉はProgram（プログラム）の略です。
*「AE」はAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

3 表示を確認して撮影する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

- シャッタースピードの「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッタースピードの「**1/4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

〈P〉と〈A+〉モードの違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF方式や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF方式や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- シャッターボタンを半押ししてから〈 〉を回すと、同じ露出のままでシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

シャッター優先AEモード(Tv)

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

*〈**Tv**〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



流動感のある写真
（遅いスピード：1/30秒）



動きを止めた写真
（速いスピード：1/2000秒）



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

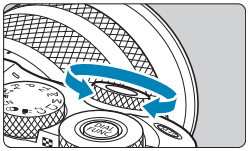


2 シャッタースピードを設定する

- 〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈◠〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。
- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈◠〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

シャッタースピードの表示について

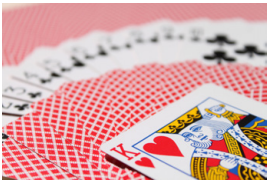
- 例えば「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

絞り優先AEモード(Av)

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

*〈**Av**〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



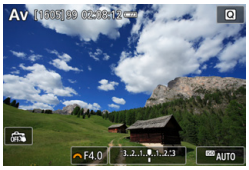
背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

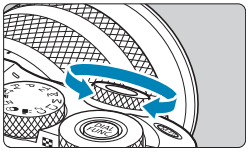
- 〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

4 表示を確認して撮影する

- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。



章目次
目 次
機能目次
索 引

- シャッタースピードの「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。
- シャッタースピードの「**1/4000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**F00**」になります。

ピントの合う範囲の確認 応用

[: **C.Fn III-2 : ボタン カスタマイズ**]（📖537）で、ボタンに**[絞り込み]**機能を割り当てたときは、そのボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。
- 絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。
- スピードライト 470EX-AIを取り付けて、〈AI.B〉スイッチを〈F〉（フルオート）に設定したときは、絞り込み機能を割り当てたボタンを押すと、AI.Bフルオート撮影の測距動作を開始します。

マニュアル露出モード(M)

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

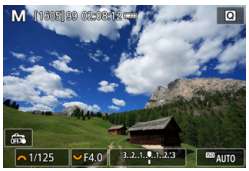
*〈**M**〉はManual（マニュアル）の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

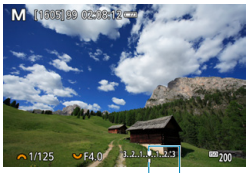
2 ISO感度を設定する（📖145）

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます（📖113）。



3 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードは〈 〉、絞り数値は〈 〉を回して設定します。



(2) (1)

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク［▮］で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク

5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を【AUTO】に設定したときは、以下の方法で露出補正（📖142）を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- 【📷：露出補正／AEB設定】
- クイック設定画面

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。

- カメラの設定が〈**M**〉モード+ISOオート+【[◉]（評価測光）で、【📷：C.Fn I-7：合焦後AEロックする測光モード】の設定が初期状態のときは（📖533）、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定（ロック）されます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- ISO感度手動設定時に〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- ISOオート設定時に【📷：C.Fn I-1：露出設定ステップ】を【1/2段】に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

フレキシブルAEモード(Fv)

「①シャッタースピード」「②絞り数値」「③ISO感度」、①②③それぞれの「オート（自動設定）」と「任意設定」、および「④露出補正」を自由に組み合わせて撮影することができます。①②③④を任意にコントロールすることで、〈**Fv**〉モード1つで〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉の4つのモードに相当する撮影を行うことができます。

*〈**Fv**〉はFlexible value（フレキシブルバリュー）の略です。



1 モードダイヤルを〈Fv〉にする



2 シャッタースピード／絞り数値／ISO感度を設定する

- 〈  〉を回して、設定する項目を選びます。選択している項目の左側に［  ］のマークが表示されます。
- 〈  〉を回して、内容を設定します。
- 〈▼〉を押すと、[AUTO] に設定（リセット）されます。

3 露出補正量を設定する

- 〈  〉を回して、露出レベル表示を選びます。露出レベル表示の左側に［  ］のマークが表示されます。
- 〈  〉を回して、内容を設定します。
- 〈▼〉を押すと、[±0] に設定（リセット）されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

〈Fv〉モードの機能組み合わせ一覧

シャッタースピード	絞り数値	ISO感度	露出補正	撮影モード
[AUTO]	[AUTO]	[AUTO]	可能	〈**P**〉相当
		任意設定		
任意設定	[AUTO]	[AUTO]	可能	〈**Tv**〉相当
		任意設定		
[AUTO]	任意設定	[AUTO]	可能	〈**Av**〉相当
		任意設定		
任意設定	任意設定	[AUTO]	可能	〈**M**〉相当
		任意設定	—	

- 数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）、または露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで、露出調整を行ってください。
- 〈**Fv**〉モード時に〈**Av**〉〈**P**〉モード相当の状態で、[📷:**ストロボ制御**]の[**スローシンクロ**]を[**1/200-30秒自動**]に設定しても、（暗い場所で）スローシンクロ撮影は行われません。

- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が[**AUTO**]に設定されているときは、各項目の数字の下にアンダーラインが表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

章目次
目 次
機能目次
索 引

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

静止画撮影

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モード限定の機能であることを示しています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

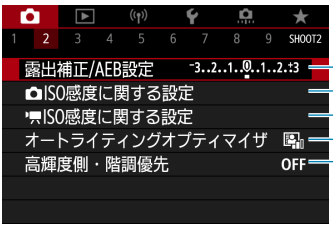
メニュー目次:静止画撮影

- 撮影1



124
127
129
130
291
135
139

- 撮影2



142, 143
145
279
151
152

- 撮影3



153
155
156

章目次
目 次
機能目次
索 引

メニュー目次：静止画撮影

● 撮影4



157
160
162
164
165, 168, 171

● 撮影5



173
174
176
178
182

● 撮影6



186
188
189
192
195

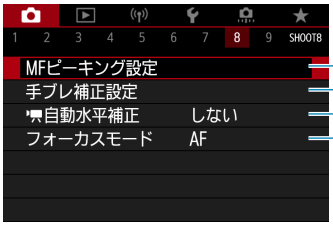
章目次
目 次
機能目次
索 引

● 撮影7



197
200
211
213
214
216
217

● 撮影8



222
218
272
223

● 撮影9



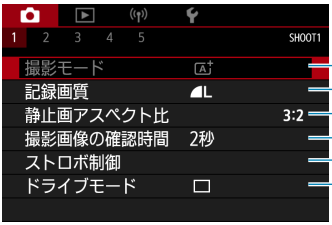
243
250
273
281

● **[タッチ&ドラッグAF設定]** は、別売の電子ビューファインダーを装着したときに表示されます。

メニュー目次：静止画撮影

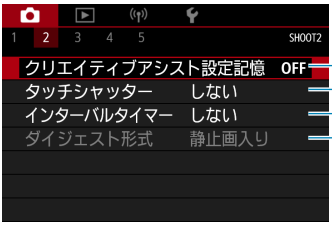
かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。

● 撮影1



80, 98
124
127
129
291
135

● 撮影2

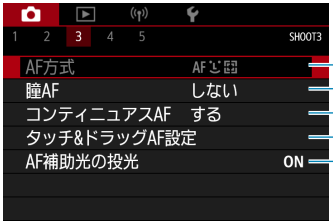


78
186
189
224

- **[撮影モード]** **[AF方式]** は、〈**SCN**〉〈 〉モードのときに選択できます。
- **[クリエイティブアシスト設定記憶]** は、〈 〉モードのときに選択できます。
- **[ダイジェスト形式]** は〈 〉モードのときに選択できます。

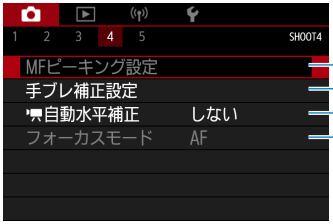
章目次
目 次
機能目次
索 引

● 撮影3



200
211
213
214
217

● 撮影4



222
218
272
223

● 撮影5



243
250
273

● **[タッチ&ドラッグAF設定]** は、別売の電子ビューファインダーを装着したときに表示されます。
● **[MFピーキング設定]** は、〈**SCN**〉〈◎〉モードのときに選択できます。

記録画質

記録する画素数と画質を選ぶことができます。



1 [📷：記録画質] を選ぶ



2 記録画質を設定する

- RAW画質は〈◠〉を回して、JPEG画質は〈◀〉〈▶〉で選びます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

- 記録画質の設定画面に表示される撮影可能枚数【****】は、アスペクトの設定（📖127）に関わらず、常に【3:2】設定時の値が表示されます。

- RAW画像とJPEG画像の設定を両方【–】にしたときは、◢Lに設定されます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR3）で記録されます。
- S2は◢（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、CRAW（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、◢（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換して記録した「生（ロウ）データ」で、RAWまたはRAWよりもファイルサイズが小さいCRAWから選ぶことができます。
RAW画像は、【▶：RAW現像】で現像を行い（📖343）、JPEG画像として保存することができます。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。
また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像などを生成することができます。

RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（📖552）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、📖579を参照してください。

記録画質

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



撮影画面の上の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

- 連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていきます。内蔵メモリーがいっぱいになると、モニターに【BUSY】が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、📖579の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

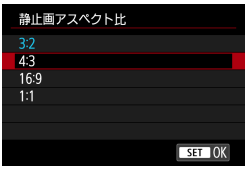
章目次
目 次
機能目次
索 引

静止画アスペクト比

画像のアスペクト（縦横）比を変えて撮影することができます。



1 [📷：静止画アスペクト比] を選ぶ



2 アスペクト比を設定する

- アスペクト比を選び、〈SET〉を押します。

- **JPEG画像**
  設定したアスペクト比で記録されます。
- **RAW画像**
  常に [3:2] のアスペクト比で記録されます。RAW画像には設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

静止画アスペクト比

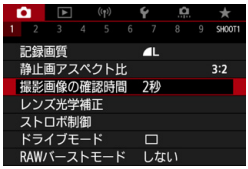
アスペクト比		
4：3	16：9	1：1
		

- [4：3] [16：9] [1：1] の設定で撮影したRAW画像を再生したときは、撮影範囲を示すアスペクト比の線が表示されます（この線は画像には記録されません）。

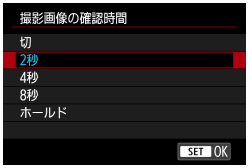
章目次
目 次
機能目次
索 引

撮影画像の確認時間

撮影直後に表示される画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。



1 【📷：撮影画像の確認時間】を選ぶ



2 時間を設定する

● 【ホールド】に設定すると、【🔧：節電】で設定した時間まで画像が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

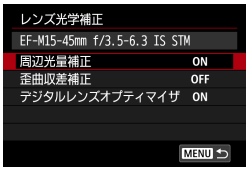
レンズ光学補正

応用

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。**[レンズ光学補正]** の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。



1 [📷：レンズ光学補正] を選ぶ



2 項目を選ぶ



3 [する] を選ぶ

- 装着しているレンズの名称と、**[補正データあり]** が表示されていることを確認します（ただし、**[回折補正]** 設定時は、表示されません）。
- **[補正データなし]** や **[🖻]** マークが表示されたときは、『デジタルレンズオプティマイザ』（📖132）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的に周辺光量補正が行われます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

- ゆがみの補正が行われるため、撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。
- 動画撮影では、歪曲収差補正は行われません。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（🕮176）は付加されません。また、撮影時と異なる位置でAFフレームが表示されることがあります。

レンズ光学補正

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。
なお、**[デジタルレンズオプティマイザ]**で**[補正データなし]**や**[🖻]**が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**[デジタルレンズオプティマイザ]**を**[しない]**に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[デジタルレンズオプティマイザ]**は表示されません(補正できません)。

- **[デジタルレンズオプティマイザ]**を**[する]**に設定したときは、**[色収差補正]** **[回折補正]**は表示されませんが、ともに**[する]**の設定で撮影されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的にデジタルレンズオプティマイザによる補正が行われます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **【する】** に設定したときは、**[色収差補正]** は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[回折補正]** は表示されません（補正できません）。

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **【する】** に設定したときは、**[回折補正]** は表示されません。

レンズ光学補正

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**【補正データあり】**と表示されていても、**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

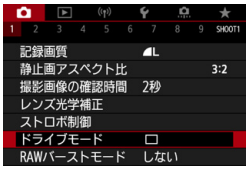
各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正**【しない】**と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ドライブモード

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



1 [📷：ドライブモード] を選ぶ



2 ドライブモードを設定する

- **[□] 1枚撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。
- **[□H+] 高速連続撮影+／[□H] 高速連続撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、高速で連続撮影します。**[□H+]** は**最高約14コマ/秒**、**[□H]** は**最高約7.0コマ/秒**で連続撮影を行うことができます。ただし、以下の撮影条件では最高連続撮影速度が遅くなります。
  - **フリッカー低減機能設定時**
    最高約5.2コマ/秒になります。
- **[□] 低速連続撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ドライブモード

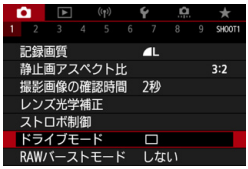
- [⏲10／⏲] セルフタイマー：10秒／リモコン撮影
- [⏲2／⏲2] セルフタイマー：2秒／リモコン撮影
- [⏲C] セルフタイマー：連続撮影

- [⧉H] または [⧉H] 時の最高連続撮影速度は（📖135）、バッテリーパック：フル充電、シャッタースピード：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、常温（+23℃）、フリッカー低減処理：なしの条件で連続撮影を行ったときの最高速度です。
- [⧉H] または [⧉H] 時の最高連続撮影速度はバッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- [📷：フリッカーレス撮影] を [する] に設定して（📖195）、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- 低速連続撮影時も、撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 連続撮影中に内蔵メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（📖126）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

- [⧉H] [⧉] は、連続撮影中のコマ間に、リアルタイムの映像が表示されるため、被写体を追従しやすくなります。
- セルフタイマー撮影については📖137、リモコン撮影については📖225を参照してください。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

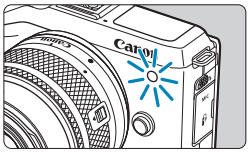


1 [: ドライブモード] を選ぶ



2 セルフタイマーを設定する

- 10（ ）：10秒後に撮影
  2（ 2）：2秒後に撮影
  C：10秒後に設定枚数を連続撮影*
  * 連続撮影枚数（2～10）は、〈 〉を回して設定します。
- カメラとワイヤレスリモートコントローラー（別売／225）がペアリングされているときは、（ ）（ 2）のアイコンが表示されます。



3 撮影する

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

セルフタイマー撮影

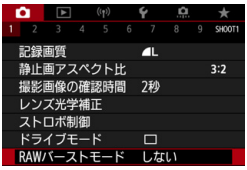
- [⏲c] のときは、記録画質や外部ストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。

- [⏲2] は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（📖306）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（📖76）。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターをタッチするか、〈SET〉を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

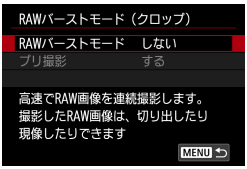
RAWバーストモード

応用

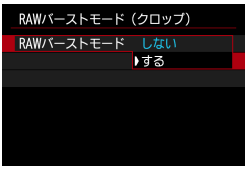
RAW画像を高速で連続撮影することができます。撮影した画像から（一瞬のシャッターチャンスを捉えた）ベストショットを選びたいときに有効です。撮影した画像は、1まとまりのファイル（ロール）として記録されます。ロールから任意の画像を切り出して、保存することができます（321）。



1 [📷：RAWバーストモード] を選ぶ

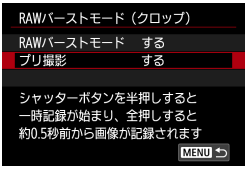


2 [RAWバーストモード] を選ぶ



3 [する] を選ぶ

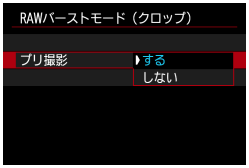
- **[する]** を選ぶと撮影時に [RAW] が表示されます。



4 [プリ撮影] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

RAWバーストモード



5 内容を設定する

- **［する］**を選んだときは、シャッターボタンを半押しし、一旦その状態を保持してからシャッターボタンを全押しすると、全押しする少し前（最大約0.5秒前）から記録されます。
  撮影時には［ON］が表示されます。
- **［しない］**を選んだときは、シャッターボタンを全押ししたときから記録されます。
  撮影時には［OFF］が表示されます。



6 撮影する

- 画面に表示されるインジケーターは、内蔵メモリーの状態を表しています。
- シャッターボタンを全押しすると、内蔵メモリーがいっぱいになるまで、またはシャッターボタンを離すまで連続撮影されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 4GB以上の空き容量のあるカードを使用してください。
- バッテリー残量が少ない状態で、書き込み速度が遅いカードを使用して、RAWバースト撮影を行ったときに、書き込み処理中にバッテリーが切れると、撮影した画像が正常に記録されないことがあります。
- シャッターボタンを半押しすると、画像が一瞬止まります。
- カメラを動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、画像がゆがんで撮影されることがあります。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードのときは、ISOオートで撮影されます。
- 〈**Tv**〉〈**M**〉〈**Fv**〉モードのときは、1/30秒よりも遅いシャッタースピードは設定できません。
- 約1790万画素（5184×3456）で撮影されます。
- 電子シャッターで撮影が行われます。撮影を行う前に、『シャッター方式』（188）の確認をおすすめします。
- 撮影された画像は、画角がわずかに狭くなります。
- ロール内の画像をパソコンで見るときは、JPEG画像への切り出しを行うか、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalを使用してください。
- カメラとパソコンを接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[📷：RAWバーストモード]** を **[しない]** に設定してください。**[する]** を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- 暗いシーンでは、連続撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- RAWバーストモードでは、開放絞り数値が変化するズームレンズを使用して、半押しおよび全押し中にズーム操作を行うと、絞り数値が変化します。そのため、〈**M**〉モードのときは、露出を一定に保つため、ISOオートで撮影することをおすすめします。
- RAWバーストモードでは、開放絞り数値が変化しないズームレンズでも、半押しおよび全押し中にズーム操作を行うと、一部のレンズでは露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください。

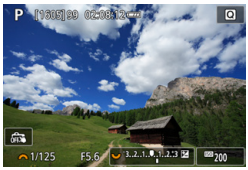
- UHS-II対応、SDスピードクラス10以上のカードの使用をおすすめします。
- 撮影したRAW画像は、1まとまりのファイル（ロール）として記録されます。ファイル名の先頭は「CSI_」、拡張子は「.CR3」です。
- ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザは、1枚目を撮影した設定で撮影されます。
- 撮影中に電子音は鳴りません。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、**[RAWバーストモード]** が **[しない]** になります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

露出補正

応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。
〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。
なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正については📖113、〈**Fv**〉モード時の露出補正については📖114を参照してください。



1 補正量を設定する

- シャッターボタンを半押しして、画面を見ながら〈⚙〉を回して設定します。
- 露出補正を行うと、[±]が表示されます。

2 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル［▮］を標準露出指標（[▼]）の位置に戻します。

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**（📖151）が、**[しない]** 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

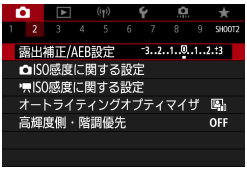
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

AEB設定

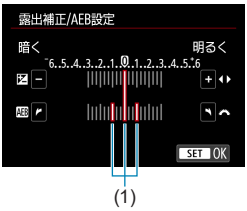
応用

自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

*「AEB」はAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。



1 [📷：露出補正／AEB設定] を選ぶ



(1)

2 AEBレベルを設定する

- 〈◢〉を回してAEBレベル（1）を設定します。〈◀〉〈▶〉を押すと、露出補正量を設定することができます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- メニューを終了すると、画面にAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AEB設定

- [📷：**オートライティングオプティマイザ**]（📖151）が**[しない]**以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

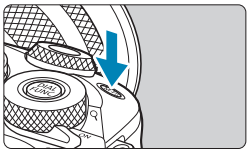
- AEB撮影中は、画面左下の**[☀]**が点滅します。
- ドライブモードが**[□]**のときは、3回撮影してください。**[□H]** **[□L]** **[□]**のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。**[⏲10]** **[⏲2]**のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。なお、**[⏲C]**に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- ストロボ使用時、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、フォーカスBKT撮影、RAWバーストモード設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

静止画ISO感度に関する設定

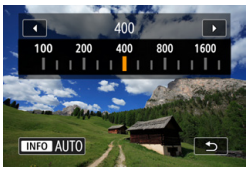
応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。
かんたん撮影ゾーンのときは、ISO感度が自動設定されます。
なお、動画撮影時のISO感度については、279、583を参照してください。



1 〈M-Fn〉ボタンを押す（6）

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。



2 ISO感度を設定する

- 〈 〉を回します。
- 【AUTO】を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

静止画ISO感度に関する設定

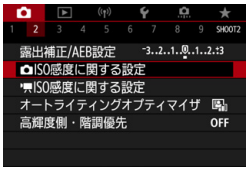
ISO感度を選ぶ時の目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

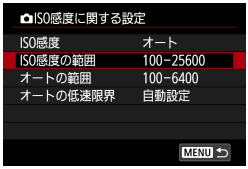
- H（ISO51200相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- **[📷：高輝度側・階調優先]** を **[する]** **[強]** に設定すると（📖152）、ISO100/125/160、H（ISO51200相当）は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光などの条件で撮影すると、画像のノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

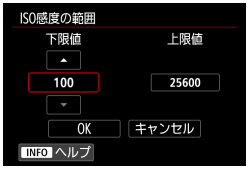
ISO感度の手動設定範囲



1 [📷 : 📷ISO感度に関する設定] を選ぶ

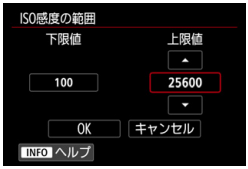


2 [ISO感度の範囲] を選ぶ



3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。



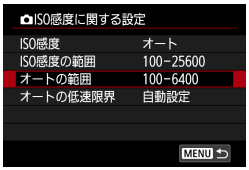
4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

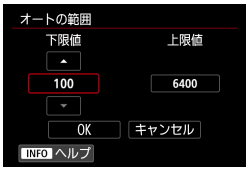
5 [OK] を選ぶ

静止画ISO感度に関する設定

ISOオート時の自動設定範囲

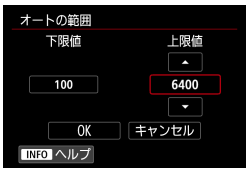


1 [オートの範囲] を選ぶ



2 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。



3 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

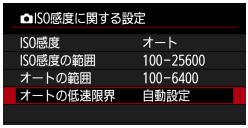
4 [OK] を選ぶ

- **[下限値] [上限値]** は、ISO感度でセイフティシフト（📖533）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

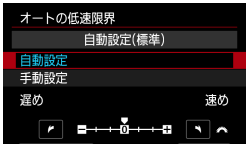
ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

ISOオート設定時に、シャッタースピードの低速限界（下限速度）を設定することができます。
〈**P**〉〈**Av**〉モードなどで、広角レンズを使用して、動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに、手ブレや被写体ブレを軽減することができます。



1 [オートの低速限界] を選ぶ

自動設定



2 低速限界を設定する

- **[自動設定]** を選んだときは、〈 〉で遅め／速めの度合いを設定し、〈SET〉を押します。

手動設定



- **[手動設定]** を選んだときは、〈 〉でシャッタースピードを選び、〈SET〉を押します。

静止画ISO感度に関する設定

- **[オートの範囲]** で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、**[オートの低速限界]** で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

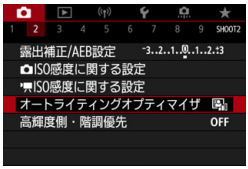
- **[自動設定（標準）]** 設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、**[遅め]** から **[速め]** の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

オートライティングオプティマイザ

応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。



1 [📷：オートライティングオプティマイザ] を選ぶ



2 補正内容を設定する

- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**[弱め]** または **[しない]** に設定して撮影してください。
- **[しない]** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**[しない]** に設定してください。
- **[強め]** 設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。

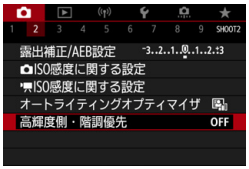
- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して **[マニュアル露出時はOFF]** の **[✓]** を外すと、〈**M**〉モードでも **[📷：オートライティングオプティマイザ]** が設定できるようになります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

高輝度側・階調優先

応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [📷：高輝度側・階調優先]を選ぶ



2 内容を設定して撮影する

- **[する]**を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- **[強]**設定時は、撮影シーンによって**[する]**設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 動画撮影時は、**[強]**は選択できません。
- **[強]**に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

測光モード

応用

被写体の明るさを測る機能の特性を、4種類の中から選ぶことができます。
かんたん撮影ゾーンのときは、評価測光に自動設定されます。



1 [📷：測光モード] を選ぶ



2 測光モードを設定する

- **[▣] 評価測光**
  逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。
- **[▣] 部分測光**
  逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面中央部の約4.5%の範囲を測光します。画面に部分測光範囲が表示されます。
- **[•] スポット測光**
  被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面中央部の約2.6%の範囲を測光します。画面にスポット測光範囲が表示されます。
- **[□] 中央部重点平均測光**
  画面の中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

測光モード

- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
  [⊛] は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。[⊙] ／ [•] ／ [□] は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- **[⚙：C.Fn I-7：合焦後AEロックする測光モード]** で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます（📖533）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

測光タイマー

応用

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。



1 **［📷：測光タイマー］を選ぶ**

2 **時間を設定する**

章目次
目 次
機能目次
索 引

露出Simulation

応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。



1 **［：露出Simulation］を選ぶ**

2 **内容を設定する**

- **する（Exp.SIM）**

  実際の撮影結果(露出)に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **絞り込み中**

  通常は映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP）。**［：C.Fn III-2：ボタンカスタマイズ］**（537）で**［絞り込み］**機能を割り当てたボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。

- **しない（DISP）**

  映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ホワイトバランス

応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、または［AWB W］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。



1［📷：ホワイトバランス］を選ぶ



2 項目を選ぶ

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先／📖159）	3000～7000
AWB W	オート（ホワイト優先／📖159）	
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり	6000
💡	白熱電球	3200
蛍光灯	白色蛍光灯	4000
⚡	ストロボ	自動設定*
🔧	マニュアル（📖160）	2000～10000
K	色温度（📖161）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

章目次
目 次
機能目次
索 引

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

[AWB] オートホワイトバランス

[AWB] では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。
[AWB W] を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

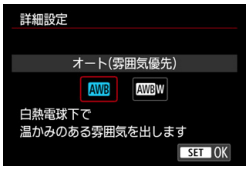


1 [📷：ホワイトバランス] を選ぶ



2 [AWB] を選ぶ

- [AWB] を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

[AWB W] 設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】と同じ色あいになります。

[📷] マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



1 白い被写体を撮影する

- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



2 [📷：MWB画像選択] を選ぶ



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を〈◀〉〈▶〉で選び、〈SET〉を押します。
  [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。



4 [📷：ホワイトバランス] を選ぶ

5 マニュアルWBを選ぶ

- [📷] を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを **[モノクロ]** に設定して撮影した画像、クリエイティブフィルターで撮影した画像、撮影後にクリエイティブフィルター処理した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、選択できません。
- 設定に使用できない画像が表示されることがあります。

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

[K] 色温度



1 [📷：ホワイトバランス] を選ぶ



2 色温度を設定する

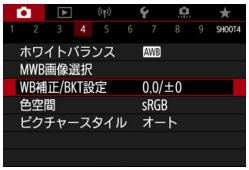
- [K] を選びます。
- 〈 〉で色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を [K] に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

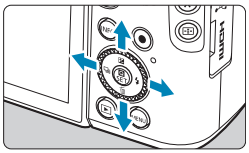
ホワイトバランス補正／ブラケット設定 応用

ホワイトバランスを補正して、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

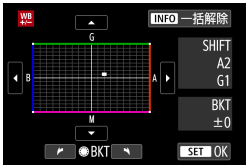
ホワイトバランス補正



1 [📷：WB補正/BKT設定] を選ぶ



設定例：A2, G1



2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉十字キーを操作して、画面上の [■] を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
  画面右の [SHIFT] に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、[WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

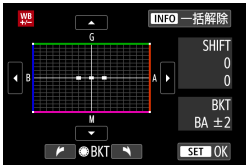
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。

B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』（📖162）の手順2で〈◉〉を回すと、画面上の［■］が［■■■］（3点）に変わります。
- 右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
  画面右の［BKT］にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- ①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティングを設定したときは、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- ［BKT］はBracketing：ブラケティングの略です。

色空間

応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。



1 [📷：色空間] を選ぶ

2 色空間を設定する

Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0（Exif 2.21以上）対応プリンターなどの使用をおすすめします。

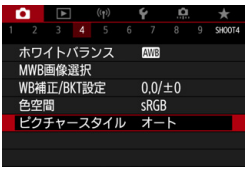
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。
- かんたん撮影ゾーンのときは、**[sRGB]** に自動設定されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ピクチャースタイルの選択

応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 [📷：ピクチャースタイル] を選ぶ



2 スタイルを選ぶ

各スタイルの画像特性

- **[オート]**

  撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

  ● **[オート]** で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

- **[スタンダード]**

  鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

- **[ポートレート]**

  肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

  📖169の **【色あい】** を変えると、肌色を調整することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ピクチャースタイルの選択

- **[風景]**
  青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。
- **[ディテール重視]**
  被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。
- **[ニュートラル]**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。
- **[忠実設定]**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。
- **[モノクロ]**
  白黒写真になります。

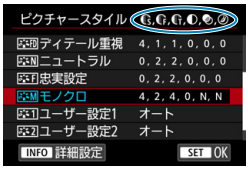
● **[モノクロ]** の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

- **[ユーザー設定1～3]**
  [ポートレート] や **[風景]**、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（🕮171）。登録されていないときは、**[オート]** の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、**[シャープネス]** の **[強さ]** **[細かさ]** **[しきい値]** や、**[コントラスト]** などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。





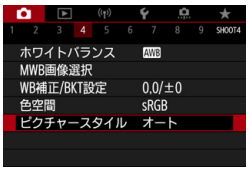
	シャープネス
	強さ
	細かさ
	しきい値
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

- 動画撮影時、**[シャープネス]** の **[細かさ]** **[しきい値]** は、ともに「*」と表示されます。また、**[細かさ]** **[しきい値]** は動画には反映されません。

ピクチャースタイルの調整

応用

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。【モノクロ】の調整については、📖170を参照してください。



1 【📷：ピクチャースタイル】を選ぶ



2 スタイルを選ぶ

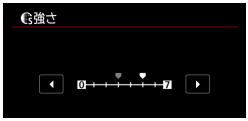
- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- 設定内容と効果については、『設定内容と効果』（📖169）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引



4 効果の度合いを設定する



- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果

	シャープネス			
	強さ		0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
	細かさ*1		1：細かい	5：粗い
	しきい値*2		1：小さい	5：大きい
	コントラスト		-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ		-4：薄い	+4：濃い
	色あい		-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

*1: 強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

*2: 「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

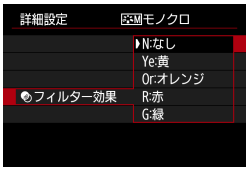
- 動画撮影時は**【シャープネス】**の**【細かさ】【しきい値】**の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で**【初期設定】**を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

ピクチャースタイルの調整

[M] モノクロの調整

169で説明した **[シャープネス]** の **[強さ]** **[細かさ]** **[しきい値]** と **[コントラスト]** の他に、**[フィルター効果]** **[調色]** を設定することができます。

[ ] フィルター効果

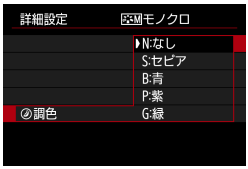


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

- **[コントラスト]** をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

[ ] 調色



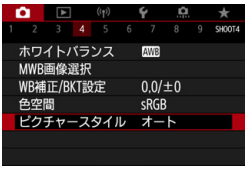
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

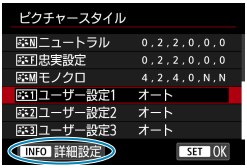
ピクチャースタイルの登録

応用

[ポートレート]や[風景]などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、[ユーザー設定1]から[ユーザー設定3]に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。
また、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

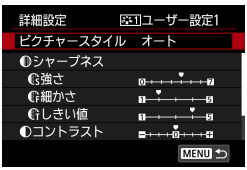


1 [📷：ピクチャースタイル]を選ぶ



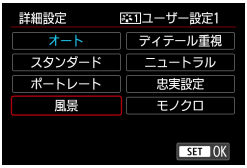
2 [ユーザー設定＊]を選ぶ

- [ユーザー設定＊]を選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 〈SET〉を押す

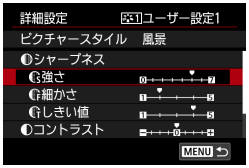
- [ピクチャースタイル]が選ばれた状態で〈SET〉を押します。



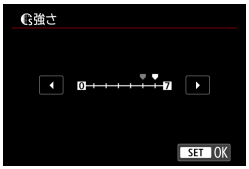
4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選びます。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

ピクチャースタイルの登録

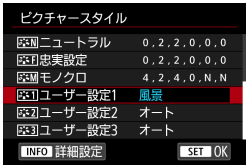


5 項目を選ぶ



6 効果の度合いを設定する

- 詳しくは、『ピクチャースタイルの調整』(🕮168) を参照してください。



- 〈**MENU**〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
【ユーザー設定*】の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

- **【ユーザー設定*】**にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- **【：カメラの初期化】**の**【基本設定】**(🕮522) を選ぶと、**【ユーザー設定*】**に設定した内容が初期化されます。

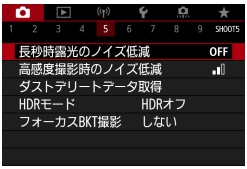
- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した**【ユーザー設定*】**を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

長秒時露光のノイズ低減

応用

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。



1 [📷：長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ



2 低減内容を設定する

- **[AUTO] 自動**

  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

- **[ON] する**

  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。**[自動]** で検出できないノイズがあったときに **[する]** で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

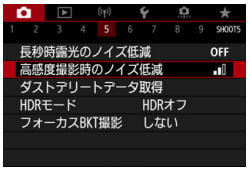
- **[自動] [する]** 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- **[しない] [自動]** 設定時よりも **[する]** 設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ノイズ低減処理中は **[BUSY]** が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

高感度撮影時のノイズ低減

応用

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 [📷：高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ



2 レベルを設定する

- **[NR] マルチショットノイズ低減機能**

  [強め] よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

  なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、**[マルチショットノイズ低減機能]** は設定できません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は【BUSY】が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- バルブ撮影、AEB撮影、WBブラケティング撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、HDRモードなどが設定されているときは、**【マルチショットノイズ低減機能】**は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 動画撮影時は、**【マルチショットノイズ低減機能】**は設定できません（表示されません）。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換、撮影モードをかんたん撮影ゾーンに変更、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に**【標準】**に切り換わります。

ダストデリートデータ取得

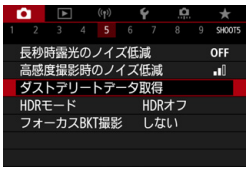
応用

センサークリーニングでゴミが除去しきれなかった場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

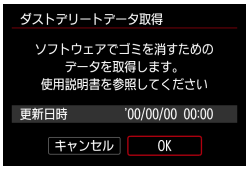
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- マニュアルフォーカスにし、無限遠（∞）に設定する。

ダストデリートデータの取得



1 **[📷：ダストデリートデータ取得] を選ぶ**



2 **[OK] を選ぶ**

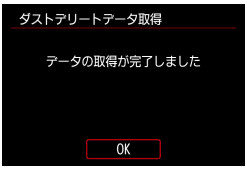
- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。



章目次
目 次
機能目次
索 引

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。

- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。『事前準備』（📖176）の内容を確認し、**[OK]** を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

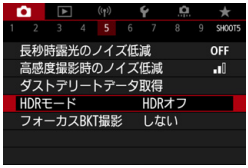
取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。
なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。
- **[RAWバーストモード]** では、ダストデリートデータは付加されません。

HDRモード

応用

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。
HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。
撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。
*「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



1 [📷：HDRモード] を選ぶ



2 [Dレンジ調整] を設定する

- **[自動]** を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。



3 [仕上がり効果] を設定する

章目次
目 次
機能目次
索 引

仕上がり効果

- **［HDR］ナチュラル**

  明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

- **［HDR］絵画調標準**

  ［ナチュラル］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **［HDR］グラフィック調**

  ［絵画調標準］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **［HDR］油彩調**

  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

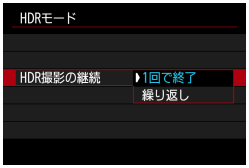
- **［HDR］ビンテージ調**

  鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

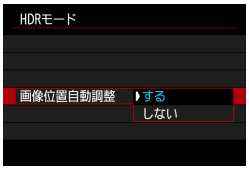
- 各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（📖165）を基本にした画像特性で撮影されます。

HDRモード



4 [HDR撮影の継続] を設定する

- **[1回で終了]** を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- **[繰り返し]** を選んだときは、手順2で **[HDRオフ]** を選ぶまでHDR撮影が続きます。



5 [画像位置自動調整] を設定して撮影する

- 手持ち撮影を行うときは **[する]**、三脚などを使用するときは **[しない]** を選びます。

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像はJPEG **L** の画質で記録されます。RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。
- 拡張ISO感度（H）でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～25600の範囲（**[ISO感度の範囲]** の **[下限値]** **[上限値]** の設定による）でHDR撮影を行うことができます。
- AEB撮影、ストロボ撮影はできません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッタースピードを自動的に変えて3枚の画像を撮影します。〈**Fv**〉〈**Tv**〉〈**M**〉モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードが変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- **[画像位置自動調整]** を **【する】** に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（📖372）、およびダストデリートデータ（📖176）は画像に付加されません。
- **[画像位置自動調整]** を **【する】** に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- **[画像位置自動調整]** を **【しない】** に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は **[BUSY]** が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

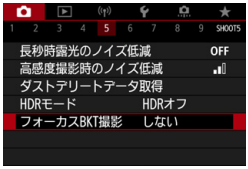
章目次
目 次
機能目次
索 引

フォーカスブラケット撮影

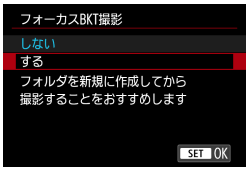
応用

フォーカスBKT*撮影は、1回のレリーズで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用すると、撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。

*「BKT」はBracketing（ブラケティング）の略です。



1 [📷：フォーカスBKT撮影] を選ぶ



2 [フォーカスBKT撮影] を設定する

- [する] を選びます。



3 撮影回数を設定する

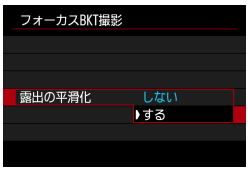
- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- [2] ～ [999] 回の範囲で設定することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



4 [ステップ幅] を設定する

- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。
  なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈SET〉を押します。



5 [露出の平滑化] を設定する

- **[露出の平滑化]** を **[する]** に設定すると、カメラに表示される絞り数値と、ピント位置により変化する実際の絞り数値（実効FNo.）との差を調整して、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を抑えることができます。

6 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の [📁] をタッチし、[OK] を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。

フォーカスブラケット撮影

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- 下記のレンズを使用することができます（2019年4月現在）。
  - EF16-35mm F4L IS USM
  - EF24-70mm F4L IS USM
  - EF100mm F2.8L MACRO IS USM
  - EF180mm F3.5L MACRO USM
  - EF-M28mm F3.5 MACRO IS STM
  - EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM
  - EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STM
  - EF-S35mm F2.8 MACRO IS STM
  - EF-S60mm F2.8 MACRO USM
  - EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM
- 下記のレンズを使用すると、撮影画像に明るさの変化が生じることがありますので、**【露出の平滑化】**を**【しない】**に設定してください。
  - EF100mm F2.8 L MACRO IS USM
  - EF180mm F3.5 L MACRO USM
  - EF-S60mm F2.8 MACRO USM
- 適切な**【ステップ幅】**は被写体により異なります。**【ステップ幅】**が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行なって**【ステップ幅】**の目安を確認しておくことをおすすめします。
- 撮影回数を多く設定すると、合成に時間がかかります。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすることで緩和されることがあります。
- フォーカスモードがMFのときは、機能しません（ピント位置は変わりません）。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 三脚、リモートスイッチ（別売／📖225）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／📖225）などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6～F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、**【フォーカスBKT撮影】**が**【しない】**になります。
- **【📷：ピクチャースタイル】**が**【オート】**に設定されているときは、**【スタンダード】**で撮影されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

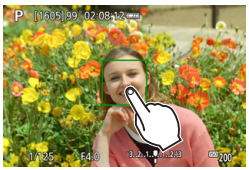
タッチシャッター

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。



1 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の【OFF】にタッチします。
- タッチするたびに、【OFF】と【ON】が切り換わります。
- 【ON】（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- 【OFF】（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。



2 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されているAF方式（📖200）で、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- 【ON】に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

タッチシャッター

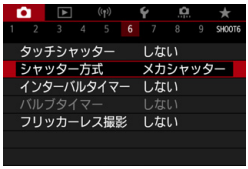
- ドライブモードを［□H］［□H］［□］に設定していても、1枚撮影になります。
- **［AF動作］**が**［サーボAF］**に設定されていても、画面にタッチしたときは**［ワンショットAF］**でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- **［📷:撮影画像の確認時間］**を**［ホールド］**に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。

- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

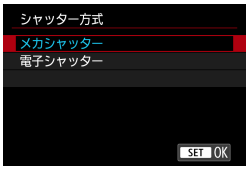
シャッター方式

応用

シャッター方式を選ぶことができます。



1 [: シャッター方式] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **メカシャッター**

  撮影時にメカシャッターが作動します。TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず **[メカシャッター]** に設定してください。**[電子シャッター]** に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

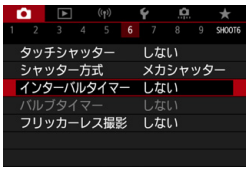
- **電子シャッター**

  シャッター作動音を鳴らさずに、最高1/16000秒のシャッタースピードで撮影することができます。
  ドライブモードが [ ] [ ] [ ] [ ] 以外のときに設定できます。ストロボ撮影はできません。

- **[電子シャッター]** 設定時に、カメラを動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、画像が歪んで撮影されることがあります。
- フリッカー光源下で **[電子シャッター]** に設定して撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。

インターバルタイマー

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。



1 [📷：インターバルタイマー] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

- **[する]** を選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 撮影間隔、撮影回数を設定する

- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈SET〉を押して [⇕] の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（[□] の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**

  [00 : 00 : 01] ～ [99 : 59 : 59] の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**

  [01] ～ [99] の範囲で設定することができます。[00] に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

インターバルタイマー



4 [OK] を選ぶ

- メニュー画面に設定した内容が表示されます。

(1) 撮影間隔
(2) 撮影回数

5 撮影する

- 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、[TIMER] が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中は、**[：節電]** の **[オートパワーオフ]** が **[しない]** 以外に設定されているときは、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。次の撮影の約1分前になると、自動的に電源が入ります。
- AEBやWBブラケティング、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、インターバルタイマー撮影を途中で終了することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- フォーカスモードがAFに設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。マニュアルフォーカスに設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッタースピードが撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときや、撮影モードを〈**C1**/**C2**〉にしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utilityを使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が**【しない】**になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影（🕮225）やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

長時間露光(バルブ)撮影

応用

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

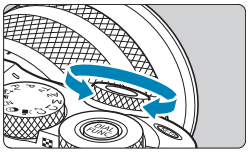


1 モードダイヤルを〈M〉にする



2 シャッタースピードを［BULB］に設定する

- 〈 〉を回して設定します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- モニターに露光経過時間が表示されます。

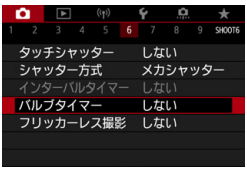
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます（📖578）。
- セルフタイマーを併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- **[📷：長秒時露光のノイズ低減]** で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（📖173）。
- カメラブレを低減させるため、三脚と別売のリモートコントローラー（リモートスイッチRS-60E3、ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1）またはバルブタイマー機能の使用をおすすめします。

バルブタイマー機能

バルブタイマー機能を使用すると、露光中のシャッターボタンの全押しが不要になります。
なお、バルブタイマーは、〈**M**〉モードでシャッタースピードが **[BULB]** のとき以外は設定できません（機能しません）。



1 [📷：バルブタイマー] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

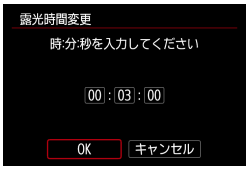
- **[する]** を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

長時間露光（バルブ）撮影



3 露光時間を設定する

- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈SET〉を押して【⌖】の状態にします。
- 数値を設定し、〈SET〉を押します（【□】の状態に戻ります）。



4 [OK] を選ぶ

5 撮影する

- シャッターボタンを全押しして、撮影が開始されたら指を離します。
- モニターに【TIMER】と露光時間が表示されます。
- 撮影を途中で終了するときは、シャッターボタンを全押しして指を離します。
- 設定を解除するときは、手順2で【しない】を選びます。

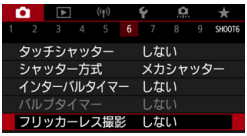
- シャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します。
- 撮影モードを変更したときは、バルブタイマーの設定が【しない】になります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

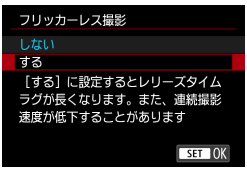
フリッカーレス撮影

応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。フリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 [📷：フリッカーレス撮影] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

3 撮影する

- **[する]** に設定したあとや、光源が変化したときは、撮影する前に〈Q〉ボタンを押して **[フリッカーレス撮影]** の項目を選び、〈INFO〉ボタンを押してフリッカーの検知動作を行ってください。
- 撮影すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

フリッカーレス撮影

- **[する]** 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- 〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Av**〉モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、〈**Fv**〉〈**M**〉〈**Tv**〉モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- **[する]** に設定したときと、**[しない]** に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- 撮影開始したときに（AEロック撮影時を含む）、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- かんたん撮影ゾーンのときは、フリッカーの低減処理は行われません。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

AF動作

応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。



1 [📷：AF動作] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（🕮210）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AF動作

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF（ONE SHOT）

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、135でご確認ください。

- **[：電子音]** を **[切]** に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：サーボAF（SERVO）

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、135でご確認ください。

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。

- ピントが合っても電子音は鳴りません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AF補助光

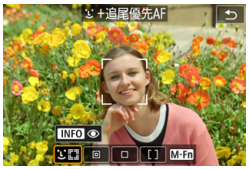
暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、AFでピントを合わせやすくするために、AF補助光（📖34）が光ることがあります。

- **［📷：AF動作］**が**［サーボAF］**のときは、AF補助光は投光されません。
- LED方式の補助光を備えた外部ストロボを使用しているときは、必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

AF方式

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AFフレームまたはゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピント合わせを行います。〈A+〉モードのときは、**[顔+追尾優先AF]**に自動設定されます。
AF方式の選択方法は202を参照してください。

AF方式



顔：顔+追尾優先AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム【 】が顔の部分に表示され、顔を追尾します。

顔を検知しないときは、AF領域全体で自動選択AFを行います。
サーボAFのときは、サーボAFを開始する位置を設定することができます(208)。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。



：スポット1点AF

1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。



：1点AF

1つのAFフレーム【□】でピント合わせを行います。

章目次
目 次
機能目次
索 引



[ ]：ゾーンAF

AF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、被写体を捉えやすくなります。

最も近距離の被写体を優先してピントを合わせます。また、ゾーンAFフレーム内に人物がいる場合は、顔を優先してピントを合わせます。
ピントが合ったAFフレームは［□］で表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AF方式

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。
なお、手動でピント合わせを行いたいときは、📖220を参照してください。



1 **[📷：AF方式]を選ぶ**

2 **項目を選ぶ**

- 〈⊞〉ボタンを押したあとに〈M-Fn〉ボタンを押すと、AF方式設定画面が表示され、AF方式を設定することもできます。
- 📖203～📖206では、**[📷：AF動作]**が**[ワンショットAF]**（📖198）に設定されていることを前提に説明しています。**[サーボAF]**（📖198）に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFと撮影）については、📖186を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

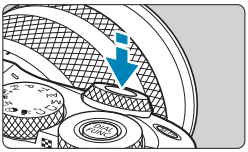
● （顔）＋追尾優先AF：

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム【 】も動いて顔を追尾します。



1 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、AFフレーム【 】が表示されます。
- 〈 〉ボタンを押して【 】が表示されるときは、〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい顔を選ぶことができます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色で表示されます。



3 撮影する

AF方式

顔にタッチしてピントを合わせるとき

ピントを合わせたい顔や被写体にタッチすると、AFフレームが【[:::]】に変わりピント合わせが行われます。
画面内で顔や被写体が動いても、被写体を追尾してAFフレーム【[:::]】も動きます。

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（220）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

- ピント合わせを行う【[:::]】が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

● **スポット1点AF/1点AF/ゾーンAF**

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。



(1)

1 AFフレームを確認する

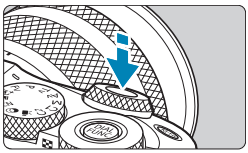
- AFフレーム（1）が表示されます。ゾーンAFのときは、ゾーンAFフレームが表示されます。



2 AFフレームを移動する

- 〈⊞〉ボタンを押します。
- ピントを合わせたい位置に、〈✥〉十字キーでAFフレームを動かします（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。
- 画面にタッチしてAFフレームを移動することもできます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。
- 〈◡〉を回すと拡大表示することができます。〈◡〉を回すたびに、拡大倍率が切り換わります。

AF方式





3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
  ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
  ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ゾーンAFでサーボAFを行うとき、撮影条件によってはAFフレームが追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、AF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。

- **[📷：C.Fn II-2：縦位置/横位置のAFフレーム設定]** で、AFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（📖534）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

拡大表示

[Q] をタッチして、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。**[追尾優先AF]** のときは拡大表示できません。

- **[スポット1点AF]** **[1点AF]** 設定時はAFフレームの位置、**[ゾーンAF]** 設定時はゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、**[スポット1点AF]** **[1点AF]** 設定時は拡大表示のままAFが行われます。**[ゾーンAF]** 設定時は、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、コンティニュアスAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AF方式

サーボAFの開始位置の設定

① [: C.Fn II-3 : 時のサーボAF開始測距点] を [自動] 以外に設定します。
② エリアAFフレーム（1）とAFフレーム（2）が表示されます。



③ 〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉〈 〉や〈 〉十字キーで、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。〈INFO〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。画面にタッチして、AFフレームを移動することもできます。
④ 〈 〉ボタンを押してAFフレームを移動したときは、〈SET〉を押すと、サーボAFの開始位置が設定されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（🕮220）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

AF方式

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲

使用するレンズやアスペクト比、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

瞳AF

AF方式が【+追尾優先AF】のとき、人物の目にピントを合わせることができます。



1 【：瞳AF】を選ぶ



2 【する】を選ぶ



3 被写体にカメラを向ける

- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。
- 鼻や口などをタッチしたときは顔が選ばれます。ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- 〈⊞〉ボタンを押して【】が表示されるときは、**【瞳AF】**の設定に応じて〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい目または顔を選ぶことができます。

4 撮影する

章目次
目 次
機能目次
索 引

瞳AF

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

- 〈⊞〉ボタン、〈M-Fn〉ボタン、〈INFO〉ボタンの順に押すと、メニューを操作しなくても**[瞳AF:しない]**に変更できます。もう一度〈INFO〉ボタンを押すと、**[瞳AF:する]**にできます。

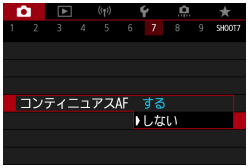
章目次
目 次
機能目次
索 引

コンティニュアスAF

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。



1 [📷：コンティニュアスAF] を選ぶ



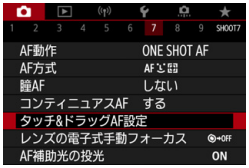
2 [する] を選ぶ

- **[する]** 設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

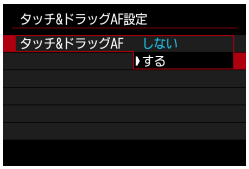
タッチ&ドラッグAF設定

別売の電子ビューファインダーを使用したとき、ファインダーを見ながら画面をタッチしたりドラッグしたりして、AFフレーム（またはゾーンAFフレーム）を移動することができます。

タッチ&ドラッグAFを有効にする



1 [: タッチ&ドラッグAF設定] を選ぶ

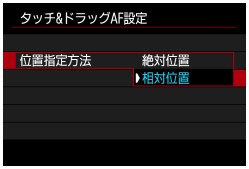


2 [タッチ&ドラッグAF] を選ぶ

- [する] を選びます。

位置指定方法

タッチやドラッグしたときの位置の指定方法を設定することができます。



1 位置指定方法を設定する

- **[絶対位置]**
  画面をタッチやドラッグした位置にAFフレームが移動します。
- **[相対位置]**
  画面の位置に関係なく、ドラッグした方向と移動量に応じてAFフレームが移動します。

章目次 目 次
機能目次 索 引

タッチ領域

タッチの反応領域を設定することができます。



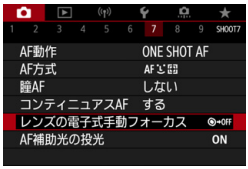
1 タッチ領域を設定する

- **[+追尾優先AF]** 設定時は、画面をタッチすると、オレンジ色の丸い枠【〔〕】が表示されます。AFフレームを移動したい位置で指を離すと【〖〗】が表示され、その被写体を追尾します。〈⊞〉ボタンを押すと、被写体の指定が解除されます。

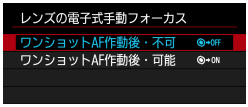
レンズの電子式手動フォーカス

応用

電子式の手動フォーカス機能を備えたEF-M/EF/EF-Sレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



1 **[📷：レンズの電子式手動フォーカス]を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

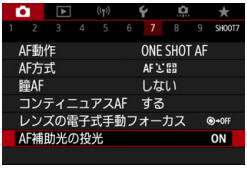
- **[OFF] ワンショットAF作動後・不可**
  AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **[ON] ワンショットAF作動後・可能**
  AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

- お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

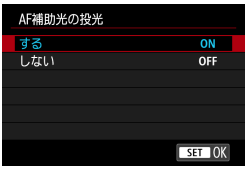
章目次 目 次
機能目次 索 引

AF補助光の投光

カメラまたは外部ストロボから、AF補助光を投光することができます。



1 **[📷：AF補助光の投光] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **[ON] する**
  必要に応じて、カメラまたはLED方式の補助光を備えた外部ストロボからAF補助光が投光されます。
- **[OFF] しない**
  AF補助光は投光されません。

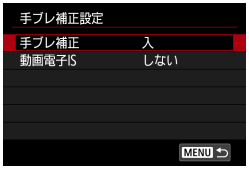
章目次 目 次
機能目次 索 引

手ブレ補正設定

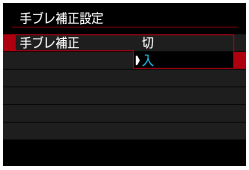
レンズに光学式手ブレ補正（IS）機能が内蔵されているときは、手ブレ補正の設定を変えることができます。**[動画電子IS]** については、📖270を参照してください。



1 **[📷：手ブレ補正設定]** を選ぶ



2 **[手ブレ補正]** を選ぶ



3 内容を設定する

- **[切]**
  手ブレ補正は行われません。
- **[入]**
  手ブレ補正が行われます。

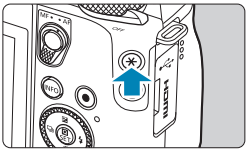
● 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、**[手ブレ補正]** を **[切]** にすることをおすすめします。

章目次 目 次
機能目次 索 引

露出の固定(AEロック)

応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。逆光下の撮影などで有効です。





1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

2 〈✱〉ボタンを押す(⏱8)

- 画面左下に【✱】が表示され、露出が固定(AEロック)されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

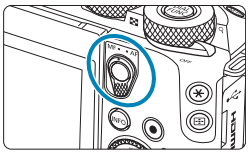
測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
[◉]	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[⊡][•][□]	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

* マニュアルフォーカスのときは、【[◉]】設定時、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。



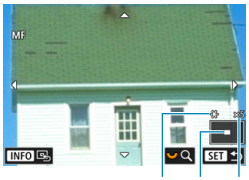
1 フォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



2 拡大位置を決める

- 〈⊞〉ボタンを押して拡大位置を表示して、〈◉〉または〈✥〉十字キーでピントを合わせたい位置に移動します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。



3 映像を拡大する

- 〈◉〉を回すたびに、次のように画面が切り換わります。

1倍 ↔ 5倍 ↔ 10倍

(1) AEロック
(2) 拡大表示位置
(3) 拡大率（約）

章目次
目 次
機能目次
索 引

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈SET〉を押して通常表示にします。

5 撮影する

- EF-Mレンズ以外のレンズ装着時は、手順1でレンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にしてください。
- EF-Mレンズ装着時の動画撮影で、手順1でモニターに［AF］が表示されている場合は、このアイコンをタッチして［MF］アイコンに切り換えます。操作音が鳴らないので、動画に操作音が記録されることなくマニュアルフォーカスに切り換えることができます。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

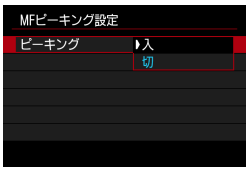
章目次
目 次
機能目次
索 引

MFピーキング設定(輪郭強調)

手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)のときに、ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることで、ピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度(レベル)や輪郭の色を変えることもできます(〈A+〉モードを除く)。

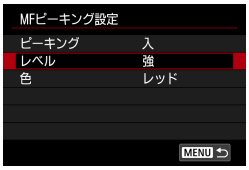


1 [📷:MFピーキング設定]を選ぶ



2 [ピーキング]を選ぶ

- [入]を選びます。



3 レベル、色を設定する

- 必要に応じて設定します。

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- 高ISO感度設定時(特に拡張ISO感度設定時など)は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、**[ピーキング]**を**[切]**に設定してください。

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

章目次 目 次
機能目次 索 引

フォーカスモードの切り換え

EF-Mレンズ装着時のフォーカスモードは、フォーカスモードスイッチを無効にするよう設定すると、メニューでも切り換えることができます。

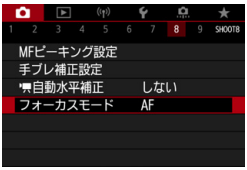


1 [: スイッチ (AF/MF)] を選ぶ



2 [無効] を選ぶ

- フォーカスモードスイッチが無効になり、メニューの [: フォーカスモード] 設定が有効になります。



3 [: フォーカスモード] を選ぶ



4 項目を選ぶ

- [AF] を選ぶと、オートフォーカスになります。
- [MF] を選ぶと、マニュアルフォーカスになります。
  ただし、かんたん撮影ゾーンの撮影モードによっては、[MF] を選んでもAF固定になります。

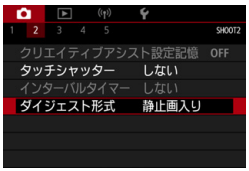
章目次
目 次
機能目次
索 引

ダイジェスト形式

〈🎥〉モード時で撮影すると、静止画とダイジェスト動画が記録されますが、ダイジェスト動画の中に静止状態の映像を記録するかどうかを設定できます。



1 〈🎥〉モードにする



2 [📷：ダイジェスト形式]を選ぶ



3 内容を設定する

- **[静止画入り]**
  ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像が記録されます。
- **[静止画なし]**
  ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像は記録されません。

リモコン撮影

「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）、または「リモートスイッチ RS-60E3（別売／有線）」を使用したリモコン撮影を行うことができます。

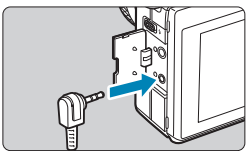
ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラとBR-E1のペアリングを行なってから（448）、ドライブモードを【  】または【  】に設定してください（137）。
操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。

- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。
- 動画撮影時にリモコンを使用することもできます（278）。

リモートスイッチ RS-60E3

カメラに取り付けて、有線でリモコン撮影を行うことができます。
操作方法については、RS-60E3の使用説明書を参照してください。



1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

章目次
目 次
機能目次
索 引

静止画撮影全般の注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い［🔥］と赤い［🔥］表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【🔥】または赤い【🔥】が表示されます。
- 白い【🔥】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い【🔥】は、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行うと、白い【🔥】または赤い【🔥】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【🔥】が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面や露出値の表示がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で**[: 画面の明るさ]**を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

レンズについて

- EF-Mレンズ使用時は、**[: 手ブレ補正設定]**の**[手ブレ補正]**が**[入]**のとき、EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

- 市販のHDMIケーブル（カメラ側端子はタイプD）を使用すると、映像をテレビに表示することができます（📖323）。ただし、音声は出力されません。

静止画撮影全般の注意事項

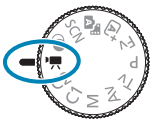
情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、📖585を参照してください。

- 【Exp.SIM】が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- 【Exp.SIM】が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは【Exp.SIM】とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは、【📷：露出Simulation】が【する】に設定されているときに（📖156）表示することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影



動画撮影を行うときは、モードダイヤルを〈🎥〉にします。

- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画を撮影することができます。
- 動画の撮影モードは、モードダイヤルを〈🎥〉に合わせたあと、【📷：撮影モード】から設定することもできます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

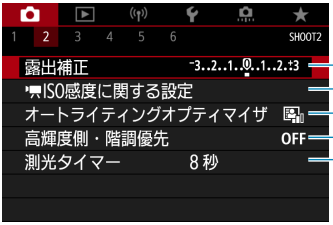
メニュー目次:動画撮影

- 撮影1



234
243
250
130
225
252
263

- 撮影2



142
279
151
152
155

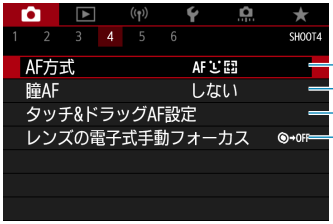
- 撮影3



157
160
162
165
174

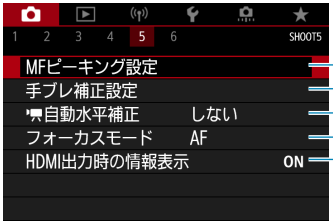
章目次
目 次
機能目次
索 引

● 撮影4



200
211
214
216

● 撮影5



222
218
272
223
280

● 撮影6



273
281
275
276

メニュー目次：動画撮影

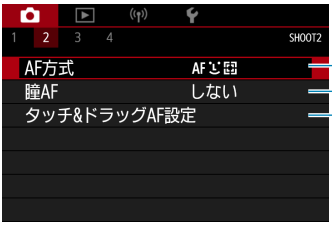
［HDR］モードのときは、以下の画面が表示されます。

● 撮影1



241
250
225
263

● 撮影2



200
211
214

● 撮影3



222
218
223

章目次
目 次
機能目次
索 引

● 撮影4



273

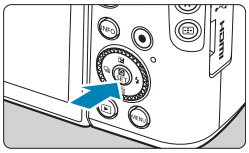
動画モード

[動画自動露出] 撮影

明るさに応じて自動露出制御が行われます。



1 モードダイヤルを〈🎥〉にする

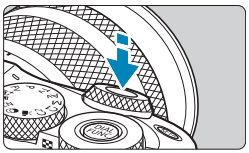


2 〈SET〉を押す



3 [🎥]を選ぶ

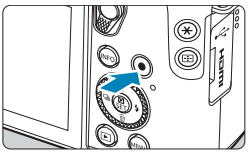
- 〈▲〉〈▼〉で[🎥 (動画自動露出)]を選び、〈SET〉を押します。

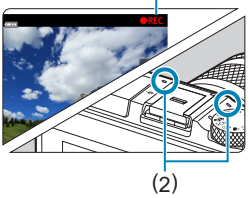


4 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます (📖202～📖210、📖220)。
- 初期状態では、[📷:動画サーボAF]が[する]に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (📖273)。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

章目次
目 次
機能目次
索 引





5 動画を撮影する

- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- 動画撮影中は、画面右上に［●REC］（1）が表示されます。
- 図の位置に示すマイク（2）で音声が記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

- ［:撮影モードガイド］を［表示しない］に設定しているときは、手順2のあと、クイック設定画面が表示されます。〈◀〉〈▶〉で［］を選びます。
- 〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊞〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- ±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、自動露出で動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したスピードライトの使用説明書を参照してください。

［動画］モード設定時のISO感度

ISO感度は自動設定されます。ISO感度については、📖279、📖583を参照してください。

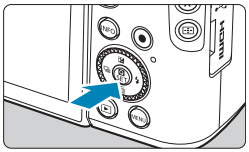
動画モード

[動画マニュアル露出] 撮影

任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。



1 モードダイヤルを〈🎥〉にする



2 〈SET〉を押す



3 [🎥M] を選ぶ

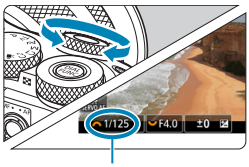
- 〈▲〉〈▼〉で [🎥M (動画マニュアル露出)] を選び、〈SET〉を押します。



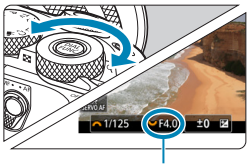
4 ISO感度を設定する

- 〈M-Fn〉ボタンを押します。
- 〈◄〉〈►〉で設定します。

章目次 目 次
機能目次 索 引



(1)



(2)

5 シャッタースピード（1）と絞り数値（2）を設定する

- シャッタースピードは〈 〉、絞り数値は〈 〉を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、1/4000～1/8秒です。

6 ピントを合わせて撮影する

- 『**[動画自動露出]** 撮影』（📖234）の手順4、5と同じです。

- **[:撮影モードガイド]** を **[表示しない]** に設定しているときは、手順2のあと、クイック設定画面が表示されます。〈◀〉〈▶〉で **[M]** を選びます。

動画モード

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈⊞〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- [📹] モード時に撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

[動画マニュアル露出] 設定時のISO感度

ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。ISO感度については、🕮279、🕮583を参照してください。

静止画撮影

動画撮影モードでは、静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、モードダイヤルを回してほかの撮影モードに変更してください。

動画撮影時の情報表示

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、🕮587を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- [AWB] [AWB W] の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイク（235）を指などでふさがないようにしてください。
- 『動画撮影全般の注意事項』は、282〜283にまとめて記載しています。
- 必要に応じて226〜228の『静止画撮影全般の注意事項』もお読みください。

動画モード

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K／フルHD／HD撮影時ともに約100%です。
- AFスタートボタンでピント合わせを行うこともできます。
- **[:動画撮影時シャッターボタンの機能]**の**[全押し]**を**[動画撮影の開始/終了]**に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク（235）でステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子に、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）などの外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます（251）。
- ミニプラグ（φ3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、4K動画／フルHD動画／HD動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4K動画／フルHD動画／HD動画：Rec.ITU-R BT.709で記録されます。

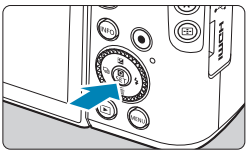
章目次
目 次
機能目次
索 引

HDR動画モード

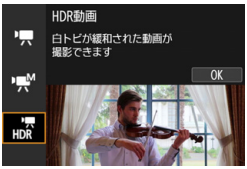
明暗差の大きいシーンで、白とびが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。



1 モードダイヤルを〈🎥〉にする



2 〈SET〉を押す



3 [HDR]を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉で[HDR(HDR動画)]を選び、〈SET〉を押します。

4 HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。
- 記録できる時間とファイルサイズについては、📖582の表を参照してください。

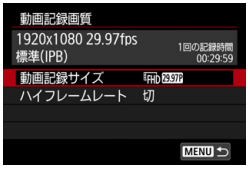
HDR動画モード

- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手持ち撮影のときは、手ブレにより、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。
- HDR動画撮影の設定を切り換えたときは、映像の色あいや明るさなどが瞬時に大きく変化することがあります。また、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。

- 記録サイズは、FHD 29.97P IPB（NTSC）、またはFHD 25.00P IPB（PAL）で記録されます。
- HDR動画撮影時のISO感度は、自動設定されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画記録画質



[📷：動画記録画質] の **[動画記録サイズ]** で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。撮影した動画は、MP4形式で記録されます。
なお、**[動画記録サイズ]** の画面に表示されるフレームレートは、**[：ビデオ方式]** の設定（📖504）により、自動的に切り換わります。

- **動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録サイズにより異なります。動画撮影を行う前に📖581を参照して、要求カード性能を確認してください。**

画像サイズ

- **[4K] 3840×2160**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。モードダイヤルが〈🎥〉以外のときは、選択できません。
- **[FHD] 1920×1080**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。
- **[HD] 1280×720**
  ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。

- **[：ビデオ方式]** の設定を変更したときは、**[📷：動画記録画質]** の **[動画記録サイズ]** の再設定を行ってください。
- 4K動画、FHD 59.94P / 50.00P で撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定や、使用するレンズにより、解像感やノイズ感は多少異なります。

- VGA画質の動画を撮影することはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画記録画質

4K動画撮影

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。詳しくは、『動画が記録できるカード』（📖581）を参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。**動画撮影時に［🔥］や赤い［🔥］が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。**
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約830万画素（3840×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（📖317）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

フレームレート（fps：frame per second）

- ［119.9P］119.88fps／［59.94P］59.94fps／［29.97P］29.97fps／［23.98P］23.98fps
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- ［100.0P］100.00fps／［50.00P］50.00fps／［25.00P］25.00fps
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

圧縮方式

- ［IPB］IPB（標準）
  複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。
- ［ALL-I］ALL-I（編集用／I-only）
  タイムラプス動画撮影（252）のときは、ALL-I方式で映像圧縮が行われます。1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。
- ［IPB］IPB（軽量）
  IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

動画記録形式

- ［MP4］MP4
  このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

動画が記録できるカード

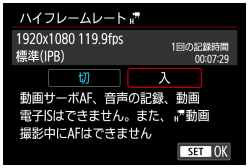
各動画記録サイズで記録できるカードについては、📖581を参照してください。
なお、動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が📖581の表に示す速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、**事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ（📖243）で正しく記録できることを確認してください。**

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前にカードを初期化してください（📖492）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（📖492）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

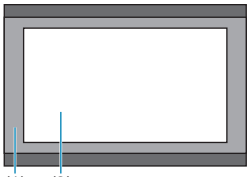
ハイフレームレート

[📷：動画記録画質] の **[ハイフレームレート]** を **[入]** にすると、フルハイビジョン（Full HD）画質で119.88fps/100.00fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。



FHD 119.9P IPB、またはFHD 100.0P IPBで記録されます。また、撮影画面の中央部をクロップして撮影されます。
ハイフレームレート動画撮影中は、動画サーボAF、動画電子ISは機能しません。また、AFによるピント合わせはできません。

撮影範囲



（1）Full HD撮影時
（2）ハイフレームレート撮影時

(1) (2)

なお、ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、1/4倍速のスローモーションで再生されます。

- 設定を **[切]** に戻したときは、**[動画記録サイズ]** の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレーム動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- 音声は記録されません。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

- **このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用時**

  SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。
  FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。
  なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

- **このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時**

  SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。
  exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください（📖555）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

各動画記録サイズで動画記録できる時間、およびファイルサイズについては、📖582を参照してください。

撮影時間の制限

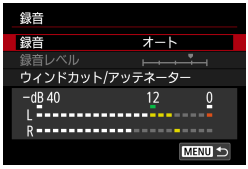
- **ハイフレームレート以外の動画撮影時**

  1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- **ハイフレームレート動画撮影時**

  1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

録音



内蔵のステレオマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。
[📷：録音] で録音に関する設定を行うことができます。

録音／録音レベル

- **オート**
  録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。
- **マニュアル**
  録音レベルを任意に調整することができます。
  [録音レベル] を選び、レベルメーターを見ながら〈◀〉〈▶〉を押すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの **[12]**（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。**[0]** を超えると音が割れます。
- **しない**
  録音は行われません。

ウィンドカット

[オート] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を自動的に低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。**[録音]** を **[オート]** または **[マニュアル]** に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは**[入]** に設定することをおすすめします。

外部マイク

通常はカメラに内蔵されたマイクでステレオ録音されます。
外部マイク入力端子に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）の使用をおすすめします。

- 内蔵マイク／外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用すると、これらの音を低減できることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。

- かんたん撮影ゾーンおよび【HDR】モードのときは **[録音]**：**[する]** **[しない]** になります。なお、**[する]** に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（**[録音：しない]** 設定時を除く）。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

タイムラプス動画

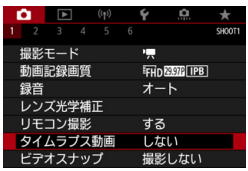
一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時：4K 29.97P ALL-I（NTSC）／4K 25.00P ALL-I（PAL）、フルHD撮影時：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

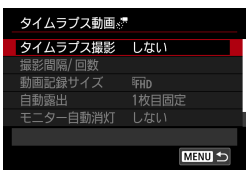
なお、フレームレートは、**[: ビデオ方式]**の設定（504）により自動的に切り換わります。

1 撮影モードを選ぶ

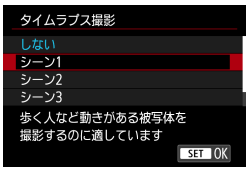
- **[ ]**（234）または **[ ]**（236）を選びます。



2 [: タイムラプス動画] を選ぶ



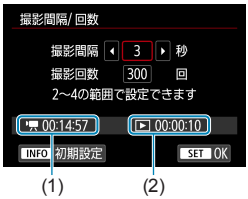
3 [タイムラプス撮影] を選ぶ



4 シーンを選ぶ

- 撮影シーンに応じて、シーンを選びます。
- 撮影間隔と回数を自由に設定して撮影したいときは **[カスタム]** を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



(1) (2)

5 撮影間隔を設定する

- **[撮影間隔/回数]** を選びます。
- **[撮影間隔]**（秒）を選びます。〈◄〉〈►〉で数値を設定し〈**SET**〉を押します。
- **[🚗:撮影所要時間]**（1）、**[▶:再生時間]**（2）を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- **[撮影間隔]**（分：秒）を選びます（1秒間隔の撮影はできません）。
- 〈**SET**〉を押して **[☆]** の状態にします。
- 数値を設定し〈**SET**〉を押します（**[□]** の状態に戻ります）。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。



6 撮影回数を設定する

- **[撮影回数]** を選びます。〈◄〉〈►〉で数値を設定し〈**SET**〉を押します。
- **[🚗：撮影所要時間]** **[▶：再生時間]** を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- 項目（桁）を選びます。
- 〈**SET**〉を押して **[☆]** の状態にします。
- 数値を設定し〈**SET**〉を押します（**[□]** の状態に戻ります）。
- **[▶：再生時間]** が赤く表示されていないことを確認します。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。

タイムラプス動画

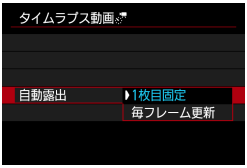
- **[シーン**]** 設定時は、各シーンに適切な撮影ができるように、設定できる撮影間隔/回数が限定されています。
- 4K 29.97P／4K 25.00Pのビットレートは約300Mbps、FHD 29.97P／FHD 25.00Pのビットレートは約90Mbpsになります。読み取り速度が充分に速いカードをお使いください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。



7 動画記録サイズを選ぶ

- **4K（3840×2160）**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。
- **FHD（1920×1080）**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



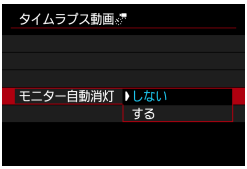
8 [自動露出] を設定する

- **1枚目固定**

  1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

- **毎フレーム更新**

  2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、**[オート]** に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。



9 [モニター自動消灯] を設定する

- **しない**

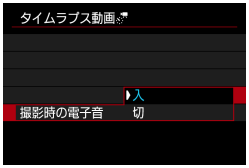
  タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。

- **する**

  撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

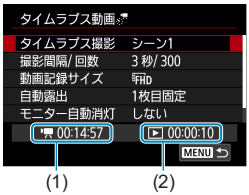
● タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

タイムラプス動画



10 電子音を設定する

- 【撮影時の電子音】を選びます。
- 【切】に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。



11 設定内容を確認する

(1) 撮影所要時間

撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

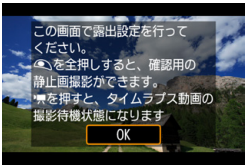
(2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

12 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

章目次
目 次
機能目次
索 引



13 メッセージを確認する

- メッセージを確認して [OK] を選びます。

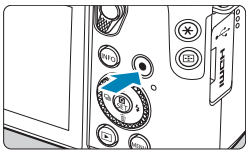
14 テスト撮影する

- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

- テスト撮影画像は、JPEG **L**の画質で記録されます。
- [ ] モード、および [M] モード+ISOオート設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、[: **ISO感度に関する設定**] の [**オートの上限**] で設定することができます（279）。
- [: **動画撮影時シャッターボタンの機能**] の [**半押し**] が、[**測光・動画サーボ**] に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に [**測光・ワンショット**] に切り換わります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

タイムラプス動画

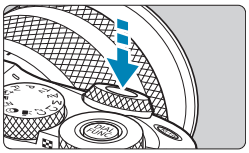


15 動画撮影ボタンを押す

- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順14に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。



(1) (2)



16 タイムラプス動画を撮影する

- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間(1)」「撮影間隔(2)」を再確認します。
- **シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。**
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、[●REC]が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- **タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影]を[しない]に設定します。**

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、**【再生時間】**が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した**【撮影回数】**でファイルサイズが4GBを超えるときに、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは（🕮493）、**【再生時間】**が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは［Exp.SIM］マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、**【：動画撮影時シャッターボタンの機能】**の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- **【撮影間隔】**が3秒以下で、**【自動露出】**が**【毎フレーム更新】**に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

タイムラプス動画

- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- **[モニター自動消灯]**を**[しない]**に設定しても、露光中はモニターが消灯します。また、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[📷：タイムラプス動画]**を**[しない]**に設定してください。**[しない]**以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチを〈OFF〉にしたり、オートパワーオフで電源が切れたときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が**[しない]**になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が**[しない]**になります。
  - **[🔧：センサークリーニング]**の**[今すぐクリーニング]**、**[🔧：カメラの初期化]**の**[基本設定]**を選んだとき
  - モードダイヤルを回したとき
- 白い**[📷]**（📖226）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い**[📷]**が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- **[自動露出]**を**[毎フレーム更新]**に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順14のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- 映像の視野率は、4K／フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき **【再生時間】** は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

タイムラプス動画

● ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

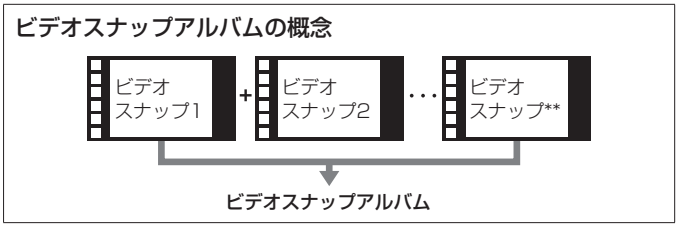
- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください（448）。
- **[📷：リモコン撮影]** が **[する]** に設定されていることを確認してください。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態（258手順15の状態）にしたあと、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即レリーズ（すぐに撮影）、または〈2〉2秒後レリーズ（2秒後撮影）に設定してください。
- リモコンのスイッチが〈🎥〉に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

カメラの状態／リモコン設定	〈●〉すぐに撮影 〈2〉2秒後撮影	〈🎥〉動画撮影
テスト撮影画面	テスト撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

章目次
目 次
機能目次
索 引

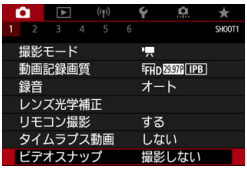
ビデオスナップ

1シーンが数秒間の短い動画「ビデオスナップ」（以下スナップ）を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの想い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。
ビデオスナップは、動画記録サイズが FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のときに設定できます。
できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（355）。

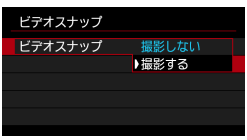


1 撮影モードを選ぶ

- [ ]（234）または [ ]（236）を選びます。



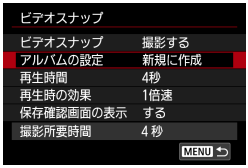
2 [：ビデオスナップ] を選ぶ



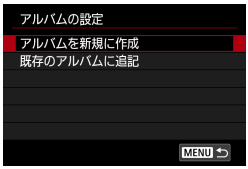
3 [撮影する] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

ビデオスナップ

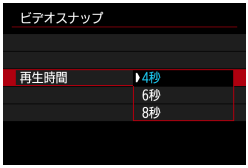


4 [アルバムの設定] を選ぶ



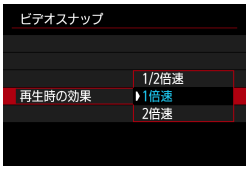
5 [アルバムを新規に作成] を選ぶ

- メッセージを確認して [OK] を選びます。



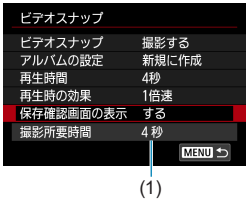
6 再生時間を設定する

- 1スナップの再生にかかる時間です。



7 再生時の効果を設定する

- アルバムの再生速度です。



8 撮影所要時間を確認する

- 再生時間と再生時の効果をもとに、1スナップの撮影に必要な時間（1）が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



(2)

9 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- 画面に撮影時間（2）を示す青いバーが表示されます。



10 最初のスナップを撮影する

- 動画撮影ボタンを押して撮影します。
- 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- 確認画面が表示されます（266）。



11 アルバムとして保存する

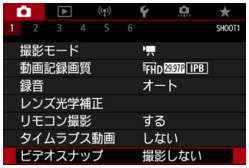
- **［アルバムとして保存］**を選びます。
- アルバムの先頭スナップとして保存されます。



12 続けてスナップを撮影する

- 手順10と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- **［アルバムに追加する］**を選びます。
- 別のアルバムを作るときは、**［新しいアルバムとして保存］**を選びます。
- 必要に応じて手順12を繰り返します。

ビデオスナップ



13 ビデオスナップ撮影を終了する

- 〔ビデオスナップ〕を〔撮影しない〕に設定します。**通常の動画を撮影するときは、〔撮影しない〕に設定してください。**
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

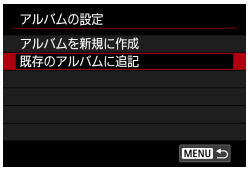
手順11、手順12の画面について

項目	内容
アルバムとして保存（手順11）	アルバムの最初のスナップとして保存します。
アルバムに追加する（手順12）	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存（手順12）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する（手順11、手順12）	いま撮影したスナップを再生します。
アルバムとして保存しない（手順11） アルバムに追加しないで消去（手順12）	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で〔OK〕を選びます。

- スナップを撮影したあと、すぐに次のスナップを撮影したいときは、**〔：ビデオスナップ〕の〔保存確認画面の表示〕を〔しない〕**に設定します。この設定にしておくと、撮影直後に確認画面が表示されなくなるため、すぐに次のスナップを撮影することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

既存のアルバムに追記する



1 [既存のアルバムに追記] を選ぶ

- 264の手順5で **[既存のアルバムに追記]** を選びます。



2 既存のアルバムを選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で既存のアルバムを選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選びます。
- 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。

3 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

4 スナップを撮影する

- 『ビデオスナップ』（263）の手順10を参照し、スナップを撮影します。

- 他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

- **[再生時の効果]** で、**[1/2倍速]** **[2倍速]** を選んだときは、音声は記録されません。
- 1スナップの撮影所要時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ジオラマ風動画

指定した範囲以外をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて動画を撮影できます。



1 撮影モードを選ぶ

- [ ](234) または [ ](236) を選びます。



2 [ ] を選ぶ

- 〈SET〉ボタンを押し、クイック設定で [ ] から、[ ] を選びます。



3 ジオラマ枠を移動する

- 〈 〉ボタンを押すか画面右下の [ ] をタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動させることができます。
- [ ] をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- ジオラマ枠が横向きの場合は〈◄〉〈►〉、縦向きの場合は〈▲〉〈▼〉でも、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で、ジオラマ枠が移動します。〈INFO〉ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。



4 AFフレームを移動する

- 〈✥〉十字キーで、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動し、〈SET〉を押します。

5 撮影する

動画を1分間撮影したときの倍速と再生時間の目安

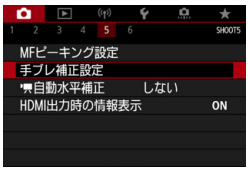
倍速	再生時間
5x	約12秒
10x	約6秒
20x	約3秒

- 音声は録音されません。
- 手順2で、〈INFO〉ボタンを押すと、倍速を変更できます。
- [5x] [10x] [20x] を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動きます。そのため、ミニチュア模型のように見えます。

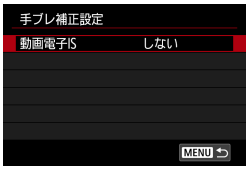
章目次
目 次
機能目次
索 引

動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの電子式手ブレ補正機能で軽減することができます。この機能を「動画電子IS」といいます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズでも、動画電子IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。レンズに光学式手ブレ補正機能が内蔵されているときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。



1 [📷：手ブレ補正設定] を選ぶ



2 [動画電子IS] を選ぶ



3 項目を選ぶ

- **しない（OFF）**
  動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。
- **する（小）**
  手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。
- **強（大）（静止画撮影時は表示されません）**
  [する] 設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

コンビネーションIS機能について

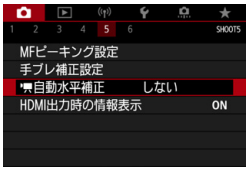
「コンビネーションIS」機能に対応したレンズと、動画電子IS機能を併用して動画撮影を行うと、レンズの光学式手ブレ補正機能とカメラの電子式手ブレ補正機能が協調して、より高い補正効果が得られます。

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- レンズの焦点距離が800mmを超えるときは、動画電子ISは機能しません。
- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなることがあります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は **[しない]** に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、他社製レンズ使用時は、**[しない]** に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

- コンビネーションIS機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- コンビネーションIS機能に対応したレンズを使用したときは、📖270に示した動画電子ISのマークに「+」が付加された状態で表示されます。

動画自動水平補正

動画を撮影するときに、画面を水平に保つように補正します。撮影をはじめると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなることがあります。



1 [📷：自動水平補正] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

● [動画電子IS] が [しない] のときに設定することができます。

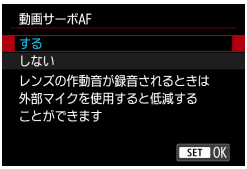
章目次 目 次
機能目次 索 引

動画サーボAF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。



1 [📷：動画サーボAF] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

- **[する] 設定時**
  - シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
  - 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の [SERVO AF] をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。
  - 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。
- **[しない] 設定時**
  - シャッターボタンを半押しするか、AFスタートボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画サーボAF

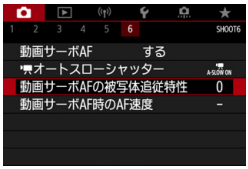
［動画サーボAF：する］設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 絞り数値が大きいとき
  - 『ピントが合いにくい撮影条件』（🕮210）も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間（🕮582）が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用することで、作動音の記録を低減できることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画サーボAFの被写体追従特性

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。



1 [📷：動画サーボAFの被写体追従特性]を選ぶ



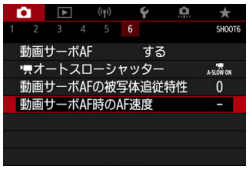
- **粘る：-3/-2/-1**
  被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

- **敏感：+1/+2/+3**
  AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

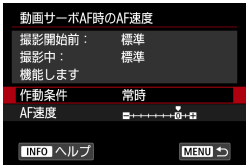
- [📷：動画サーボAF]が[する]、[📷：AF方式]が[1点AF]のときに設定することができます。
- [📷：AF方式]が[1点AF]以外のときは、[0]に設定したときと同じ動作になります。

動画サーボAF時のAF速度

動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。
この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。



1［📷：動画サーボAF時のAF速度］を選ぶ



- **作動条件：**
  設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（**[常時]**）、動画撮影中のみ有効にするか（**[撮影中]**）を設定することができます。



- **AF速度：**
  作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1～-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

***「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて**

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

- **[📷：動画サーボAF]** が **[する]**、**[📷：AF方式]** が **[1点AF]** のときに設定することができます。
- **[📷：AF方式]** が **[1点AF]** 以外のときは、**[AF速度]** を **[標準 (0)]** に設定したときと同じ動作になります。
- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、**[📷：動画サーボAF時のAF速度]** の右端に「*」が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

その他のメニュー機能

[📷1]

- **レンズ光学補正**

  動画撮影時は、周辺光量補正、色収差補正を行うことができます。レンズ光学補正については、📖130を参照してください。

- **リモコン撮影**

  [する] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、動画撮影の開始／停止を行うことができます。あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください（📖448）。

  ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

  通常の動画撮影を行うときは、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉の位置にして、レリーズボタンを押します。
  タイムラプス動画撮影を行うときは、📖262を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

[📷2]

- **ISO感度に関する設定**
  - **ISO感度** 応用
    [🎥M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。
  - **ISO感度の範囲**
    動画撮影時のISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。
  - **オートの上限**
    [🎥] モード、または [🎥M] モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。
  - **✨オートの上限**
    [🎥] モード、または [🎥M] モード+ISOオートの設定でタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

- 動画撮影時のISO25600は拡張感度です（[H] と表示されます）。

- **高輝度側・階調優先**
  ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、📖152を参照してください。

- 動画撮影時は、[📷：高輝度側・階調優先] 設定時に [強] は選択できません（表示されません）。

その他のメニュー機能

[5]

● HDMI出力時の情報表示



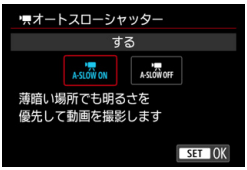
HDMIケーブルで映像を出力するときの情報表示を設定することができます。

- **あり**
  HDMI出力先に、映像および撮影情報やAFフレームなどが表示されます。なお、カメラの画面は消灯します。記録した映像はカードに保存されます。
- **なし/4K**
  4K動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。
- **なし/FHD**
  フルHD動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

[📷6]

● オートスローシャッター



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**[しない]** 設定時よりも明るい映像を記録するかどうかを選択することができます。
この機能は動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00Pのときに機能します。

- **しない**
  [する] 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**[する]** 設定時よりも映像が暗くなることがあります。
- **する**
  暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、**[しない]** 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

● 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**[しない]** に設定することをおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い［🔥］表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い【🔥】が表示されます。
- 赤い【🔥】は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、赤い【🔥】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 【📼】が表示されたときは、📖567を参照してください。

記録と画質について

- EF-Mレンズ使用時は、【📷：**手ブレ補正設定**】の【**手ブレ補正**】が【**入**】のとき、EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、レンズの手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます（タイムラプス動画撮影時を除く）。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。

記録と画質について



(1)

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーター（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

音声の制約について

- （音声が記録される）動画撮影時は、以下の制約事項があります。ご了承ください。
  - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
  - Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

章目次
目 次
機能目次
索 引

ストロボ撮影

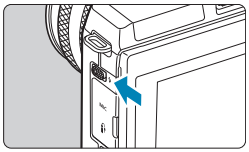
この章では、内蔵ストロボ、または外部ストロボ（EL／EXスピードライト）を使った撮影について説明しています。

- 動画撮影時はストロボ撮影はできません。
- ストロボ撮影時はAEB撮影はできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

内蔵ストロボ撮影

モニターに【ϟ】が表示されたときや、日中逆光時、暗い場所などでは、内蔵ストロボの使用をおすすめします。



1 〈ϟ〉レバーを操作して、内蔵ストロボを上げる

2 シャッターボタンを半押しする

- モニターに【ϟ】が表示されていることを確認します。

3 撮影する

- 【ストロボの発光】（📖292）の設定に従って内蔵ストロボが発光します。
- 撮影が終わったら、内蔵ストロボを「カチッ」と音がするまで手で押し下げて収納します。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安

（最大・約・m）

ISO感度（📖145）	EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM	
	広角側	望遠側
	F3.5	F6.3
400	2.6	1.5
3200	7.4	4.1

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

章目次 目 次 機能目次 索 引

ストロボ撮影時のシャッタースピードと絞り数値

撮影モード	シャッタースピード	絞り数値
P	自動設定（1/200～30秒）*	自動設定
Tv	手動設定（1/200～30秒）	自動設定
Av	自動設定（1/200～30秒）*	手動設定
M	手動設定（1/200～30秒）	手動設定

* 【📷：ストロボ制御】の【スローシンクロ】を【1/200-30秒自動】に設定した場合

- 内蔵ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。
- レンズにフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、内蔵ストロボの光がさえぎられて、撮影した画像の下側が暗くなることがあります。

- 超望遠レンズや大口径レンズ使用時に画面の下側が暗くなるときは、外部ストロボ（別売／🕮302）の使用をおすすめします。

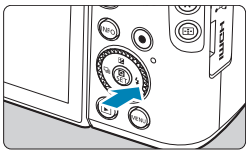
〈Av〉モードでのストロボ撮影

手動設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます。
暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は低速シャッターの組み合わせにより、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります。三脚の使用をおすすめします。

内蔵ストロボ撮影

ストロボ調光補正 応用

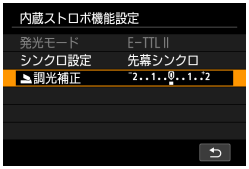
露出補正と同じ感覚で、内蔵ストロボの発光量を調整することができます。



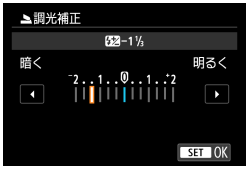
1 〈ϟ〉ボタンを押す



2 〈MENU〉ボタンを押す



3 [調光補正]を選ぶ



4 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは**[明るく]**（プラス補正）、撮影結果が明るいときは**[暗く]**（マイナス補正）の方向に補正量を設定します。
- 撮影が終わったら、手順1～4の操作で補正量をゼロに戻します。

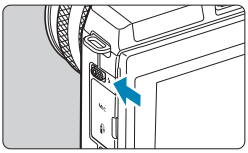
章目次 目 次
機能目次 索 引

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**（📖151）が **[しない]** 以外に設定されているときは、マイナス補正を行っても明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- **[📷：ストロボ制御]** の **[内蔵ストロボ機能設定]** で調光補正を行うこともできます（📖294）。
- 外部ストロボ使用時も同じ操作で、カメラから外部ストロボの調光補正ができます。

FEロック 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。



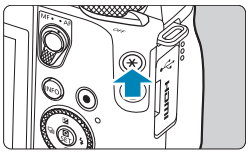
1 〈ϟ〉レバーを操作して、内蔵ストロボを上げる

2 シャッターボタンを半押しする

- シャッターボタンを半押しして、モニターに **[ϟ]** が点灯していることを確認します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

内蔵ストロボ撮影





3 〈✳〉ボタンを押す（⏲16）

- モニターの中央に被写体を置いて、〈✳〉ボタンを押します。
- ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。
- 【ϟ*】が点灯します。
- 〈✳〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4 撮影する

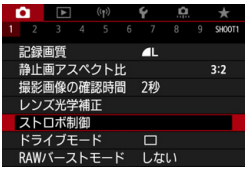
- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

- 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは【ϟ】が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

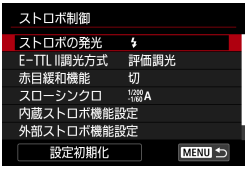
章目次
目 次
機能目次
索 引

ストロボ機能の設定

カメラのメニュー画面から、内蔵ストロボやEL／EXスピードライト（外部ストロボ）の機能を設定することができます。
外部ストロボの場合、設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。
なお、外部ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 [📷：ストロボ制御] を選ぶ



2 項目を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

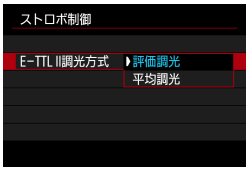
ストロボ機能の設定

ストロボの発光



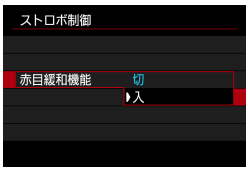
[ϟA] に設定すると、撮影状況に応じて自動発光します。
[ϟ] に設定すると、撮影時に常時発光します。
[⊘] に設定すると、ストロボ発光を禁止します。

E-TTL II 調光方式 応用



通常は、標準的なストロボ露出が得られる**[評価調光]**に設定します。**[平均調光]**に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

赤目緩和機能



[入] に設定すると、ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

スローシンクロ 応用



〈**Av**〉絞り優先AEモード、または〈**P**〉プログラムAEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

- **[1/200 -30 A] 1/200-30秒自動**

  明るさに応じてシャッタースピードが1/200～30秒の範囲で自動設定されます。暗い場所では（撮影状況に応じて）自動的にシャッタースピードが遅くなり、スローシンクロ撮影になります。

- **[1/200 -1/60 A] 1/200-1/60秒自動**

  暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

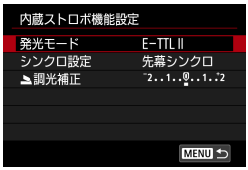
- **[1/200] 1/200秒固定**

  シャッタースピードが1/200秒に固定されるため、**[1/200-1/60秒自動]**よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では**[1/200-1/60秒自動]**よりも被写体の背景が暗くなります。

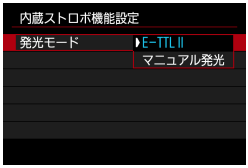
- 〈**Av**〉〈**P**〉モードでスローシンクロ撮影を行いたいときは、**[1/200-30秒自動]**に設定してください。

ストロボ機能の設定

内蔵ストロボ機能設定 応用



● 発光モード



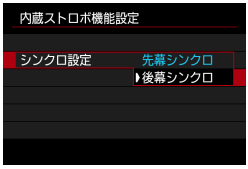
[E-TTL II] に設定すると、カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影を行うことができます。



[マニュアル発光] に設定すると、発光量を任意に設定することができます。
〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**Fv**〉モードのときに設定できます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

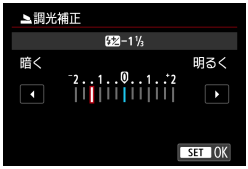
● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する **[先幕シンクロ]** に設定します。
[後幕シンクロ] に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/100秒以上の速い速度のときは、**[後幕シンクロ]** に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

● 調光補正



露出補正と同じ感覚で、内蔵ストロボの発光量を調整することができます(288)。

ストロボ機能の設定

外部ストロボ機能設定 応用

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、外部ストロボの使用説明書を参照してください。

表示例



(1) 発光モード
(2) ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能
(3) ズーム（照射角）
(4) シンクロ設定
(5) 調光補正
(6) FEB

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



[E-TTL II] は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL／EXスピードライトの標準的なモードです。
[マニュアル発光] は、ストロボの **[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。

[CSP]（連写優先モード）は、対応する外部ストロボを使用したときに設定することができます。通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消耗を抑えたいときなどに効果的です。
その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● 〈**Tv**〉〈**M**〉モードで、**[CSP]** の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて露出補正（142）を行ってください。

● **[CSP]** 設定時は、ISO感度が自動的に **[オート]** に設定されます。

ストロボ機能の設定

● ワイヤレス機能



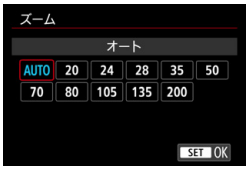
電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。
詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● 光量比制御（RATIO）機能



マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する**[先幕シンクロ]**に設定します。**[後幕シンクロ]**に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

[ハイスピード]に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、〈**Av**〉モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/100秒以上の速い速度のときは、**[後幕シンクロ]**に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

● 調光補正

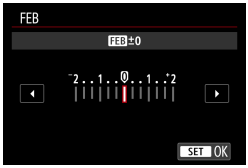


露出補正と同じ感覚で、外部ストロボの発光量を調整することができます。

- 外部ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

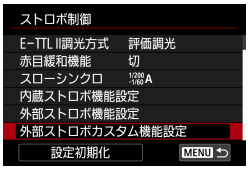
ストロボ機能の設定

● FEB



FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

外部ストロボカスタム機能設定

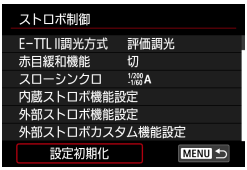


外部ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

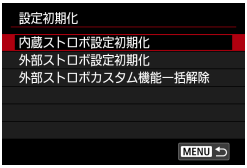
- EL／EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の**【調光方式】**を**【TTL】**（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。
- **[📷：外部ストロボカスタム機能設定]**の画面から、外部ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除 応用



1 [設定初期化] を選ぶ



2 初期化する内容を選ぶ

- **[内蔵ストロボ設定初期化] [外部ストロボ設定初期化] [外部ストロボカスタム機能一括解除]** のいずれかを選びます。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

外部ストロボ撮影

EOS用EL／EXシリーズスピードライト

このカメラは、EL／EXシリーズスピードライト（別売）の全機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL／EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

EL／EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
  カメラの撮影モードを〈**M**〉または〈**Av**〉に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

- 外部ストロボを使用する時は、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 外部ストロボを使用して撮影するときは、**[📷:シャッター方式]**を**[電子シャッター]**以外に設定にしてください（📖188）。
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生に関する一部機能によっては、再生操作を行ったときに使用できない画像が表示されることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

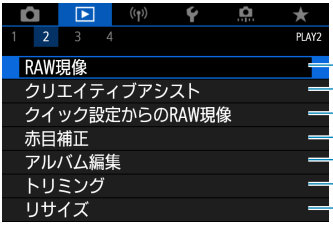
メニュー目次:再生タブ

● 再生1



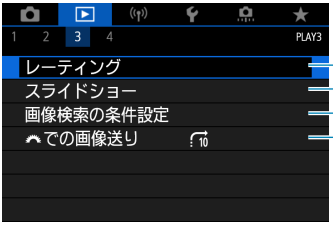
325
328
329
333
337
340

● 再生2



343
349
351
352
353
356
358

● 再生3

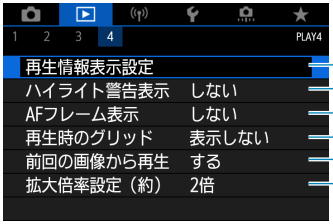


360
363
365
367

● かんたん撮影ゾーンのときは、[▶:RAW現像] [▶:クイック設定からのRAW現像]は表示されません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

● 再生4



369
371
372
373
374
375

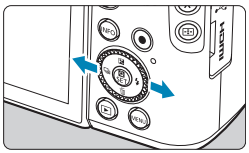
画像の再生

1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。



2 画像を選ぶ

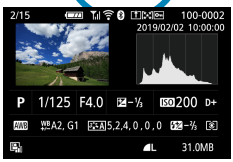
- 〈►〉を押すと新しい画像が、〈◄〉を押すと古い画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



情報表示なし



簡易情報表示



撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

撮影情報表示

撮影情報表示の画面が表示されている状態で〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、**[▶：再生情報表示設定]**で任意に設定することができます（📖369）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

画像の再生

タッチ再生

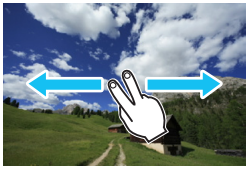
カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

画像送り





ジャンプ表示



インデックス表示



拡大表示

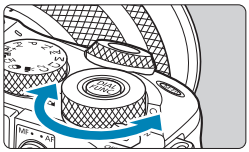


● 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

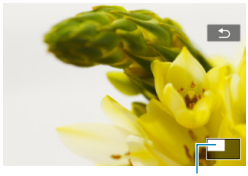
画像の拡大表示

撮影した画像を拡大表示することができます。

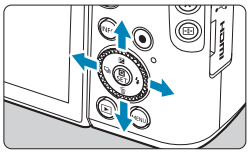


1 画像を拡大する

- 〈🦋〉を回すと拡大表示またはインデックス表示になります。拡大表示のときは、画面右下に拡大位置（1）が表示されます。



(1)



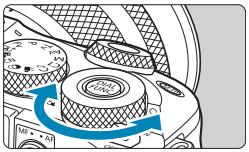
2 表示位置を移動する

- 〈✥〉十字キーを操作して表示位置を移動します。



章目次
目 次
機能目次
索 引

インデックス表示(複数画像表示)



1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈🦋〉を左に回します。
- ４枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
  さらに〈🦋〉を左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。
  反対側に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



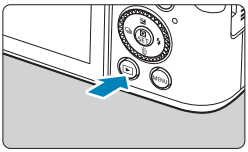


2 画像を選ぶ

- 〈✣〉十字キーを操作して、オレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

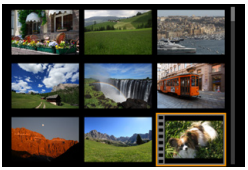
動画の再生



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。





2 動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。

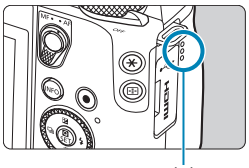


3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画の再生





4〈SET〉を押して動画を再生する

- 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 〈▲〉〈▼〉で、再生中でも音量を調整することができます。

(1) スピーカー

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒戻します。
◀⏸ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
⏸▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
⏭ 次スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒送ります。
✂ 編集	編集画面を表示します（📖315）。
📷 フレーム切り出し	4K動画／4Kタイムラプス動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像）として保存することができます（📖317）。
♫ BGM選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（📖355）。
▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（📖311）の音量を調整することができます。

動画の再生

動画再生パネル（ビデオスナップアルバム／ダイジェスト動画）

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前のチャプター	前のスナップ／チャプターの先頭画面を表示します。
◀⏸ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
⏸▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
⏭ 次のチャプター	次のスナップ／チャプターの先頭画面を表示します。
チャプター消去	再生中のスナップ／チャプターを削除します。
✂ 編集	編集画面を表示します（📖319）。
♫ BGM選択	BGMを選んで音楽と一緒にアルバムを再生できます（📖355）。
▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（📖311）の音量を調整することができます。

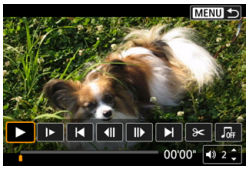
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（📖323）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈▲〉〈▼〉を操作しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いときや、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

- 動画撮影可能時間については、📖582を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

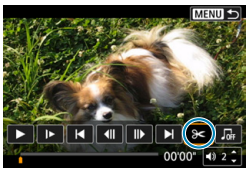
動画の前後部分のカット

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

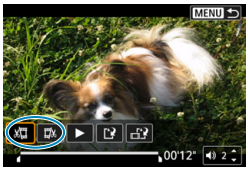


1 動画を再生して一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。



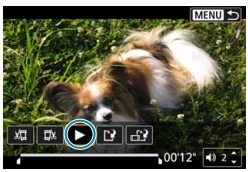
2 動画再生パネルで［✂］を選ぶ





3 削除する範囲を指定する

- ［前部を削除］か、［後部を削除］を選びます。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

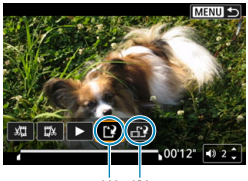


4 編集内容を確認する

- ［▶］を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画の前後部分のカット



(1) (2)

5 保存する

- [ ] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは **[新規保存]**、編集前の動画を残さないときは **[上書き保存]** を選びます。
- [ ] (2) を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存されます。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

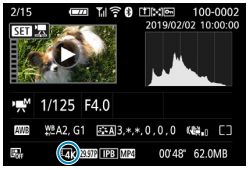
- 約1秒単位（画面下部に [ ] が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- 動画記録サイズが FHD 29.97P IPB （NTSC）/ FHD 25.00P IPB （PAL）の動画は、圧縮して新規保存はできません。

- ビデオスナップアルバムの編集方法は、『アルバム編集』（353）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

フレームの切り出し

4K動画、4Kタイムラプス動画から任意のフレームを選び、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 4K動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で4K動画、または4Kタイムラプス動画を選びます。
- 撮影情報表示の画面（📖592）で【4K】と表示されている画像が4K動画／4Kタイムラプス動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

4 動画を再生して一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

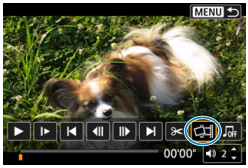


5 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、📖313を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

フレームの切り出し



6 [ ] を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で［ ］を選びます。



7 保存する

- **［OK］**を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。

8 表示する画像を選ぶ

- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。
- **［元の動画］**または**［切り出した静止画］**を選びます。

- フルHD動画やフルHDタイムラプス動画、HD動画、他のカメラで撮影した4K動画／4Kタイムラプス動画からは、フレーム切り出しはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ダイジェスト動画の編集

〈🎞〉モードで作成されたチャプターを1つずつ選んで消すことができます。消したチャプターは元に戻すことはできないため、十分に確認してから消してください。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 ダイジェスト動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉でダイジェスト動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に【SET 🎞】が表示されている画像がダイジェスト動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す



4 【🎞】を選ぶ

- ダイジェスト動画の再生が始まります。



5 〈SET〉を押してダイジェスト動画を一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

6 チャプターを選ぶ

- 【⏮】または【⏭】でチャプターを選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ダイジェスト動画の編集



7 [🗑] を選ぶ



8 [OK] を選び、〈SET〉を押す

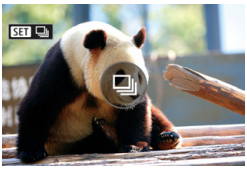
- チャプターが消去され、上書き保存されます。

- ビデオスナップアルバムを編集することもできます。ただし、**[▶:アルバム編集]**で作成されたアルバムは編集できません。
- ダイジェスト動画の動画再生パネルのその他の操作方法については、『動画再生パネル（ビデオスナップアルバム／ダイジェスト動画）』（📖314）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

RAWバースト画像からの静止画の切り出し

RAWバーストモードで撮影した画像（ロール）から（139）、任意の画像（JPEG/RAW）を切り出すことができます。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 ロールを選ぶ

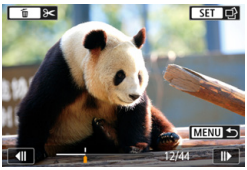
- 〈◀〉〈▶〉でロールを選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像がロールです。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す



4 ［］を選ぶ

- ロールが再生されます。



5 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で切り出す画像を選びます。
- 〈▼〉を押すと、ロールの前後を削除することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

RAWバースト画像からの静止画の切り出し



6 〈SET〉を押す

7 切り出す画像形式を選んで保存する

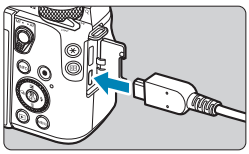
- 〈◀〉〈▶〉で[**JPEG で切り出し**]または[**RAW で切り出し**]を選びます。
- [**JPEG で切り出し**]を選んだあと、[**編集して保存**]を選ぶと、RAW現像（🕮343）を行ってから保存することができます。

- [**JPEGで切り出し**]を選んだときは、[**◢L**]（約1800万画素）の画質で保存されます。
- RAWバースト画像から切り出したJPEG画像や、切り出したRAW画像から現像を行ったJPEG画像のときは、クリエイティブフィルター、トリミング、リサイズ処理はできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

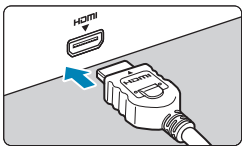
テレビで見る

市販のHDMIケーブル（長さ2.5m以下、カメラ側端子はタイプD）でカメラとテレビをつなぐと、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。
なお、**テレビに映像が表示されないときは、[:ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください**（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- HDMIケーブルをカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

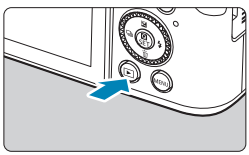


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

- 画像がテレビに表示されます（カメラのモニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

テレビで見る

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、**[🔧：HDMI出力解像度]**を**[1080p]**に設定してください（📖511）。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

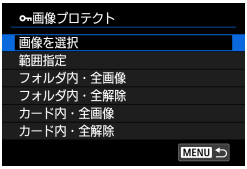
画像プロテクト

大切な画像を誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

画像を選択して1枚ずつプロテクト



1 [▶：画像プロテクト] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ

3 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉でプロテクトする画像を選びます。



4 プロテクトする

- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に［🔑］（1）が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され［🔑］が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

画像プロテクト

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶：画像プロテクト] の [範囲指定] を選びます。



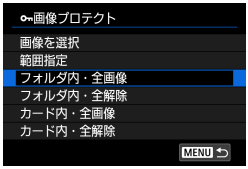
2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 指定した範囲の画像がプロテクトされ、[🔑] が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

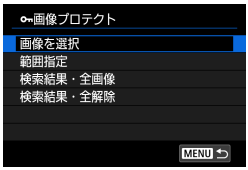
フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



[▶：画像プロテクト]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
解除するときは**[フォルダ内・全解除]**または**[カード内・全解除]**を選びます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖365）、表示される内容が**[検索結果・全画像]** **[検索結果・全解除]**に変わります。



[検索結果・全画像]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
[検索結果・全解除]を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

- **カードを初期化すると（📖492）、プロテクトされた画像も消去されます。**

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（📖332）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

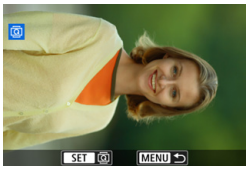
章目次
目 次
機能目次
索 引

画像回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で画像を回転させることができます。



1 [▶：画像回転] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で回転させる画像を選びます。



3 回転させる

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- **[：縦位置画像回転表示]** を **[する 凵]**（491）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、**[：縦位置画像回転表示]** を **[する 凵]** に設定します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

画像消去

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（📖325）をかけた画像は消去されません。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1 消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 〈◀〉〈▶〉で消去する画像を選びます。



2 〈🗑〉ボタンを押す

3 消去する



JPEG画像／RAW画像／動画

- 【消去】を選びます。



RAW＋JPEG画像

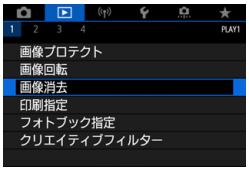
- 項目を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

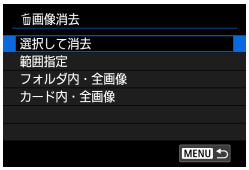
画像消去

チェック［√］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 ［▶：画像消去］を選ぶ

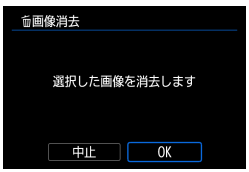


2 ［選択して消去］を選ぶ



3 画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で消去する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



4 消去する

- 〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

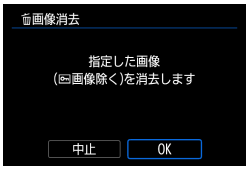
- [▶：画像消去] の [範囲指定] を選びます。



2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。

3 〈MENU〉ボタンを押す



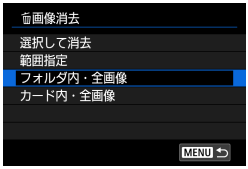
4 消去する

- [OK] を選びます。

画像消去

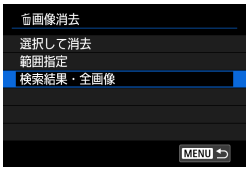
フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



[▶：画像消去]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖365）、表示される内容が**[検索結果・全画像]**に変わります。



[検索結果・全画像]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

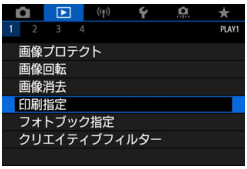
- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います（📖492）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

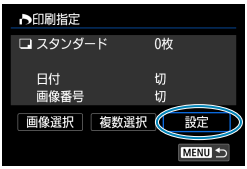
印刷指定

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 [▶：印刷指定] を選ぶ



2 [設定] を選ぶ

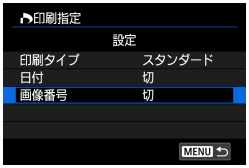
3 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

章目次
目 次
機能目次
索 引

印刷指定



4 設定を終了する

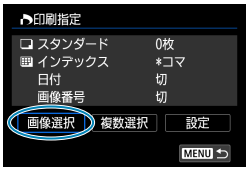
- 〈**MENU**〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の**[画像選択]**/**[複数選択]**で、印刷する画像を指定します。

- 画像サイズが大きい画像を**[インデックス]**/**[両方]**の設定で印刷すると（📖333）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（📖358）インデックス印刷を行ってください。
- **[日付]**/**[画像番号]**を**[入]**にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- **[インデックス]**に設定したときは、**[日付]**と**[画像番号]**を同時に**[入]**にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

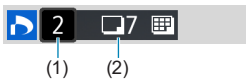
章目次 目 次
機能目次 索 引

印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。
〈**MENU**〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



● スタンダード／両方

〈**SET**〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈▲〉〈▼〉を押すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

(1) 指定枚数
(2) 総指定枚数

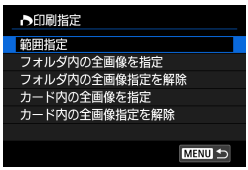


● インデックス

〈**SET**〉を押して【✓】を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

(3) チェックマーク
(4) インデックスマーク

● 複数選択



● 範囲指定

【複数選択】の**【範囲指定】**を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

印刷指定

- **フォルダ内の全画像**

  [フォルダ内の全画像を指定]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
  [フォルダ内の全画像指定を解除]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

- **カード内の全画像**

  [カード内の全画像を指定]を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
  [カード内の全画像指定を解除]を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

[▶:画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖365）、**[複数選択]**を選んだときに、表示される内容が**[検索結果の全画像を指定]** **[検索結果の全画像の指定解除]**に変わります。

- **検索結果の全画像**

  [検索結果の全画像を指定]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
  [検索結果の全画像の指定解除]を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

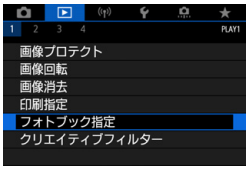
- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、**[複数選択]**でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

章目次 目 次
機能目次 索 引

フォトブック指定

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 [▶：フォトブック指定] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ



3 指定する画像を選ぶ

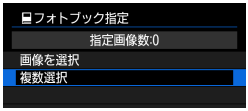
- 〈◄〉〈►〉で指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

フォトブック指定

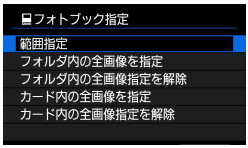
範囲を指定してフォトブック指定

インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。



1 [複数選択] を選ぶ

- [▶：フォトブック指定] の [複数選択] を選びます。



2 [範囲指定] を選ぶ



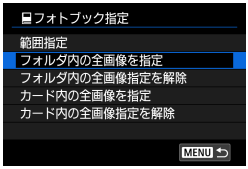
3 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

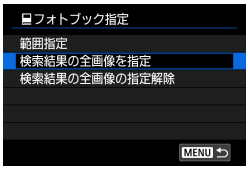
フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



[▶：フォトブック指定]の**[複数選択]**で**[フォルダ内の全画像を指定]**または**[カード内の全画像を指定]**を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
解除するときは**[フォルダ内の全画像指定を解除]**または**[カード内の全画像指定を解除]**を選びます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖365）、**[複数選択]**を選んだときに、表示される内容が**[検索結果の全画像を指定]** **[検索結果の全画像の指定解除]**に変わります。



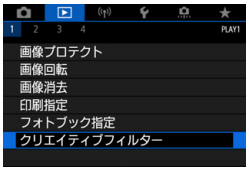
[検索結果の全画像を指定]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。
[検索結果の全画像の指定解除]を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、**[複数選択]**でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

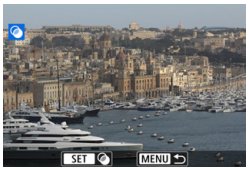
章目次
目 次
機能目次
索 引

クリエイティブフィルター

撮影した静止画に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。



1 [▶：クリエイティブフィルター] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◌〉を回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 フィルター効果を選ぶ（📖341）



4 フィルター効果を調整する

- フィルター効果を調整し、〈SET〉を押します。
- ジオラマ風は〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉で、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させ、〈SET〉を押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引



5 保存する

- 【OK】を選びます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して【OK】を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

- RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- アスペクト比を設定して撮影したRAW画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ（176）は付加されません。

各クリエイティブフィルターの特徴

- **ラフモノクロ**

  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

- **ソフトフォーカス**

  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

- **魚眼風**

  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

クリエイティブフィルター

- **油彩風**

  油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **水彩風**

  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**

  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**

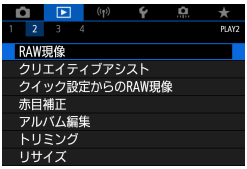
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で白枠（はっきり見せたい部分）が横向きの場合は〈◄〉〈►〉、縦向きの場合は〈▲〉〈▼〉を押す（または画面の【⿻】をタッチする）と、枠の横／縦を切り換えることができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

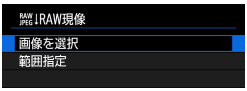
RAW現像

応用

RAWまたはCRAWで撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像を作ることができます。RAW画像はそのままなので、条件を変えて現像したJPEG画像を作ることができます。
RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。



1 [▶：RAW現像] を選ぶ



2 項目を選び、画像を選択する

- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。



画像を選択

- 〈◀〉〈▶〉で現像する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。



範囲指定

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

RAW現像

3 現像条件を設定する

撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。



細かく設定して現像

- 〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉で項目を選びます。
- 〈 〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈SET〉を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈 〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

比較画面について

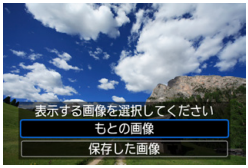
- 〈INFO〉ボタンを押して〈 〉を回すと、**[変更後]**と**[撮影時設定]**を切り換えることができます。
- **[変更後]**のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。



4 保存する

- **[細かく設定して現像]**のときは**[ ]**（保存）を選びます。
- 内容を確認し、**[OK]**を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは**[はい]**を選び、手順2～4を繰り返します。

章目次
目 次
機能目次
索 引



5 表示する画像を選ぶ

- **[もとの画像]** または **[保存した画像]** を選びます。

拡大表示について

[細かく設定して現像] を選んだあと、表示された画面で〈◡〉を回すと、画像を拡大することができます。拡大率は、**[記録画質]** の設定により異なります。〈✥〉十字キーで拡大表示位置を変えることができます。
反対側に〈◡〉を回すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

[📷：静止画アスペクト比]（📖127）を **[3:2]** 以外に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像が作られます。

RAW現像

現像処理の項目について

- **[☀±0] 明るさ補正**
  1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。
- **[AWB] ホワイトバランス（📖157）**
  ホワイトバランスを選ぶことができます。**[AWB]**を選んだときは、**[オート（雰囲気優先）]**/**[オート（ホワイト優先）]**を選ぶことができます。**[K]**を選んだときは、色温度を設定することができます。
- **[Creative] ピクチャースタイル（📖165）**
  ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。
- **[オートライティングオプティマイザ（📖151）**
  オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。
- **[NR] 高感度撮影時のノイズ低減（📖174）**
  ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（📖309）で確認してください。
- **[L] 記録画質（📖124）**
  JPEG画像を生成する際の記録画質を設定することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- **[sRGB] 色空間（📖164）**
  sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。
- **[レンズ光学補正]**
  - **[□OFF] 周辺光量補正（📖131）**
    レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（📖309）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。
  - **[歪OFF] 歪曲収差補正（📖131）**
    レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
    解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。
  - **[©OFF] デジタルレンズオプティマイザ（📖132）**
    レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。**[する]**設定時の効果は拡大表示（📖309）で確認してください。画像全体を表示しているときはデジタルレンズオプティマイザの効果は表示されません。なお、**[する]**を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに**[する]**で現像されます。

RAW現像

- **[色収差補正 OFF] 色収差補正（133）**
  レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。**【する】**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（309）で確認してください。
- **[回折補正 OFF] 回折補正（133）**
  レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。**【する】**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（309）で確認してください。

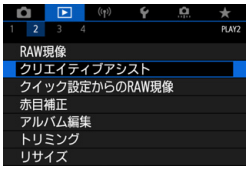
- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- **【明るさ補正】**を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- **【デジタルレンズオプティマイザ】**設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**【デジタルレンズオプティマイザ】**を**【しない】**に設定してください。

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

クリエイティブアシスト

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。



1 [▶：クリエイティブアシスト] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で現像する画像を選び、〈SET〉を押します。



3 効果を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で効果を選びます。



- [プリセット] を選んで〈SET〉を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

クリエイティブアシスト



- **[明るさ]** **[コントラスト]** などは、〈SET〉を押して〈◀〉〈▶〉で効果を調整します。
- 調整が終了したら〈SET〉を押します。



- 〈✱〉ボタンを押すと効果がリセットされます。
- 〈⊡〉ボタンを押して効果を確定します。



4 保存する

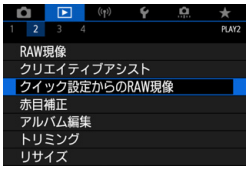
- [OK] を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

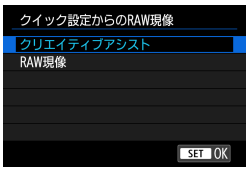
クイック設定からのRAW現像

応用

クイック設定画面から行うRAW現像の種類を選ぶことができます。



1 [▶：クイック設定からのRAW現像]を選ぶ



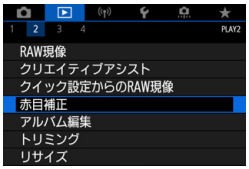
2 項目を選ぶ

- **クリエイティブアシスト**
  好みの効果を付けたRAW現像ができます（📖349）。
- **RAW現像**
  条件を設定したRAW現像ができます（📖343）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

赤目補正

ストロボ撮影で目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正します。別画像として保存できます。



1 [▶：赤目補正] を選ぶ



2 〈◀〉〈▶〉で画像を選ぶ

- 画像を選んだら [👁] をタッチするか、〈SET〉を押します。
- 補正された部分に白枠が表示されます。



3 保存する

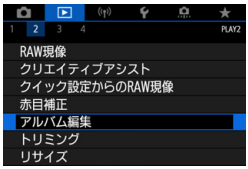
- [OK] を選びます。
- 別画像として保存されます。

- 画像によっては正しく補正されないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

アルバム編集

ビデオスナップアルバム内のスナップの順序の入れ換え、削除、再生などができます。



1 [▶：アルバム編集] を選ぶ



2 編集するアルバムを選ぶ

- 〈SET〉を押して [✓] を付けます。
- 選び終わったら〈MENU〉ボタンを押します。



3 [OK] を選ぶ



4 編集する項目を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

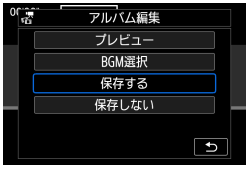
アルバム編集

項目	内容
ビデオスナップ 並べ換え	〈◄〉〈►〉で移動したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈◄〉〈►〉で移動し〈SET〉を押します。
ビデオスナップ 削除	〈◄〉〈►〉で削除したいスナップを選び、〈SET〉を押します。選択したスナップに、[🗑]が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、選択が解除され[🗑]が消えます。
ビデオスナップ 再生	〈◄〉〈►〉で再生したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。



5 編集を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して編集を終了します。
- [🖻]（編集完了）を選びます。



6 保存する

- 編集結果を確認するときは**[プレビュー]**を選びます。
- アルバムの再生時にBGMを一緒に再生するときは、**[BGM選択]**でBGMを選択します（📖355）。
- **[保存する]**を選ぶと編集したアルバムが新規アルバムとして保存されます。

- 編集後のアルバムを再度編集することはできません。

章目次 目 次
機能目次 索 引

BGMの選択

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーすると、アルバム再生時やスライドショー時にBGMを再生することができます。



1 [BGM選択] を選ぶ

- [BGM選択] で [する] を選びます。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉で音楽を選び、〈SET〉を押します。[スライドショー] では、音楽を複数選ぶことができます。

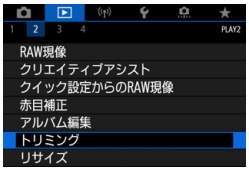
3 試聴する

- 〈INFO〉ボタンを押すと、試聴することができます。
- 〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。再度〈INFO〉ボタンを押すと、停止します。
- 音楽を削除するときは、〈▲〉〈▼〉で音楽を選び、〈⊞〉ボタンを押します。

- BGMをカードにコピーする方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

トリミング

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGで撮影した画像で行うことができます。RAWで撮影した画像は、トリミングできません。

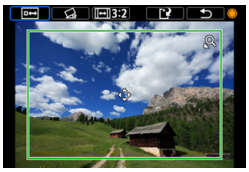


1 [▶：トリミング] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉でトリミングする画像を選びます。



3 トリミング枠の設定を行う

- 〈SET〉を押すと、トリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

- **枠の大きさを変える**

  〈◥〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

- **枠のアスペクト比と縦横を変える**

  〈◉〉を回して [3:2] を選びます。〈SET〉を押すと、枠のアスペクト比が変わります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

● **枠を移動する**

〈✥〉十字キーを操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● **傾きを補正する**

±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈◉〉を回して【⧄】を選び、〈SET〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈◉〉を回す（0.1°単位）、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉を押します。



4 トリミング範囲を確認する

- 〈◉〉を回して【⊶】を選びます。
- 切り抜かれる範囲が表示されます。



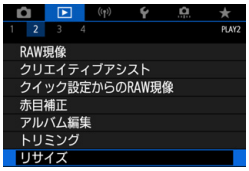
5 保存する

- 〈◉〉を回して【⧄】を選びます。
- 【OK】を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して【OK】を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（📖372）、ダストデリートデータ（📖176）は付加されません。

リサイズ

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**/**M**/**S1**で撮影した画像で行うことができます。JPEGの**S2**とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。



1 [▶：リサイズ] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉でリサイズする画像を選びます。



(1)

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ（1）を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



4 保存する

- 【OK】を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して【OK】を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

● リサイズした画像の画像サイズについては、📖584を参照してください。

レーティング

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[••]/[•••]/[••••]/[•••••]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。
* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

画像を選択して1枚ずつレーティング



1 [▶：レーティング] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ



3 レーティングする画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉でレーティングを行う画像を選びます。



4 レーティングを設定する

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈▲〉〈▼〉でお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

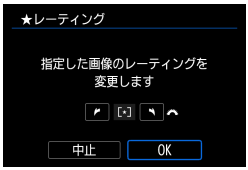
- [▶：レーティング] の [範囲指定] を選びます。



2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈MENU〉ボタンを押す



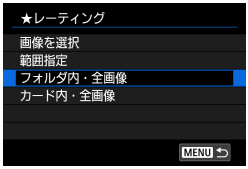
4 レーティングを設定する

- 〈 〉を回してお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
- 指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

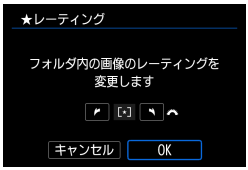
レーティング

フォルダ内／カード内全画像レーティング

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



[▶：レーティング]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



〈〜〉を回して、レーティングを選び、**[OK]**を選びます。
レーティングを行わないときや、解除するときは**[OFF]**を選びます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖365）、表示される内容が**[検索結果・全画像]**に変わります。



[検索結果・全画像]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると**[###]**と表示されます。
- **[▶：画像検索の条件設定]**【▶：〜での画像送り】で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

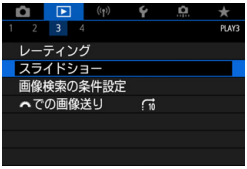
章目次
目 次
機能目次
索 引

スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、**[▶：画像検索の条件設定]**で絞り込みます（📖365）。



2 [▶：スライドショー] を選ぶ



3 再生内容を設定する

- **[設定]**を選びます。
- 静止画の**[再生間隔]**と**[リピート]**（繰り返し再生）、**[切り換え効果]**（画像を切り換える際の演出効果）を設定します。
- BGMを流したいときは、**[BGM選択]**でBGMを選択します（📖355）。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

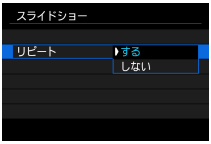
章目次
目 次
機能目次
索 引

スライドショー

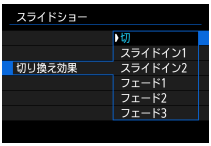
再生間隔



リピート



切り換え効果



BGM選択





4 スライドショーを開始する

- **[スタート]** を選びます。
  [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

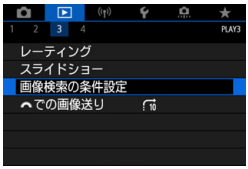
- 〈MENU〉 ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画面左上に **[II]** が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（306）。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉を押すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◄〉〈►〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

画像検索の条件設定

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。
なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。



1 [▶：画像検索の条件設定] を選ぶ



(1)

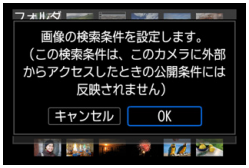
2 検索条件を設定する

- 〈▲〉〈▼〉で項目を選びます。
- 〈◀〉〈▶〉で内容を設定します。
  項目の左端に【✓】(1) が付きます（検索条件として指定されます）。
- 項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、【✓】が消えます（指定が解除されます）。

項目	内容
★レーティング	選択した（レーティング）条件の画像を表示します。
⊙日付	選択した撮影日の画像を表示します。
■フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
⊶プロテクト	選択した（プロテクト）条件の画像を表示します。
⊶ファイルの種類	選択した種類の画像ファイルを表示します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

画像検索の条件設定



3 検索条件を確定する

- 〈SET〉を押して、表示されるメッセージを確認します。
- [OK]を選びます。
- 検索条件が設定されます。



(2)

4 検索した画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
- 絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

検索条件の解除

手順2の画面で〈⊞〉ボタンを押すと、すべての[✓]が消えます。〈SET〉を押すと、検索条件が解除されます。

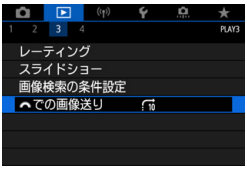
- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順2の画面で[OK]は選択できません。

- 電源やカード、画像編集などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- [▶：**画像検索の条件設定**]の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

メイン電子ダイヤルでの画像送り

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。



1 [▶：での画像送り] を選ぶ



2 ジャンプ方法を選ぶ

- **[指定した枚数ごとに画像を表示]** を選んだときは、〈 〉を回してジャンプする枚数を設定します。
- **[指定したレーティングの画像を表示]** を選んだときは、〈 〉を回してレーティング（📖360）を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

メイン電子ダイヤルでの画像送り



3 画像送りをする

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で〈◠〉を回します。
- 設定した方法でジャンプ表示が行われます。

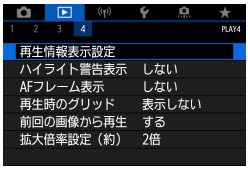
(1) ジャンプ方法
(2) 再生位置

- **[撮影日]**は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- **[フォルダ]**は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- **[動画]** **[静止画]**は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

再生情報表示設定

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。



1 [▶：再生情報表示設定] を選ぶ



2 表示する画面の番号に［✓］を付ける

- 〈▲〉〈▼〉で番号を選びます。
- 〈SET〉を押すと［✓］が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に［✓］を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、〈INFO〉ボタンを押したときに、設定した内容が表示されます。

ヒストグラムについて



ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶：再生情報表示設定] の画面の左下に［INFO］が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

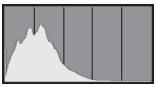
章目次
目 次
機能目次
索 引

再生情報表示設定

● [輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左:暗、右:明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

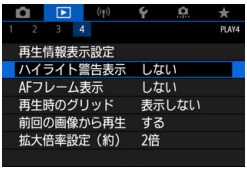
● [RGB] 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

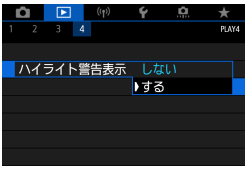
章目次
目 次
機能目次
索 引

ハイライト警告表示

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。



1 [▶：ハイライト警告表示] を選ぶ

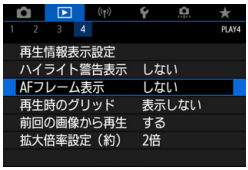


2 [する] を選ぶ

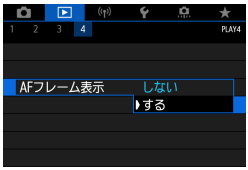
章目次
目 次
機能目次
索 引

AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。



1 [▶：AFフレーム表示] を選ぶ

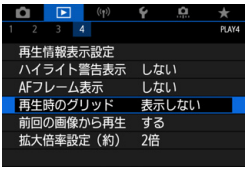


2 [する] を選ぶ

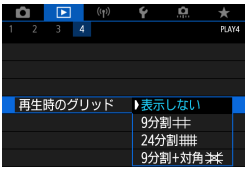
章目次
目 次
機能目次
索 引

再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。



1 [▶：再生時のグリッド] を選ぶ

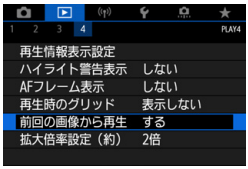


2 項目を選ぶ

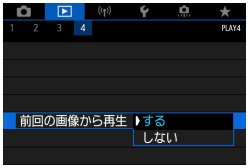
章目次
目 次
機能目次
索 引

前回の画像から再生

画像の再生を開始したときに、画面に最初に表示する画像を設定することができます。



1 [▶：前回の画像から再生] を選ぶ



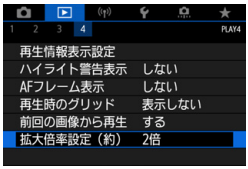
2 項目を選ぶ

- **[する]** を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- **[しない]** を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

拡大倍率設定(約)

拡大表示を開始したときの表示倍率、拡大位置を設定することができます。



1 [▶：拡大倍率設定（約）]を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**
  選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。
- **等倍（任意選択合焦点から）**
  記録画像の画素を約100%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。
- **前回と同じ倍率（中央から）**
  前回、〈**MENU**〉ボタンや〈▶〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

- **[等倍（任意選択合焦点から）]**に設定しても、手動ピント合わせで撮影した画像や、ピントが合わない状態で撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

章目次
目 次
機能目次
索 引

無線通信機能

この章では、Bluetooth®機能やWi-Fi®機能を使用して、カメラとスマートフォンやWebサービスなどと無線接続して画像を送信する方法や、パソコンやワイヤレスリモコンでカメラを操作する方法などについて説明しています。

必ずお読みください

このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

メニュー目次:無線タブ

● 無線1



- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信機能を使用することはできません。
- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi接続できません（[凸]は除く）。また、[凸]およびWebサービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi接続できません。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カード／バッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続が終了します。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

章目次 目 次
機能目次 索 引

Wi-Fi/Bluetooth接続の選択



1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 カメラと接続する項目を選ぶ

スマートフォンと通信（381）

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

EOS用または専用ソフトウェアと連携（410）

パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。また、専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

Wi-Fi対応プリンターで印刷（418）

Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

Wi-Fi/Bluetooth接続の選択

Webサービスへ画像を送信（📖428）

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービスCANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

ワイヤレスリモコンと接続（📖448）

別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とBluetooth接続して、リモコン撮影を行うことができます。

スマートフォンと通信

カメラとBluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンをBluetooth接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続（📖383）
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続（📖389）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（📖457）
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作（📖388）

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存（📖388）
- スマートフォンでのカメラのリモート操作（📖388）
- カメラからスマートフォンへの画像の送信（📖397）

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（📖443）を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する

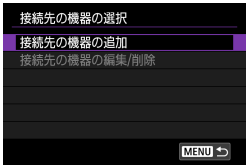
カメラ側の操作-1



1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

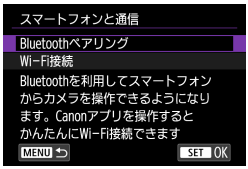
章目次
目 次
機能目次
索 引

スマートフォンと通信



4 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは【表示しない】を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、【Android】または【iOS】を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスして Camera Connectをインストールします。



5 [Bluetoothペアリング] を選ぶ

- ペアリングが開始されます。



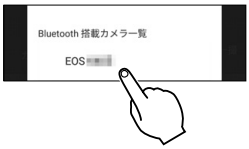
- 2台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、左の画面で【OK】を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

スマートフォン側の操作-1



6 Camera Connectを起動する



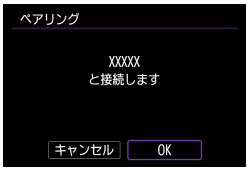
7 ペアリングするカメラをタッチする

- Androidの場合は手順9に進みます。



8 [ペアリング] をタッチする（iOSのみ）

カメラ側の操作-2



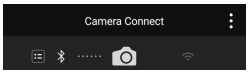
9 [OK] を選ぶ

スマートフォンと通信



10〈SET〉を押す

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。
  Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されます。



- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、🕮460を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

- Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます(🕮397)。

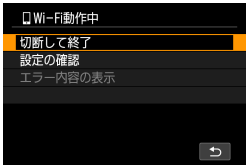
章目次
目 次
機能目次
索 引

スマートフォン側の操作-2

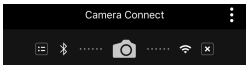


11 Camera Connectの機能をタッチする

- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら**【接続】**をタッチします。
- Camera Connectの機能については388を参照してください。
- Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。



- カメラのモニターに**【Wi-Fi動作中】**の画面が表示されます。
- Camera Connectのトップ画面にBluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続の終了』（405）を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再度Wi-Fi接続するときは、Camera Connectを起動して、使用したい機能をタッチします。

[Wi-Fi動作中] の画面について

切断して終了
- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認
- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示
- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

Camera Connectの機能

カメラ内の画像一覧
- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。

リモートライブビュー撮影
- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送
- 撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信するときに（📖396）、カメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー
- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

位置情報
- このカメラでは使用できません。

カメラ設定
- カメラの設定を変更することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態でも、スマートフォンを操作してWi-Fi接続することができます。



1 [((ᵖ)) : Bluetooth設定] を選ぶ



2 [電源オフ中の通信] で [する] を選ぶ



- カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態で、Camera Connectのメニューから **[カメラ内の画像一覧]** をタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。
- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら **[接続]** をタッチします。
  Wi-Fi接続が完了すると、カメラ内の画像の一覧が表示されます。

スマートフォンと通信

- Camera Connectを操作して、スマートフォンへの画像の保存、カメラ内の画像の削除を行うことができます。
- Wi-Fi接続を終了するときは、Camera Connectのトップ画面で［×］をタッチします（405）。

- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

ペアリングの解除

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。

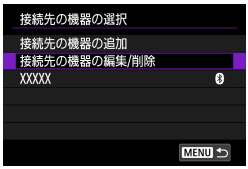


1 ［(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ



2 ［スマートフォンと通信］を選ぶ

- 履歴（451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



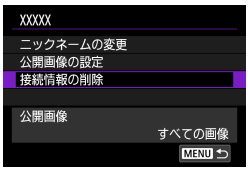
3 ［接続先の機器の編集/削除］を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

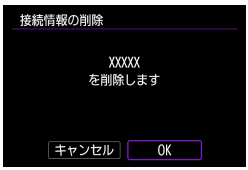


4 ペアリングを解除するスマートフォンを選ぶ

- ペアリング中のスマートフォンは［ ］が表示されます。



5 ［接続情報の削除］を選ぶ



6 ［OK］を選ぶ

7 スマートフォン側の登録を解除する

- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

スマートフォンと通信

Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する

カメラ側の操作-1

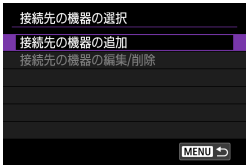


1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（📖451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



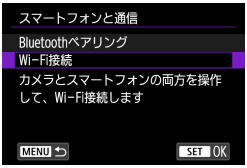
3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



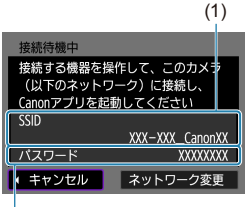
4 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



5 [Wi-Fi接続]を選ぶ



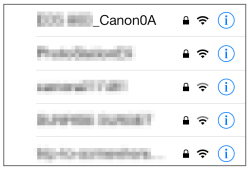
6 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されるSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（📖454）。

- 手順6で**[ネットワーク変更]**を選ぶと、アクセスポイント経由でWi-Fi接続することができます（📖443）。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例



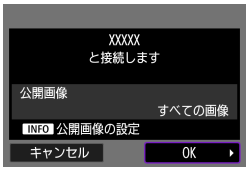


7 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順6で確認したSSID（ネットワーク名）をタッチします。
- パスワード欄には、手順6で確認したパスワードを入力します。

8 Camera Connectを起動してWi-Fi接続するカメラをタッチする

カメラ側の操作-2



9 [OK] を選ぶ

- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。📖407の手順5を参照して設定してください。



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Camera Connectを使用してカメラを操作します（388）。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続の終了』（405）を参照してください。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』（451）を参照してください。

- Wi-Fi接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます（397）。

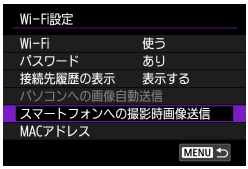
スマートフォンと通信

撮影画像の自動送信

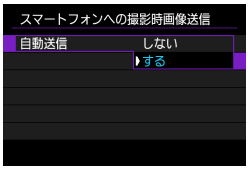
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。



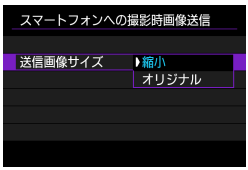
1 [(ᯤ) : Wi-Fi設定] を選ぶ



2 [スマートフォンへの撮影時画像送信] を選ぶ



3 [自動送信] で [する] を選ぶ



4 [送信画像サイズ] を設定する

5 撮影する

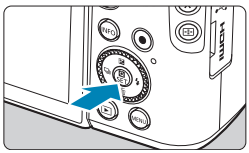
章目次 目 次
機能目次 索 引

カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。



1 画像を再生する



2 〈Q〉ボタンを押す



3 [スマートフォンへ画像を送信]を選ぶ

- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

4 送信方法を選んで送信する

章目次
目 次
機能目次
索 引

スマートフォンと通信

(1) 1枚ずつ送信



1 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈 〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- **[送信画像サイズ]** で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

(2) 複数の画像を選んで送信



1 〈SET〉を押す



2 [選んで送信] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引



3 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。

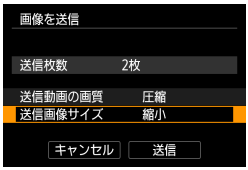


- 〈〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは〈〉を右へ回します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。



4 画像指定を完了する

- [OK]を選びます。



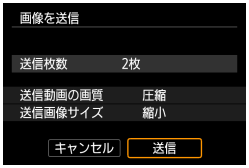
5 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]**で画質を選びます。

スマートフォンと通信



6 [送信] を選ぶ

(3) 範囲を指定して送信する場合



1 〈SET〉を押す



2 [範囲指定で送信] を選ぶ



3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈 〉を左右へ回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

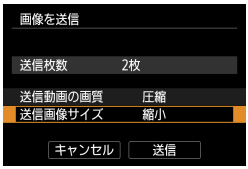
4 範囲を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押します。



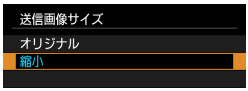
5 画像指定を完了する

- [OK]を選びます。

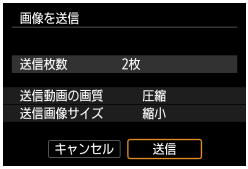


6 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]**で画質を選びます。



7 [送信]を選ぶ

スマートフォンと通信

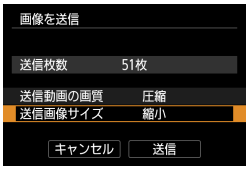
(4) カード内の画像をすべて送信



1 〈SET〉を押す

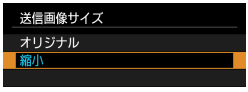


2 [カード内全送信] を選ぶ

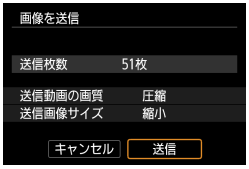


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、[送信動画の画質] で画質を選びます。



4 [送信] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

(5) 検索条件が設定された画像を送信

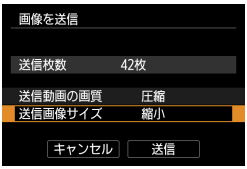
[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。**[画像検索の条件設定]** については、『画像検索の条件設定』(🕮365) を参照してください。



1 〈SET〉を押す

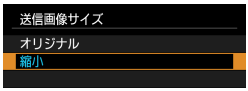


2 [検索結果全送信] を選ぶ

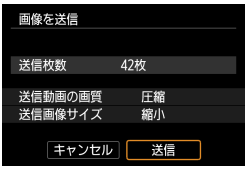


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。



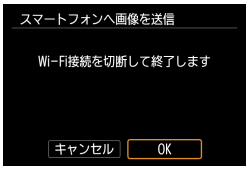
4 [送信] を選ぶ

画像の送信の終了

Bluetooth接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Androidのみ）



- 画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。



- 左の画面で【OK】を選ぶと、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

Wi-Fi接続中にカメラを操作して画像を送信した場合



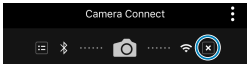
- 画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは『Wi-Fi接続の終了』（🕮405）を参照してください。

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

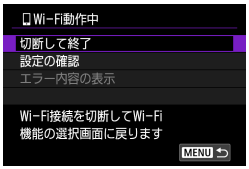
- 画像の送信中に【キャンセル】を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、S2サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

Wi-Fi接続の終了

下記のいずれかの操作を行ってください。



Camera Connectの画面で［×］をタッチする



［Wi-Fi動作中］の画面で［切断して終了］を選ぶ

- 【Wi-Fi動作中】の画面が表示されていないときは、【(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続】を選びます。
- 【切断して終了】を選び、確認画面で【OK】を選びます。

スマートフォンと通信

スマートフォンに公開する画像の設定

Wi-Fi接続を終了してから設定します。

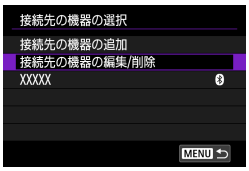


1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（📖451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



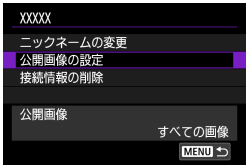
3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ



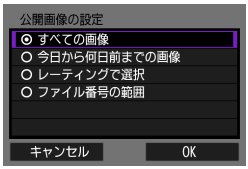
4 スマートフォンを選ぶ

- 画像を公開するスマートフォンの名称を選びます。

章目次 目 次
機能目次 索 引



5 [公開画像の設定] を選ぶ



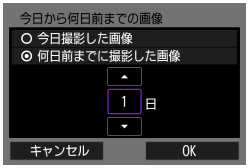
6 項目を選ぶ

- [OK] を選ぶと、設定画面が表示されます。

[すべての画像]

カード内のすべての画像を公開します。

[今日から何日前までの画像]



撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。

- **[何日前までに撮影した画像]** のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉〈▼〉で日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- [OK] を選ぶと、公開する画像が設定されます。

- **[公開画像の設定]** で **[すべての画像]** 以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

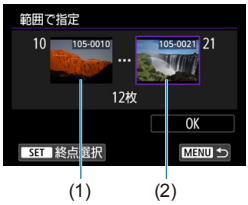
[レーティングで選択]



レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

1. 〈SET〉を押して、画像の選択画面を表示します。
   〈◄〉〈►〉で画像を選びます。
   〈⁂〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
2. 始点（1）の画像を選びます。
3. 〈►〉で終点（2）の画像を選びます。
4. [OK]を選びます。

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。

- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

パソコンとWi-Fi接続

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

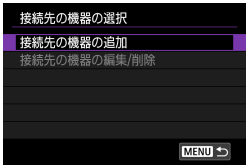


1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



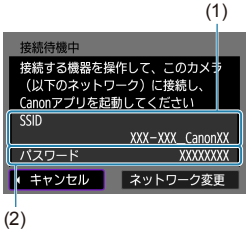
2 [EOS Utilityでリモート操作] を選ぶ

- 履歴（451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引



4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、📖454を参照してください。

パソコン側の操作-1

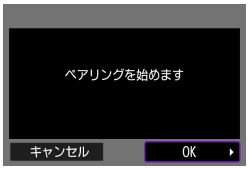
パソコンの画面例



5 SSIDを選んでパスワードを入力する

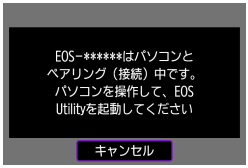
- パソコンのネットワークの設定画面から、手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作-2



6 [OK] を選ぶ

- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



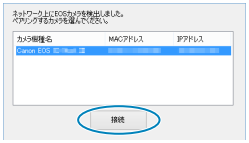
パソコン側の操作-2

7 EOS Utilityを起動する



8 EOS Utilityの［Wi-Fi/LAN接続ペアリング］をクリックする

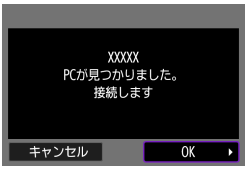
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、**[はい]** を選びます。



9 [接続] をクリックする

- 接続するカメラを選んで、**[接続]** をクリックします。

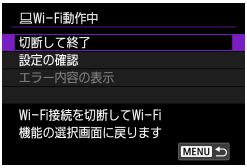
カメラ側の操作-3



10 Wi-Fi接続を確立する

- 【OK】を選びます。

[Wi-Fi動作中]の画面について



切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』(📖451)を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

パソコンとWi-Fi接続

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カメラ内の画像の自動送信

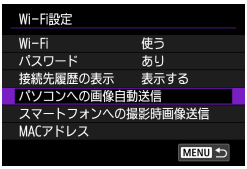
専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます。

パソコン側の操作-1

1 パソコンとアクセスポイントを接続してImage Transfer Utility 2を起動する

- はじめてImage Transfer Utility 2 を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。

カメラ側の操作-1

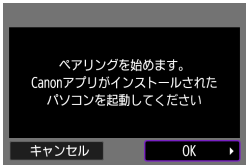


2 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

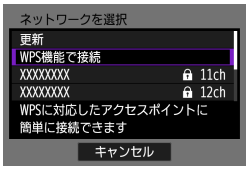
- [(ᯤ) : Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。



3 [自動送信] で [する] を選ぶ

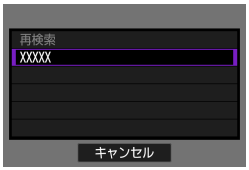


4 [OK] を選ぶ



5 アクセスポイントとWi-Fi接続する

- パソコンと接続しているアクセスポイントとカメラをWi-Fi接続します。接続方法は『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』(🕮443)を参照してください。



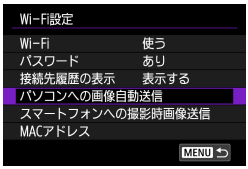
6 カメラとペアリングするパソコンを選ぶ

パソコン側の操作-2

7 カメラとパソコンをペアリングする

- カメラを選んで、【ペアリング】をクリックします。

カメラ側の操作-2

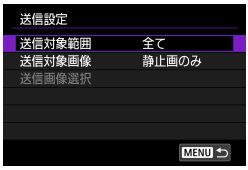


8 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

- 【(ᯤ):Wi-Fi設定】を選びます。
- 【パソコンへの画像自動送信】を選びます。



9 [送信設定] を選ぶ



10 送信する対象を選ぶ

- 【送信対象範囲】で【選択画像のみ】を選んだときは【送信画像選択】の画面で送信する画像を設定します。
- 設定が終了したらカメラの電源を切ります。

パソコンが起動した状態で、アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、カメラ内の画像がパソコンに自動送信されます。

- 自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。

プリンターとWi-Fi接続

ここでは、カメラとWi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターを直接Wi-Fi接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

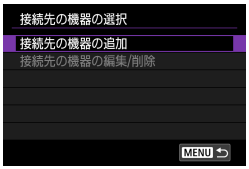


1 **[(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続]を選ぶ**



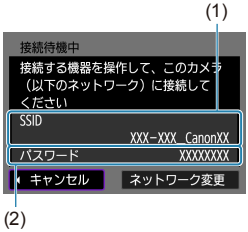
2 **[Wi-Fi対応プリンターで印刷]を選ぶ**

- 履歴（📖451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 **[接続先の機器の追加]を選ぶ**

章目次
目 次
機能目次
索 引



4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（📖454）。

5 プリンターを操作する

- お使いのプリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。



6 プリンターを選ぶ

- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi接続するプリンターを選びます。
- 接続したいプリンターが表示されない場合、**[再検索]**を選択することで表示されることがあります。

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（📖443）を参照してください。

プリンターとWi-Fi接続

画像の印刷

1枚ずつ印刷



1 印刷する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で印刷する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を印刷] を選ぶ



3 印刷する

- 印刷の設定方法は、📖423を参照してください。
- [印刷] を選び、[OK] を選ぶと印刷が始まります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

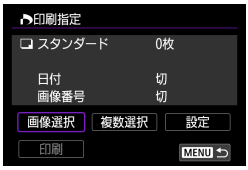
画像を指定して印刷



1 〈SET〉を押す



2 [印刷指定]を選ぶ



3 印刷内容を設定する

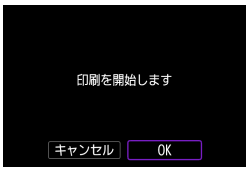
- 設定方法は、『印刷指定』(📖333)を参照してください。
- Wi-Fi接続前に印刷指定をしているときは、手順4に進んでください。

4 [印刷]を選ぶ

- **[印刷]**は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

5 [用紙設定]の内容を設定する (📖423)

プリンターとWi-Fi接続



6 印刷する

- 【OK】を選ぶと印刷が始まります。

- プリンターとWi-Fi接続中は撮影できません。
- 動画は印刷できません。
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- **【フチあり】**にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
- RAW画像は**【印刷指定】**を選んで印刷することはできません。印刷するときは、**【この画像を印刷】**を選んで印刷してください。

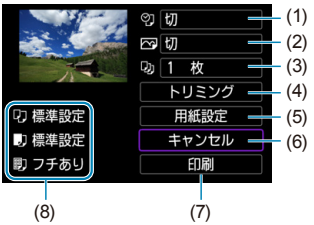
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、**【印刷】**を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、**【中止】**が表示されている間に〈SET〉を押して【OK】を選びます。
- **【印刷指定】**で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、**【再開】**を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
  - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
- 印刷中に問題が発生したときは、📖427を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

印刷設定画面



(1) 日付や画像番号の印刷を設定します（📖425）
(2) 印刷効果を設定します（📖425）
(3) 印刷枚数を設定します（📖425）
(4) 印刷範囲を設定します（📖426）
(5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します（📖424）
(6) 画像の選択画面に戻ります
(7) 印刷を開始します
(8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

* **プリンターの機種により、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

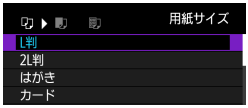
プリンターとWi-Fi接続

用紙設定



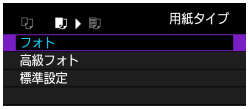
- **[用紙設定]** を選びます。

[ ] 用紙サイズの設定



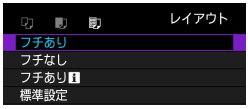
- プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

[ ] 用紙タイプの設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

[ ] レイアウトの設定

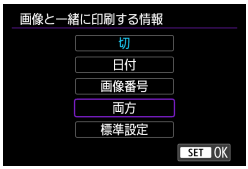


- 印刷レイアウトを選びます。

- 用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、解像度が低く印刷されることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

[日付／画像番号印刷の設定]



- 【日付／画像番号印刷の設定】を選びます。
- 印刷内容を選びます。

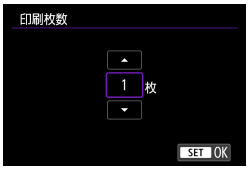
[印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定]



- 【印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定】を選びます。
- 印刷効果を選びます。

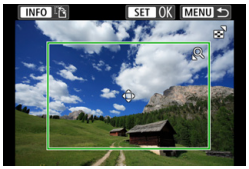
- ISO感度「H」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- 印刷効果などの選択肢にある**【標準設定】**は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。**【標準設定】**の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

[印刷枚数の設定]



- 【印刷枚数の設定】を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

トリミング（印刷範囲）の設定



トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、**[用紙設定]**の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈◡〉で枠の大きさが変わります。

枠を移動する

〈✣〉十字キーで枠が上下左右に移動します。

枠の縦/横を切り換える

〈INFO〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど解像度が低く印刷されます。

プリンターエラー発生時の操作について

- プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、**[続行]** を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

- 印刷中に問題が発生したときは、カメラのモニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

- 用紙が正しくセットされていることを確認してください。

インクエラー

- インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

- 用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

- 選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

Webサービスへ画像を送信

ここでは、Webサービスを利用して画像を送信する方法について説明しています。

Webサービスの情報の登録

パソコンまたはスマートフォンを使って、利用するWebサービスの情報をカメラに登録します。

- CANON iMAGE GATEWAYをはじめとする各種Webサービスの設定には、インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザーが必要です。
- CANON iMAGE GATEWAYに接続する際にお使いいただくブラウザー（Microsoft Internet Explorerなど）のバージョンや設定条件については、CANON iMAGE GATEWAYのサイトで確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAYのサービスに対応している国／地域の情報は、弊社Webサイト（http://www.canon.com/cig/）で確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAYでの操作や設定については、CANON iMAGE GATEWAYのヘルプをご確認ください。
- CANON iMAGE GATEWAY以外のWebサービスも利用するときは、そのWebサービスのアカウントが必要です。詳しくは、各WebサービスのWebサイトを確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

CANON iMAGE GATEWAYの登録

CANON iMAGE GATEWAYとカメラを連携できるように、CANON iMAGE GATEWAYをカメラに登録します。
パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。

カメラ側の操作-1



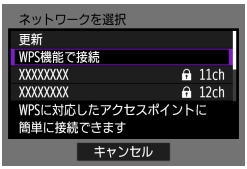
1 [: Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [Webサービスへ画像を送信] を選ぶ



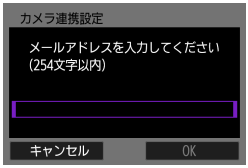
3 [同意する] を選ぶ



4 Wi-Fi接続する

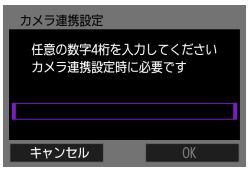
- アクセスポイントとWi-Fi接続します。
  444の手順7に進みます。

Webサービスへ画像を送信



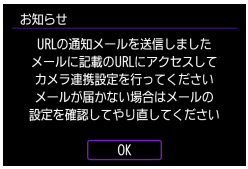
5 メールアドレスを入力する

- メールアドレスを入力して［OK］を選びます



6 4桁の数字を入力する

- 任意の4桁の数字を入入し［OK］を選びます。



7 ［OK］を選ぶ

- ［☁］が［📷］になります。



章目次
目 次
機能目次
索 引

パソコンまたはスマートフォン側の操作

8 カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールのURLにアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作-2



9 CANON iMAGE GATEWAYを送信先に追加する

- 【 】を選びます。
  CANON iMAGE GATEWAYが追加されます。



Webサービスへ画像を送信

他のWebサービスの登録

パソコンまたはスマートフォン側の操作

1 利用するWebサービスの設定をする

- CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトにアクセスして、カメラ連携設定のページを表示します。
- 画面の指示にしたがって、利用するWebサービスの設定をします。

カメラ側の操作



2 設定したWebサービスを送信先に追加する

- 【(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続】を選びます。
- 【📷】を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

画像の送信

撮影した画像を家族や友人と共有できるよう、登録したWebサービスへカメラ内の画像を送信したり、オンラインアルバムのリンク先を送信できます。

WebサービスとのWi-Fi接続



1 [((ᵠ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 Webサービスを選ぶ

- 履歴（🕮451）が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- Webサービスの種類や設定によって、送信先の選択画面が表示されることがあります（🕮446）。

Webサービスへ画像を送信

1枚ずつ送信



1 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈 〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- **[送信画像サイズ]** で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

複数の画像を選んで送信



1 〈SET〉を押す



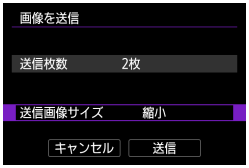
2 [選んで送信]を選ぶ



3 送信する画像を選ぶ

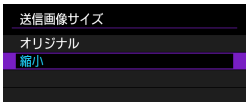
- 〈◄〉〈►〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈〉を左へ回すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは、〈〉を右へ回します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

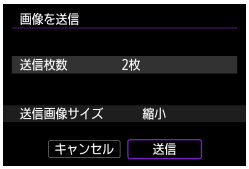
Webサービスへ画像を送信



4 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 送信先がYouTubeのときは、**[送信画像サイズ]** は表示されません。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





5 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

範囲を指定して送信

画像の範囲を指定して、まとめて送信します。



1 〈SET〉を押す



2 [範囲指定で送信]を選ぶ



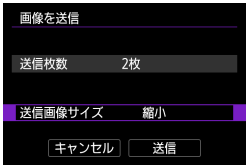
3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
  画像が選択され、[✓]が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈◥〉を回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

4 範囲を確定する

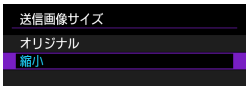
- 〈MENU〉ボタンを押します。

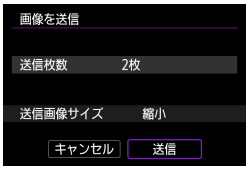
Webサービスへ画像を送信



5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。





6 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

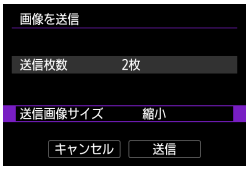
カード内の画像をすべて送信



1 〈SET〉を押す

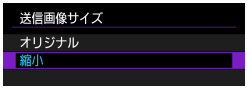


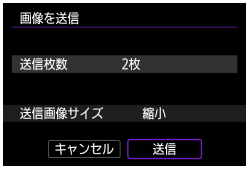
2 [カード内全送信]を選ぶ



3 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。





4 [送信]を選ぶ

- 送信の完了画面で**[OK]**を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]**の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]**を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

Webサービスへ画像を送信

検索条件が設定された画像を送信

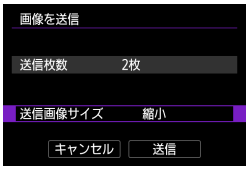
[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。
[画像検索の条件設定] については、『画像検索の条件設定』（🕮365）を参照してください。



1 〈SET〉を押す

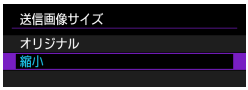


2 [検索結果全送信]を選ぶ

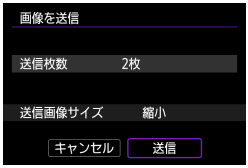


3 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



章目次
目 次
機能目次
索 引



4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

Webサービスへ画像を送信

- WebサービスにWi-Fi接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- CANON iMAGE GATEWAY以外のWebサービスへ画像を送信した場合、そのWebサービスへ送信できていないのに、送信エラーが表示されないことがあります。このような場合の送信エラーは、CANON iMAGE GATEWAYのサイトで確認できますので、エラーの内容をご確認の上、再度送信してください。

- Webサービスによっては送信できる画像の種類や数、動画の時間が制限されます。
- **[範囲指定で送信]**、**[カード内全送信]** または **[検索結果全送信]** で、一部の画像が送信できないことがあります。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や**S2**サイズの静止画は縮小されません。
- **[縮小]** が有効になるのは、このカメラと同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信します。
- CANON iMAGE GATEWAYにアクセスすると、画像を送信したWebサービスの送信履歴が確認できます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

ここでは、WPS（PBC方式）に対応したアクセスポイントを利用したWi-Fi接続の方法について説明しています。
あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。
Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。



1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 履歴（📖451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



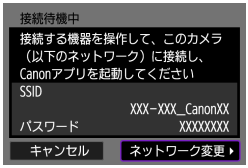
3 [接続先の機器の登録] を選ぶ



- **[スマートフォンと通信]** を選んだときは左の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。
- 次に表示される **[スマートフォンと通信]** の画面では **[Wi-Fi接続]** を選びます。

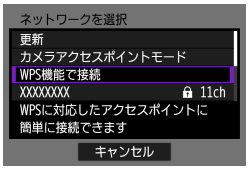
章目次
目 次
機能目次
索 引

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続



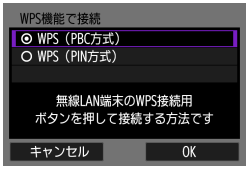
4 [ネットワーク変更] を選ぶ

- [📱] [💻] [🖨] を選んだときに表示されます。



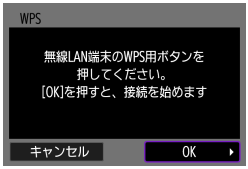
5 [WPS機能で接続] を選ぶ

- 手順5の画面で表示される **[カメラアクセスポイントモード]** については、📖446を参照してください。



6 [WPS（PBC方式）] を選ぶ

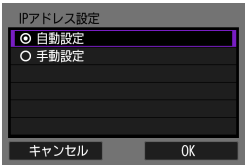
- [OK] を選びます。



7 アクセスポイントにWi-Fi接続する

- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。
- [OK] を選びます。

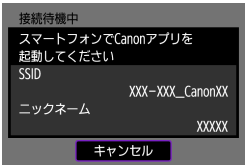
章目次
目 次
機能目次
索 引



8 [自動設定] を選ぶ

- [OK] を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、446を参照してください。

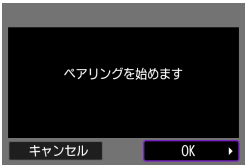
9 Wi-Fi機能に応じた設定を行う



[スマートフォンと通信]

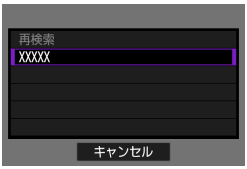
- スマートフォンのWi-Fi機能で、モニターに表示されたSSID（ネットワーク名）をタッチして、接続するアクセスポイントのパスワードを入力します。

394の手順8に進みます。



[EOS Utilityでリモート操作]

412の手順7または手順8に進みます。



[Wi-Fi対応プリンターで印刷]

419の手順6に進みます。

CANON iMAGE GATEWAYを登録する

430の手順5に進みます。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

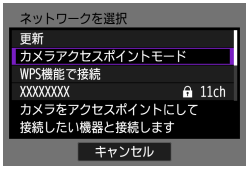
送信先画面

Webサービスによっては、送信先の選択画面が表示されることがあります。送信先の登録や送信時の設定は、パソコンで行います。設定方法については、EOS Utilityの使用説明書を参照してください。



- **[送信先]** の画面が表示されることがあります。
- 登録した送信先の一覧から、送信先を選びます。
- 接続設定や画像の送信方法は、他のWebサービスと同じです。

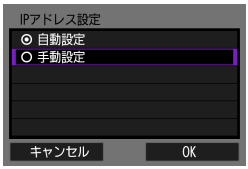
カメラアクセスポイントモード



カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接Wi-Fi接続する方法です。**[Wi-Fi機能]** で、[📱] [💻] [🖨] を選んだときに表示されます。

IPアドレスの手動設定

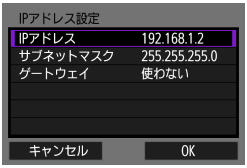
表示される項目はWi-Fi機能によって異なります。



1 [手動設定] を選ぶ

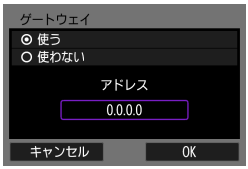
- [OK] を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



2 項目を選ぶ

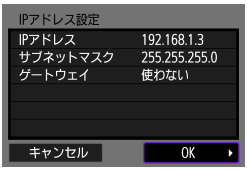
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、**【使う】**を選んでから**【アドレス】**を選びます。





3 数値を入力する

- 〈 〉で上側の入力場所を選び、〈◄〉〈►〉で入力する数値を選びます。〈SET〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- **【OK】**を選ぶと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。



4 【OK】を選ぶ

- 必要な項目の設定が完了したら**【OK】**を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、『ネットワークの設定を確認する』(📖479)を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

ワイヤレスリモコンと接続

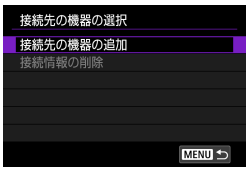
ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖225）とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。



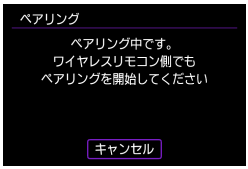
1 [((ᵢ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



4 ペアリングする

- [ペアリング] の画面が表示されたら、BR-E1の〈W〉ボタンと〈T〉ボタンを同時に3秒以上押します。
- 「****（BR-E1の個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈SET〉を押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

5 リモコン撮影できるように設定する

- 静止画撮影時は、ドライブモードで［ ］または［ 2］を選びます（137）。
- 動画撮影時は、［ :リモコン撮影］で［する］を選びます。
- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

- Bluetooth機能を使わないときは、手順1で［Bluetooth設定］を［使わない］に設定することをおすすめします。

ワイヤレスリモコンと接続

ペアリング解除

他のBR-E1とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。



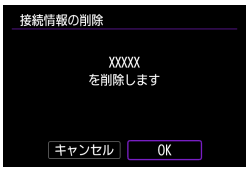
1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続先の削除] を選ぶ



4 [OK] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された機器やWebサービスに、再度Wi-Fi接続する方法です。



1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- **[接続先履歴の表示]** を **[表示しない]** に設定しているときは履歴は表示されません (📖454)。

3 接続先の機器を操作する

[📱] スマートフォンの場合

- Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

[🖵] パソコンの場合

- パソコンでEOS用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとパソコンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[🖷] プリンターの場合

- プリンターの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとプリンターを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

複数の接続設定の登録

無線通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。



1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 履歴（📖451）が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- **[スマートフォンと通信]** は『スマートフォンと通信』（📖381）を参照してください。
- **[EOS Utilityでリモート接続]** は『パソコンとWi-Fi接続』（📖410）を参照してください。
- **[Wi-Fi対応プリンターで印刷]** は『プリンターとWi-Fi接続』（📖418）を参照してください。
- Webサービスへ画像を送信するときは『Webサービスへ画像を送信』（📖428）を参照してください。

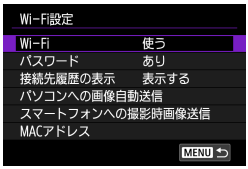
● 接続設定を削除するときは、📖460を参照してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

Wi-Fi機能の設定



1 [(ᯤ) : Wi-Fi設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

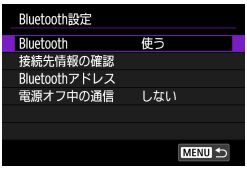
- **Wi-Fi**
  飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**[使わない]** に設定してください。
- **パスワード**
  [なし] に設定すると、Wi-Fi接続時のパスワードの入力を省略することができます（アクセスポイントとのWi-Fi接続時を除く）。
- **接続先履歴の表示**
  Wi-Fi接続した機器の履歴を **[表示する]** ／ **[表示しない]** が設定できます。
- **パソコンへの画像自動転送**
  専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます（🕮415）。
- **スマートフォンへの撮影時画像送信**
  撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます（🕮396）。
- **MACアドレス**
  カメラのMACアドレスの確認ができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

Bluetooth機能の設定



1 [(ᯤ) : Bluetooth設定] を選ぶ



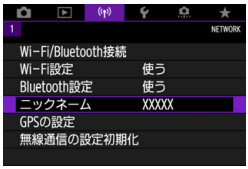
2 項目を選ぶ

- **Bluetooth**
  Bluetooth機能を使わないときは **[使わない]** を選びます。
- **接続先情報の確認**
  ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。
- **Bluetoothアドレス**
  カメラのBluetoothアドレスを確認できます。
- **電源オフ中の通信**
  カメラとスマートフォンをペアリングすると表示されます。
  [する] を選ぶと、スマートフォンと電源オフ中のカメラをWi-Fi接続して、カメラ内の画像の閲覧などができます（🕮389）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ニックネームの変更

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。



1 **[(ᯤ)：ニックネーム]を選ぶ**

2 **仮想キーボード（📖464）で文字を入力する**

- 入力が終了したら〈**MENU**〉ボタンを押します。

章目次 目 次
機能目次 索 引

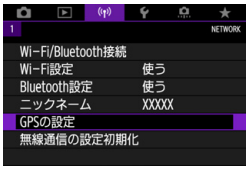
スマートフォンを使用した位置情報の付加

Bluetooth対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。
スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール（📖382）してから設定を行ってください。

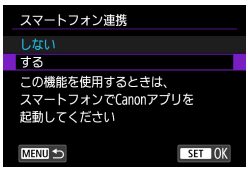
1 スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2 Bluetooth接続する

- カメラとスマートフォンをBluetooth接続します（📖383）。



3 [((•)) : GPSの設定] を選ぶ



4 [スマートフォン連携] で [する] を選ぶ

- 設定後にCamera Connectを起動します。

5 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

スマートフォンを使用した位置情報の付加

GPS接続表示

静止画撮影画面（📖585）または動画撮影画面（📖587）のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

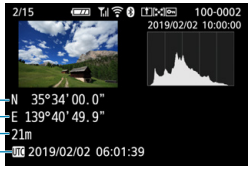
- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（📖306、📖369）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



(1) 緯度
(2) 経度
(3) 標高
(4) 協定世界時

章目次
目 次
機能目次
索 引

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connectを終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

接続設定の変更／削除

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

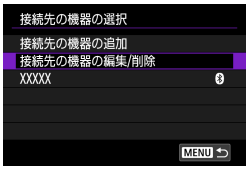


1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 履歴（📖451）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



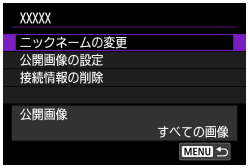
3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

- [ᛒ]がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth接続を切り換えることができます。**[スマートフォンと通信]** の画面が表示されたら **[Bluetooth接続]** を選び、次の画面で〈**SET**〉を押します。



4 接続設定の変更や削除を行う機器を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引



5 項目を選ぶ

- 表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

- **ニックネームの変更**
  ニックネームを仮想キーボード（📖464）で変更できます。
- **公開画像の設定（📖406）**
  【スマートフォンと通信】を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。
- **接続情報の削除**
  ペアリング中のスマートフォンの接続設定を削除したときは、スマートフォンのカメラの登録も解除してください（📖390）。

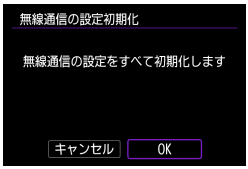
- Webサービスの接続設定は、CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトで削除します。

無線通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。



1 **[(ᯤ)：無線通信の設定初期化]を選ぶ**



2 **[OK]を選ぶ**

- **[🔧：カメラ設定初期化]**を行っても、無線通信の設定情報は削除されません。
- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

情報表示画面

エラーの内容とカメラのMACアドレスを確認することができます。



1 **[(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ**



2 **〈INFO〉 ボタンを押す**

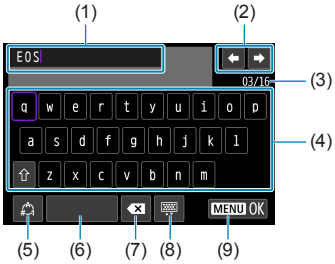
- **[情報表示]** の画面が表示されます。



- エラーが発生しているときに〈**SET**〉を押すと、エラーの内容が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

仮想キーボードの操作方法



(1) 文字を入力するエリア（入力エリア）	(6) スペース
(2) 入力エリアでのカーソルの移動	(7) 入力エリアでの文字の削除
(3) 入力した文字数/入力できる文字数	(8) キーボードの種類の変更
(4) キーボード	(9) 入力の終了
(5) 入力モードの切り換え	

- (2)、(4) ～ (8) は〈〉〈〉〈〉十字キーで移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈SET〉を押します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- **[情報表示]** の画面で〈**SET**〉を押す（📖463）。
- **[Wi-Fi動作中]** の画面で **[エラー内容の表示]** を選ぶ。

下記のエラー番号のページをクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (📖466)	12 (📖466)	21 (📖467)	22 (📖468)
23 (📖469)	61 (📖470)	63 (📖471)	64 (📖471)
65 (📖472)	66 (📖472)	67 (📖472)	68 (📖473)
69 (📖473)	91 (📖473)	121 (📖473)	125 (📖474)
126 (📖474)	127 (📖474)	141 (📖474)	142 (📖474)
151 (📖475)	152 (📖475)		

- エラーが発生したときは、**[Wi-Fi/Bluetooth接続]** の画面の右上に **[Err **]** と表示されます。カメラの電源を〈**OFF**〉にすると表示されなくなります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

エラー表示の対応

11：接続先が見つかりません

- [📱] の場合、Camera Connectは起動していますか？
  ➡ Camera Connectから接続操作を行ってください（📖394）。
- [💻] の場合、EOS用ソフトウェアは起動していますか？
  ➡ EOS用ソフトウェアを起動して、再度接続操作を行ってください（📖412）。
- [🖨] の場合、プリンターの電源は入っていますか？
  ➡ プリンターの電源を入れてください。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  ➡ 暗号化の認証方式が **[オープン]** の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。
  大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（📖464）。

12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器とアクセスポイントの電源は入っていますか？
  ➡ 接続先の機器とアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

章目次 目 次
機能目次 索 引

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス【自動設定】になっています。この設定で間違いありませんか?
  - ➡ DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス【手動設定】にして設定を行ってください（📖446）。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
  - ➡ DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
  - ➡ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
  - ➡ DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
  - ➡ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
  - ➡ IPアドレス【手動設定】にして、使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（📖446、📖479）。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
  - ➡ DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか?
  - ➡ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
  - ➡ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- Wi-Fi接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（📖446、📖479）。
  - ➡ カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

カメラの確認内容

- カメラと同じネットワークにWi-Fi接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？
  - ➡ カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
  - ➡ DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス【手動設定】の設定になっているときは、IPアドレス【自動設定】の設定にしてください（📖445）。

エラー 20番台の対応について

- エラー 21 ～ 23が表示された場合は、下記の確認も行ってください。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が【オープン】の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（📖464）。

エラー表示の対応

61：同じSSIDの無線LANネットワークがみつかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  - ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動してください（📖476）。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
  - ➡ アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
  - ➡ アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**［情報表示］**の画面（📖463）で確認できます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

63：無線LANの認証に失敗しました

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？
  - ➡ カメラで設定できる認証方式は、**[オープン]**、**[共有キー]**、**[WPA/WPA2-PSK]** です。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  - ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは **[情報表示]** の画面（📖463）で確認できます。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  - ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは **[情報表示]** の画面（📖463）で確認できます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

エラー表示の対応

65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  - ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください（📖476）。
- 何らかの理由で、Wi-Fi接続が切れ、再接続できない状態になっています。
  - ➡ アクセスポイントにほかの機器からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます（📖476）。

66：無線LANのパスワードが違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  - ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。

67：無線LANの暗号方式が違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  - ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**［情報表示］**の画面（📖463）で確認できます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- アクセスポイントのWPS（Wi-Fi Protected Setup）ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押し続けましたか？
  ➡ WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押し続けてください。
- アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？
  ➡ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントがWPS（Wi-Fi Protected Setup）のPBC方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。
  ➡ しばらく待ってから接続操作を行ってください。

91：その他のエラー

- エラー 11 ～ 69以外の異常が発生しました。
  ➡ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。
  ➡ Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

エラー表示の対応

125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
  ➡ ネットワークの接続状態を確認してください。

126：サーバーと接続できませんでした

- CANON iMAGE GATEWAYがメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。
  ➡ しばらくしてからWebサービスの接続をやり直してください。

127：エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー 121 ～ 126以外の異常が発生しました。
  ➡ WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

141：プリンターは処理中です。もう一度接続してください

- プリンターが印刷中ではありませんか？
  ➡ 印刷が終わってからWi-Fi接続をやり直してください。
- プリンターにほかのカメラがWi-Fi接続していませんか？
  ➡ ほかのカメラのWi-Fi接続を終了してから、Wi-Fi接続をやり直してください。

142：プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

- プリンターの電源は入っていますか？
  ➡ プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi接続をやり直してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

151：送信を中止しました

- 何らかの理由で、パソコンへの画像の自動送信が中断されました。
  ➡ カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから再度〈ON〉にすると、自動送信が再開されます。

152：カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

- カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？
  ➡ カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

無線通信機能での注意事項

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯）のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1の使用について

- カメラとスマートフォンがBluetooth接続されているときは、BR-E1を使用することはできません。**【(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続】**の**【ワイヤレスリモコンと接続】**で、カメラの接続先をワイヤレスリモコンに変更してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- **通信の傍受**
  悪意ある第三者によってWi-Fiの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- **ネットワークへの不正アクセス**
  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ネットワークの設定を確認する

- **Windowsの場合**

  Windowsの**[コマンドプロンプト]**を開き、ipconfig/allと入力して〈**Enter**〉キーを押します。
  パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

- **Mac OSの場合**

  Mac OS Xの**[ターミナル]**を開き、ifconfig -aと入力して〈**Return**〉キーを押します。**[en0]**項目**[inet]**の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。
  * **[ターミナル]**については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

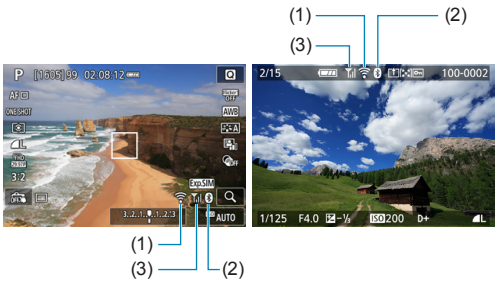
なお、📖446でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例）192.168.1.10

章目次
目 次
機能目次
索 引

無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。



(1)	Wi-Fi機能
(2)	Bluetooth機能
(3)	電波強度

章目次
目 次
機能目次
索 引

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない		消灯
	Wi-Fi：使う		
接続開始		（点滅）	
接続中			
送信中		（←→）	
接続エラー		（点滅）	

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
[使う]	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示

- パソコン、プリンター、WebサービスとのWi-Fi接続時は「Bluetooth未接続」になります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧：機能設定タブ」の項目について説明しています。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モード限定の機能であることを示しています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

メニュー目次:機能設定タブ

● 機能設定1



486
488
491
492
494
495

● 機能設定2



496
497
498
499
502
504
505

● 機能設定3



509
510
511
512
513
503

章目次
目 次
機能目次
索 引

● 機能設定4



514
517
517
518
519
520

● 機能設定5



521
522
523
525
525
525

フォルダ選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

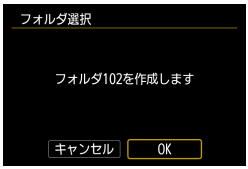
フォルダの作成



1 [：フォルダ選択] を選ぶ



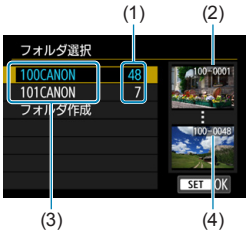
2 [フォルダ作成] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

(1) フォルダ内画像数
(2) 最小番号画像
(3) フォルダ名
(4) 最大番号画像

フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（490）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

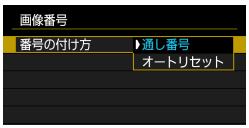
画像番号

撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

（例）IMG_0001.JPG
画像番号

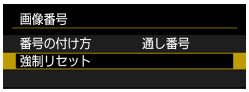


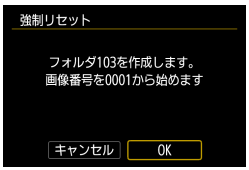
1 [🔧：画像番号] を選ぶ



2 項目を設定する

- **[番号の付け方]** を選びます。
- **[通し番号]** **[オートリセット]** のいずれかを選びます。





- 画像番号をリセットしたいときは、**[強制リセット]** を選びます（📖490）。
- **[OK]** を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

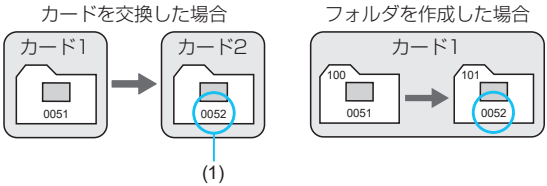
章目次 目 次
機能目次 索 引

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



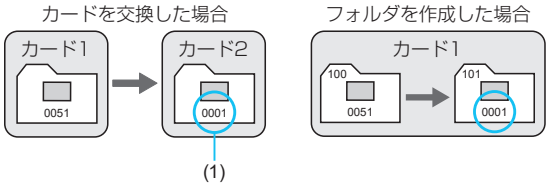
(1) 続きの画像番号

画像番号

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。
ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



(1) 画像番号リセット

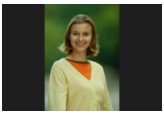
強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

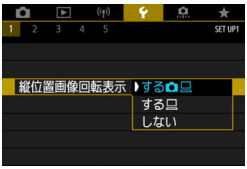
この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。



1 [：縦位置画像回転表示] を選ぶ

2 項目を選ぶ

- **する**
  カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **する**
  パソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **しない**

- **[しない]** で撮影した画像は、**[する]** に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

章目次
目 次
機能目次
索 引

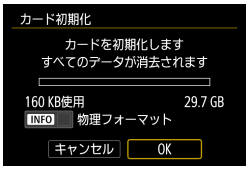
カード初期化

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

- **カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。**

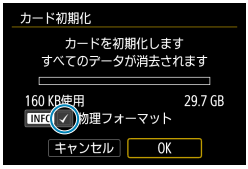


1 [：カード初期化] を選ぶ



2 初期化する

- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈INFO〉ボタンを押して、**[物理フォーマット]** の横に〈✓〉が付いた状態で **[OK]** を選びます。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

章目次 目 次
機能目次 索 引

こんなときにカードを初期化します

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき**
- **画像やデータでカードがいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき（📖577）**

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に**【キャンセル】**を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

- **SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。**
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

撮影モードガイド

撮影モードを変更したときに、撮影モードの説明（撮影モードガイド）を表示することができます。



1 [：撮影モードガイド] を選ぶ



2 [表示する] を選ぶ



3 モードダイヤルを回す

- 選択した撮影モードの説明が表示されます。
- 〈▼〉を押すと、詳しい説明が表示されます。



- 〈SET〉を押すと、撮影モードガイドは消えます。〈SCN〉、〈◎〉または〈🚗〉のときは、撮影モードの選択画面が表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

機能ガイド

クイック設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。



1 [：機能ガイド] を選ぶ



2 [表示する] を選ぶ



● 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

エコモード

撮影画面が表示されているときに、バッテリーの消耗を抑える機能です。
カメラを操作していないときに画面が暗くなり、消費電力が抑えられます。



1 [: エコモード] を選ぶ



2 [入] を選ぶ

- カメラを操作しないと約2秒後に画面が暗くなり、約10秒後に画面が消えます。
- 画面が消えている状態のときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。

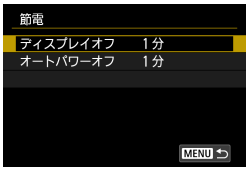
章目次
目 次
機能目次
索 引

節電

画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）やカメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）を変えることができます。



1 **[: 節電] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **[オートパワーオフ]** を **[しない]** に設定しても、**[ディスプレイオフ]** の設定時間後にモニターの表示が消えます。
- エコモードを **[入]** にしているときは、**[ディスプレイオフ]** と **[オートパワーオフ]** の設定は無効になります。
- 別売の電子ビューファインダーを使用すると **[ファインダーオフ]** が追加され、ファインダーをオフにする時間を設定できます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

画面の明るさ

モニターの明るさを調整することができます。電子ビューファインダー（別売）を使用したときは、ファインダーの明るさを調整することもできます。



1 **［：画面の明るさ］を選ぶ**



2 **調整する**

- グレーチャートを参考にして、〈◄〉〈►〉で調整し、〈SET〉を押します。

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（📖369）で確認することをおすすめします。

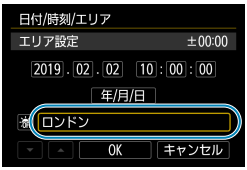
章目次 目 次
機能目次 索 引

日付／時刻／エリア

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。
エリアから設定しておくと、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

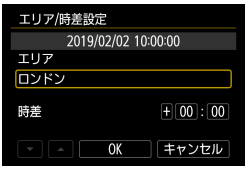


1 [🔧：日付/時刻/エリア] を選ぶ

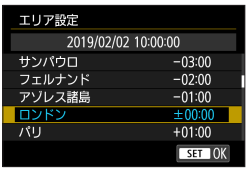


2 エリアを設定する

- 〈◄〉〈►〉で **[エリア設定]** を選びます。



- 〈SET〉を押します。



- 〈▲〉〈▼〉でエリアを選び、〈SET〉を押します。
- 該当するエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押して **[時差]**（協定世界時との時差）で設定します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

日付／時刻／エリア



- 〈◄〉〈►〉で **[時差]** の項目（＋－/時/分）を選び、〈**SET**〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈**SET**〉を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、〈◄〉〈►〉で **[OK]** を選び、〈**SET**〉を押します。



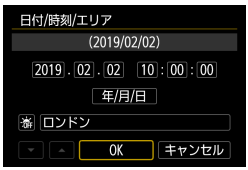
3 日付/時刻を設定する

- 〈◄〉〈►〉で項目を選び、〈**SET**〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈**SET**〉を押します。



4 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉で **[☀]** を選び、〈**SET**〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で **[☀]** を選び、〈**SET**〉を押します。
- サマータイムを **[☀]** にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。**[☀]** にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



5 設定を終了する

- 〈◄〉〈►〉で **[OK]** を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- **[エリア/時差設定]** の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

- **[🔧：日付/時刻/エリア]** の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

言語



1 [: 言語] を選ぶ



2 言語を設定する

章目次
目 次
機能目次
索 引

フォーカスモードスイッチ(AF/MF)

EF-Mレンズ装着時に、フォーカスモードスイッチによるマニュアルフォーカスとオートフォーカスの切り換えを有効または無効にします。



1 [: スイッチ (AF/MF)] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **有効**
  フォーカスモードスイッチが有効になり、メニューの [: フォーカスモード] の設定が無効になります。
- **無効**
  フォーカスモードスイッチが無効になり、メニューの [: フォーカスモード] の設定が有効になります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。



1 [: ビデオ方式] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **NTSC**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **PAL**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

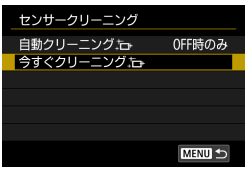
センサークリーニング

このカメラは、撮像素子前面を清掃する、センサークリーニング機能を備えています。

すぐにクリーニングを行う



1 [🔧：センサークリーニング] を選ぶ



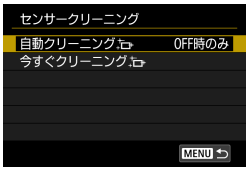
2 [今すぐクリーニング] を選ぶ

- 確認画面で [OK] を選びます。

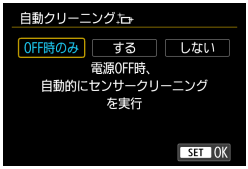
章目次
目 次
機能目次
索 引

センサークリーニング

自動クリーニングの設定



1 [自動クリーニング] を選ぶ



2 項目を選ぶ

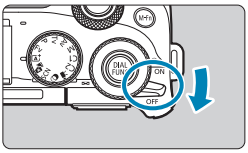
- 〈◄〉〈►〉で項目を選び、〈SET〉を押します。

- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。
- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、**[今すぐクリーニング]** が選べないことがあります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。**[今すぐクリーニング]** を行うと、輝点の発生が改善することがあります（505）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

手作業の清掃

自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。



1 電源スイッチを〈OFF〉にする

2 レンズを取り外して撮像素子を清掃する

3 清掃を終了する

- レンズまたはボディキャップを取り付けます。

センサークリーニング

- **清掃中は絶対に電源スイッチを〈ON〉にしないでください。シャッターが作動して撮像素子やシャッター幕が損傷する恐れがあります。**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。シャッター幕を破損する恐れがあります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

タッチ操作



1 [: タッチ操作] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 通常は **[標準]** を選びます。
- **[敏感]** に設定すると、**[標準]** に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、**[しない]** を選びます。

タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- **[敏感]** 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

電子音

ピントが合ったときなどに電子音が鳴らないようにすることができます。



1 [🔧：電子音] を選ぶ



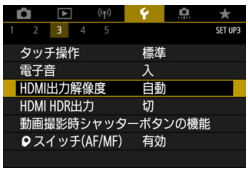
2 項目を選ぶ

- **タッチ音切**
  タッチ操作を行ったときだけ、電子音が鳴らないようになります。
- **切**
  ピントが合ったとき、セルフタイマー撮影時、タッチ操作したときに、電子音が鳴らないようになります。

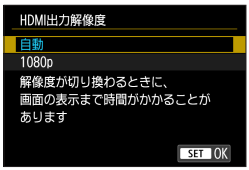
章目次
目 次
機能目次
索 引

HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。



1 [：HDMI出力解像度]を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **自動**
  接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**
  1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

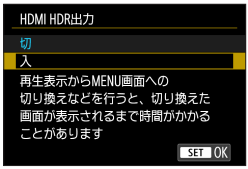
章目次 目 次
機能目次 索 引

HDMI HDR出力

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像をHDR表示で見ることができます。



1 [: HDMI HDR出力] を選ぶ



2 [入] を選ぶ

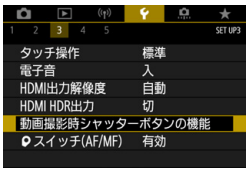
- HDR表示中は、RAW現像などの画像の操作を行うことはできません。

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

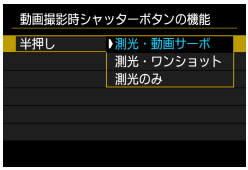
章目次 目 次
機能目次 索 引

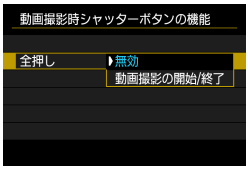
動画撮影時シャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。



1 [：動画撮影時シャッターボタンの機能]を選ぶ





2 項目を選ぶ

- **半押し**
  シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。
- **全押し**
  モードダイヤルが〈🎥〉のときに表示されます。
  シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。

なお、**[全押し]**を**[動画撮影の開始/終了]**に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチRS-60E3（別売／📖225）で、動画撮影を開始／終了することができます。

- **[全押し]**を**[無効]**に設定しても、タイムラプス動画撮影時にシャッターボタンを全押ししたときは、タイムラプス動画撮影が開始／終了します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

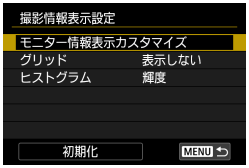
撮影情報表示設定

撮影時にモニターに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。



［：撮影情報表示設定］を選ぶ

情報表示のカスタマイズ



1 ［モニター情報表示カスタマイズ］を選ぶ



2 画面を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉でモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引



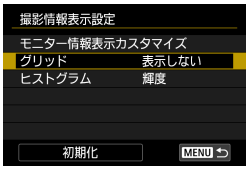
3 画面を編集する

- 〈▲〉〈▼〉でモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈SET〉を押して【✓】を外します。
- 【OK】を選ぶと設定されます。

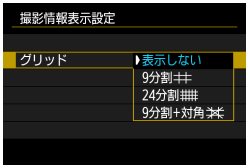
別売の電子ビューファインダーの表示を設定するとき

- 手順1で、【：ファインダー情報表示カスタマイズ】を選びます。
- 【：ファインダー縦表示】で、静止画を縦位置で撮影するとき、情報表示を縦表示するかどうかを設定できます。

グリッドの表示



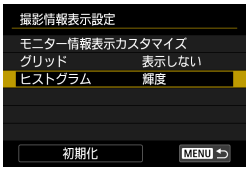
1 【グリッド】を選ぶ



2 項目を選ぶ

撮影情報表示設定

ヒストグラムの設定



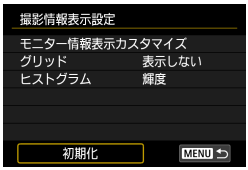
1 [ヒストグラム] を選ぶ



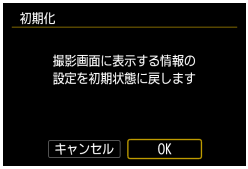
2 項目を選ぶ

- 表示内容（**[輝度]** または **[RGB]**）と表示サイズ（**[大きい]** または **[小さい]**）を選びます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと設定されます。

設定の初期化



1 [初期化] を選ぶ

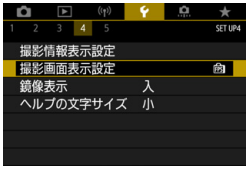


2 [OK] を選ぶ

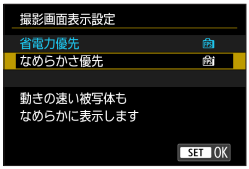
章目次
目 次
機能目次
索 引

撮影画面表示設定

静止画撮影時にモニターをなめらかに表示するか、消費電力を抑えた表示を行うかを設定することができます。



1 **[: 撮影画面表示設定] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

ファインダー表示形式

別売の電子ビューファインダーを使用すると、ファインダーの表示形式を選ぶことができます。



1 **[: ファインダー表示形式] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- 〈▲〉〈▼〉で選びます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

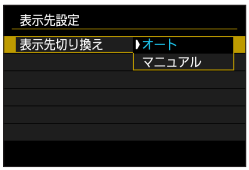
章目次
目 次
機能目次
索 引

表示先設定

別売の電子ビューファインダーを使用すると、撮影画面の表示先を選ぶことができます。

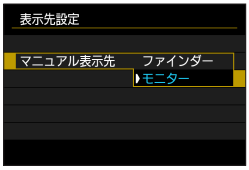


1 [：表示先設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **オート**
  通常はモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。
- **マニュアル**
  モニター表示のみ、またはファインダー表示のみを選ぶことができます。



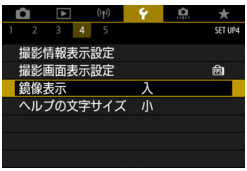
3 表示先を選ぶ

- 〈SET〉を押すと設定されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

鏡像表示

モニターを被写体側（レンズ側）に向けて撮影を行う際に、映像を鏡像表示（左右反転）させることができます。



1 [：鏡像表示] を選ぶ



2 [入] を選ぶ

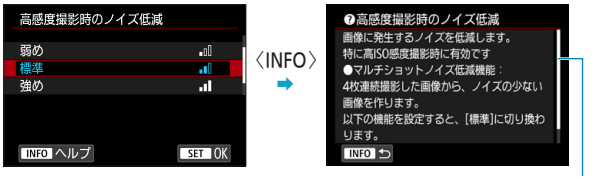
- **[切]** を選ぶと、モニターをレンズ側に向けても鏡像表示は行われません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ヘルプ機能

メニュー画面の下に［INFOヘルプ］が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈▲〉〈▼〉を押すか〈 〉を回します。

● ［：高感度撮影時のノイズ低減］の例

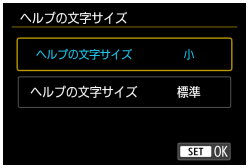


ヘルプ表示の文字サイズ

ヘルプを表示したときの文字サイズを変更することができます。



1 ［：ヘルプの文字サイズ］を選ぶ



2 項目を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引

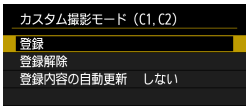
カスタム撮影モード(C1, C2)

応用

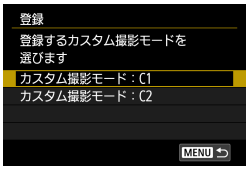
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、カスタム撮影モードとして登録することができます。



1 [：カスタム撮影モード（C1, C2）] を選ぶ



2 [登録] を選ぶ



3 登録する

- [登録] 画面で [カスタム撮影モード：C*] を選び、〈SET〉を押します。
- [カスタム撮影モード：C*] 画面で [OK] を選びます。
  カメラの設定内容が、カスタム撮影モードのC*に登録されます。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で [登録内容の自動更新] を [する] に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で [登録解除] を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

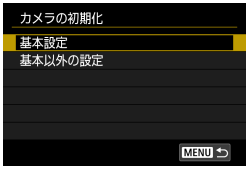
カメラの初期化

応用

〈Fv〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈🎥〉モードのときに、カメラの設定を初期状態に戻すことができます。

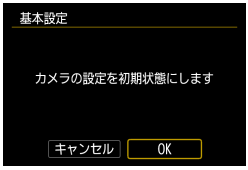


1 **[🔧：カメラの初期化] を選ぶ**



2 **[基本設定] を選ぶ**

- 基本以外の設定を初期化するときは、**[基本以外の設定]** を選び、初期化する項目を選びます。



3 **[OK] を選ぶ**

- カスタム機能（C.Fn）と操作カスタマイズ設定は、『カスタム機能の設定解除』（📖544）を行っても初期状態に戻せます。

- **[言語🗨]** や **[日付/時刻/エリア]** などの基本的な設定は初期状態に戻りません。

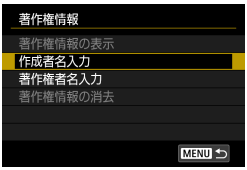
著作権情報

応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。



1 [：著作権情報] を選ぶ



2 項目を選ぶ



3 文字を入力する

- 〈✥〉十字キーまたは〈◥〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- [⏎] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [⌫] を選び〈SET〉を押すと、1文字消去されます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

著作権情報

著作権情報の確認



手順2で**[著作権情報の表示]**を選ぶと、入力した**[作成者]** **[著作権者]**の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で**[著作権情報の消去]**を選ぶと、**[作成者]** **[著作権者]**の情報が消去されます。

- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**[著作権情報の表示]**を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで、著作権情報を設定・確認することもできます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

その他の情報



- **使用説明書・ソフトウェアURL**

  [：使用説明書・ソフトウェアURL] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

- **認証マーク表示** 応用

  [：認証マーク表示] を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

- **ファームウェア** 応用

  [：ファームウェア] を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズのファームウェアをアップデートすることができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

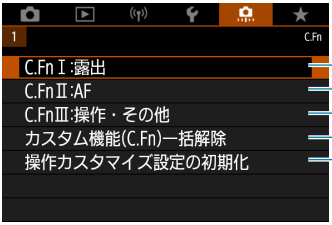
章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能／マイメニュー

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

メニュー目次:カスタム機能タブ

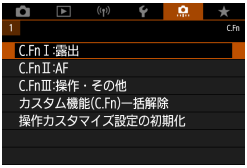


530
534
536
544
544

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能の設定方法

応用

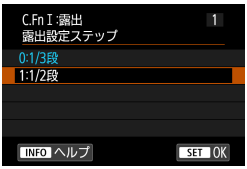


1 [C.FnⅠ:露出] / [C.FnⅡ:AF] / [C.FnⅢ:操作・その他] を選ぶ



2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で設定するカスタム機能番号（1）を選びます。



3 設定を変更する

- 〈▲〉〈▼〉で設定内容（番号）を選びます。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。



- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。
- 初期設定から変更した項目は青色で表示されます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 手順1の画面に戻ります。

カスタム機能で変更できる内容

応用

撮影スタイルに応じて、[📷] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。

C.Fn I：露出

C.Fn I-1：露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

- 0：1/3段
- 1：1/2段

● **[1/2段]** 設定時は、図のように表示されます。



C.Fn I-2：ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- 0：1/3段
- 1：1段

● **[1段]** に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

C.Fn I-3：ブラケティング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときの、AEBとWBブラケティングの解除を設定することができます。

- 0：する
- 1：しない

C.Fn I-4：ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

- 0：0→−→+
- 1：−→0→+
- 2：+→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	− ：ブルー寄りに補正	− ：マゼンタ寄りに補正
+ ：プラス補正	+ ：アンバー寄りに補正	+ ：グリーン寄りに補正

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn I-5：ブラケティング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を変更することができます。
なお、**[ブラケティング順序]** を **[0→−→+]** に設定したときは、下表のように撮影されます。

- 0：3枚
- 1：2枚
- 2：5枚
- 3：7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	−1	+1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	−2	−1	+1	+2		
7：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	+1	+2	+3

- **[2枚]** 設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または−）を選ぶことができます。WBブラケティング設定時は、B/A方向、またはM/G方向の補正になります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

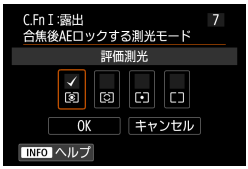
C.Fn I-6：セイフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。**[Tv値/Av値]**は〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで機能します。**[ISO感度]**は〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで機能します。

- 0：しない
- 1：Tv値/Av値
- 2：ISO感度

- **[📷：📷ISO感度に関する設定]**の**[ISO感度の範囲]**　**[オートの低速限界]**が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、**[オートの範囲]**の設定によります（📖148）。ただし、手動設定されているISO感度が**[オートの範囲]**を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

C.Fn I-7：合焦後AEロックする測光モード



ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。

AEロックする測光モードを選び、**[✓]**を付けます。**[OK]**を選ぶと設定されます。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn II：AF

C.Fn II-1：AF方式の限定



AF方式の選択項目を、使用するAF方式だけに限定することができます。
なお、AF方式については、200～202を参照してください。
使用を限定するAF方式を選び【✓】を付けます。【OK】を選ぶと設定されます。

● 【1点AF】の【✓】を外すことはできません。

C.Fn II-2：縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を別々に設定することができます。

- 0：同じ
  縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ位置のAFフレームまたはゾーンAFフレームが設定されます。
- 1：別々に設定：フレーム
  カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。①②③のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

C.Fn II-3：時のサーボAF開始測距点

AF方式を**[+追尾優先AF]**に設定したときに、どのAFフレーム（測距点）からサーボAFを開始するかを設定することができます。

- 0：自動
  撮影状況に応じて**[+追尾優先AF]**のサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。
- 1：時に設定した開始測距点
  AF動作が**[サーボAF]**、AF方式が**[+追尾優先AF]**に設定されているときに、任意設定したAFフレームからサーボAFが始まります。
- 2：ロ時に設定した測距点
  [スポット1点AF]、**[1点AF]**から、**[+追尾優先AF]**に切り換えたときに、それまで任意設定していたAFフレームからサーボAFが始まります。**[+追尾優先AF]**に切り換える前に設定していたAFフレームからサーボAFを開始したいときに有効です。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn III：操作・その他

C.Fn III-1：Tv/Av値設定時のダイヤル回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。
撮影モードが〈**M**〉のときは〈 〉〈 〉、それ以外の撮影モードでは〈 〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈 〉を操作したときの設定方向と、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モード時に〈 〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

- 0：通常
- 1：設定方向を反転

章目次
目 次
機能目次
索 引

C.Fn III-2：ボタン カスタマイズ

〈◉〉や〈M-Fn〉などのボタンに、よく使う機能を割り当てることができます。
また、静止画撮影時と動画撮影時で、同じボタンに別の機能を割り当てることができます。



1 操作部材を選ぶ



2 割り当てる機能を選ぶ

- 〈SET〉を押すと設定されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能で変更できる内容

各ボタンに割り当てできる機能の一覧

		機能			
AF	AF	測光・AF開始	○	○	○
	AF-OFF	AF停止		○	○
		AFフレーム選択		○	○
		AFフレームダイレクト選択			
		AFフレーム中央戻し		○	○
	ONE SHOT SERVO	ワンショットAF⇄サーボAF*1		○	○
	AF□	AF方式*1		○	○
		タッチ&ドラッグAF		○	○
		瞳AF*1		○	○
	PEAK	ピーキング		○	○
露出	✳	AEロック		○	○
	✳H	AEロック（ホールド）		○	○
	✳	AEロック（押している間）	○		
	AEL FEL	AEロック/FEロック*1		○	○
	±◪	露出補正		○	○
	ISO	ISO感度		○	○
		測光開始*1	○		
		測光モード*1		○	○
		ストロボ機能設定*1		○	○
		ストロボの発光*1		○	○
	FEL	FEロック*1		○	○
動画		動画撮影		○	○
	SERVO AF	動画サーボAF一時停止		○	○

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能で変更できる内容

DIAL FUNC	AF-ON	✱						SET
○	○	○						
○	○	○						
○	○	○	○	○	○	○	○	○
				○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○						
○	○	○						
○	○	○						
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○						
○	○	○						
○	○	○	○	○	○	○	○	○

カスタム機能で変更できる内容

		機能			
ボタンダイレクト	DIAL FUNC	ダイヤルファンクション設定		○	○
		絞り込み*1		○	○
	AUTO	Fvモード時、選択項目をリセット*1		○	○
	ALL AUTO	Fvモード時、Tv、Av、図、ISOをリセット*1		○	○
	Q	クイック設定画面		○	○
		拡大/縮小		○	○
メニュー	MENU	メニュー表示		○	○
		記録画質選択*1		○	○
		静止画アスペクト比*1		○	○
		ドライブモード*1		○	○
		オートライティングオプティマイザ		○	○
		ピクチャースタイル選択		○	○
		タッチシャッター*1		○	○
	RAW	RAWバーストモード*1		○	○
		フォルダ選択		○	○
		フォルダ作成*1		○	○
		モニターを一時的に明るくする		○	○
		ディスプレイオフ		○	○
	ECO	エコモード		○	○
		Wi-Fi/Bluetooth接続		○	○
	OFF	無効		○	○

*1: 動画撮影の設定では割り当てできません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能で変更できる内容

DIAL FUNC	AF-ON	☀	▭	▨	▭	ϟ	🗑	SET
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○						○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn III-3：ダイヤル カスタマイズ

〈〉〈〉〈〉に、よく使う機能を割り当てることができます。



1 操作部材を選ぶ



2 割り当てる機能を選ぶ

- 〈SET〉を押すと設定されます。

各ダイヤルに割り当てできる機能の一覧

	機能			
Tv	Mモード時、シャッタースピード変更	○	○	
Av	Mモード時、絞り数値変更	○	○	
Av	Av値変更			○
Tv	Tv値変更			○
ISO	ISO感度設定			○
±	露出補正			○
OFF	無効	○	○	○

章目次
目 次
機能目次
索 引

C.Fn III-4：レンズなしレリーズ

カメラにレンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

- 0：しない
- 1：する

C.Fn III-5：電源オフ時のレンズ収納

カメラにEFレンズ、またはEF-Sレンズでギアタイプの STMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）を取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源を切ったときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

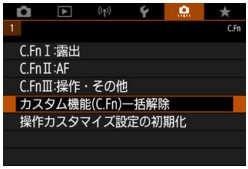
- 0：する
- 1：しない

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません（EF-Mレンズ使用時を除く）。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

- **[0：する]** 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カスタム機能の設定解除



- **カスタム機能の設定の一括解除**

  [:カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、**[ボタンカスタマイズ]** と **[ダイヤルカスタマイズ]** 以外のカスタム機能の設定を一括で解除することができます。

- **[ボタンカスタマイズ] と [ダイヤルカスタマイズ] の設定の解除**

  [:操作カスタマイズ設定の初期化] を選ぶと、**[ボタンカスタマイズ]** と **[ダイヤルカスタマイズ]** の設定を解除することができます。

メニュー目次:マイメニュータブ



546
549
549
550

章目次
目 次
機能目次
索 引

マイメニューの登録

応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

マイメニュータブを追加（作成）する



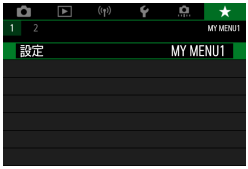
1 ［マイメニュータブの追加］を選ぶ



2 ［OK］を選ぶ

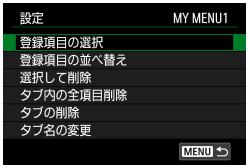
- 手順1、2を繰り返すと、［MY MENU5］まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する

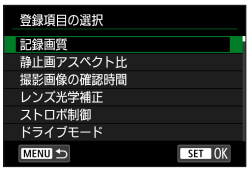


1 ［★：設定］を選ぶ

章目次
目 次
機能目次
索 引



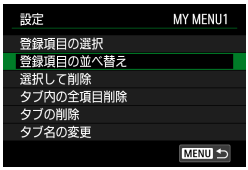
2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。**[登録項目の並べ替え]** を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。**[◆]** が表示された状態で〈▲〉〈▼〉で並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。**[選択して削除]** を選ぶと1項目ずつ削除、**[タブ内の全項目削除]** を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

マイメニューの登録

- **タブの削除**

  現在設定しているタブを削除することができます。**[タブの削除]**を選ぶと、[MY MENU＊] のタブが削除されます。

- **タブ名の変更**

  タブの名称を [MY MENU＊] から任意の名称に変更することができます。

1 **[タブ名の変更] を選ぶ**



2 **文字を入力する**

- [⌫] を選んで、不要な文字を消去します。
- 〈✥〉十字キーまたは〈⌣〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押します。
- [⌂] を選ぶと、入力モードが切り換わります。

3 **入力を確定する**

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

  作成したタブをすべて削除することができます。**[マイメニュータブの全削除]**を選ぶと、[MY MENU1] ～ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、**[★]**タブが初期状態に戻ります。

- **全項目削除**

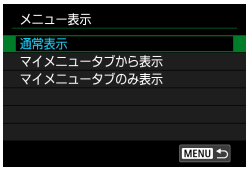
  [MY MENU1] ～ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。**[全項目削除]**を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

- **[タブの削除]** **[マイメニュータブの全削除]**を行うと、**[タブ名の変更]**で設定した名前も削除されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

マイメニューの登録

メニュー表示の設定



[メニュー表示]を選ぶと、〈**MENU**〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
- **マイメニュータブから表示**
  [★]タブの画面から表示されます。
- **マイメニュータブのみ表示**
  [★]タブの画面だけが表示されます（**[📷]** **[▶]** **[((•))]** **[⚡]** **[👤]**タブは表示されません）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

章目次
目 次
機能目次
索 引

ソフトウェア

EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード／インストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。
旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、上書きインストールしてください。

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンにソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

  canon.jp/eos-sw

- モニター裏面に記載のシリアル番号を入力して、ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。
  - Windows

    表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。
  - Macintosh

    dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

(1) dmgファイルをダブルクリックする
➡ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。
(2) インストーラーファイルをダブルクリックする
➡ インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロード

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

- **ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト**

  canon.jp/eos-sw-manual

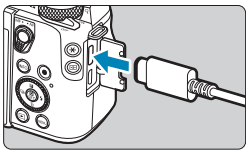
- **使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。**
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

パソコンへの画像の取り込み

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、3通りあります。

パソコンとインターフェースケーブルで接続

1 ソフトウェアをインストールする (552)



2 カメラとパソコンを、インターフェースケーブル IFC-100U（別売／パソコン側の端子はUSB Type-C）で接続する

- カメラのデジタル端子にプラグを差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

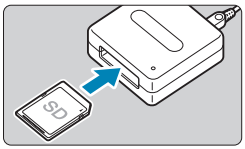
- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カードリーダー

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする (552)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

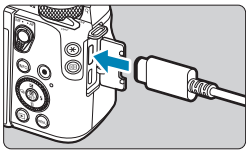
- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

パソコンとWi-Fi接続

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます（410）。

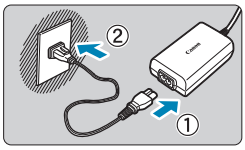
カメラ内での充電

USB電源アダプターPD-E1（別売）を使用して、カメラ内のバッテリーパックLP-E17を充電することができます。**充電中にカメラを操作すると、充電が中断されます。**



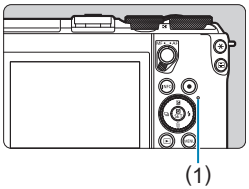
1 USB電源アダプターを接続する

- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、デジタル端子にしっかりと差し込みます。



2 電源コードを接続する

- 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 充電が始まり、アクセスランプ（1）がオレンジ色に点灯します。



- 充電が完了すると、アクセスランプが消灯します。電源プラグをコンセントから抜き、カメラからUSB電源アダプターのプラグを外します。

- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプがオレンジ色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

- アクセスランプが点灯しないときは、USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（0℃～ +10℃）では、充電時間が長くなります。
- Wi-Fi接続中およびカード／バッテリー収納部ふたが開いた状態では、充電が行われません。

家庭用電源アクセサリー

DCカプラー DR-E17（別売）と、コンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。カメラへの取り付けや使用方法は、DR-E17およびCA-PS700の使用説明書を参照してください。

- コンパクトパワーアダプター CA-PS700以外は使用しないでください。
- カメラの電源が入った状態で、電源コードやコネクターの抜き差し、DCカプラーの取り出しを行わないでください。
- 使い終わったら、電源プラグをコンセントから抜いてください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器で充電できない

- 純正のバッテリーパックLP-E17を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1)充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2)バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが点滅します。(1)の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けたバッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります。

USB電源アダプター（別売）で充電できない

- カメラの電源スイッチが〈ON〉のときは充電は行われません。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。

USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- カード／バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください（📖44）。
- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください（📖44）。
- バッテリーを充電してください（📖42）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

故障かな？と思ったら

［ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？］と表示される

- 純正のバッテリーパックLP-E17を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください（📖44）。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください（📖42）。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使う
  - Wi-Fi/Bluetooth（無線通信）機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、**［：節電］**の**［オートパワーオフ］**を**［しない］**にしてください（📖497）。
- **［オートパワーオフ］**を**［しない］**に設定していても、**［ディスプレイオフ］**で設定した時間放置すると、モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- **［：エコモード］**を**［切］**に設定してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

撮影関連

レンズが装着できない

- EFレンズ、EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、RFレンズは使用できません。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（📖44）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（📖44）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（📖44、📖329）。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（📖60、📖220）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、📖47、📖577を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

故障かな？と思ったら

画像がボケている／ブレている

- フォーカスモードをAFにしてください（📖7、📖54）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（📖60）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする（📖108）、ISO感度を上げる（📖145）、ストロボを使用する（📖285）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 📖75の『ブレの少ない画像の撮影』を参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。サーボAFのときはフォーカスロック撮影はできません（📖76）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります（📖136）。

章目次
目 次
機能目次
索 引

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、🕮579に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、🕮579の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**を**[しない]**に設定してください（🕮151）。**[弱め][標準][強め]**に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- 🕮113を参照して露出補正を行ってください。

撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMを装着し、高ISO感度に設定して撮影した際、静止画や動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。
  横縞状のノイズが発生するときは、ISO感度を下げるか、ISOオートの上限を低く設定してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- **[デジタルレンズオプティマイザ]** が **[する]** に設定されているときは、**[色収差補正]** **[回折補正]** は表示されませんが、ともに **[する]** の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に **[デジタルレンズオプティマイザ]** **[回折補正]** の項目は表示されません。

〈Av〉〈P〉モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- **[📷:ストロボ制御]** の **[スローシンクロ]** を、**[1/200-1/60秒自動]** または **[1/200秒固定]** に設定してください（📖293）。

ストロボが発光しない

- カメラに外部ストロボがしっかり取り付けられていることを確認してください。
- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

ストロボがいつもフル発光する

- EL／EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します（📖302）。
- ストロボカスタム機能の **[調光方式]** が **[TTL]**（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（📖300）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

ISOオートでストロボ撮影を行ったときに設定した露出が変化する

- ストロボ発光時に、露出オーバーで標準露出が得られないときは、自動的にシャッタースピードやISO感度が変わって白トビの軽減が行われ、標準露出で撮影されます。ストロボ撮影時は、使用するレンズにより、シャッターボタンを半押ししたときに、表示されたシャッタースピード、ISO感度とは異なる設定で撮影されることがあります。このときは、ストロボ光の届かない背景部分の明るさが変化することがあります。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**Fv**〉モードでシャッターボタンを半押ししたときに、表示されたシャッタースピード、ISO感度とは異なる設定で撮影されないようにするときは、ISO感度を手動設定してから撮影してください。

リモコン撮影ができない

- 無線リモコンで静止画撮影を行うときは、ドライブモードを［ ］または［ 2］に設定してください（137）。動画撮影を行うときは、［ ：**リモコン撮影**］を［**する**］に設定してください（278）。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、225、448を参照してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、262を参照してください。

撮影時に白い と赤い が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い［ ］が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い［ ］が表示されたときは、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています（226）。

故障かな？と思ったら

動画撮影時に赤い が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い［ ］が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（282）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、581を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが［ M］以外のときは、ISO感度が自動設定されます。［ M］モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（279、583）。

動画撮影時にISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［ ：高輝度側・階調優先］が［する］に設定されているときは、ISO感度の設定がISO200～になります。
- ［ ：高輝度側・階調優先］が［する］に設定されているときは、H（拡張ISO感度）は選択できません。
- ［ ：高輝度側・階調優先］を［しない］に設定すると、ISO100／125／160、およびH（拡張ISO感度）が設定できるようになります。

[📹] が表示される

- 以下の設定で動画を繰り返し撮影したり、撮影待機状態を長時間続けると、[📹] が表示されることがあります。
  - 4K動画撮影
  - ハイフレームレート動画撮影
  - Wi-Fi接続時の動画撮影
- [📹] が表示されたまま撮影を継続すると、約3分後に自動的にカメラの電源が切れます。また、[📹] が表示されたまま撮影待機状態を続けたときも、自動的にカメラの電源が切れることがあります。
- [📹] が表示されたときは、カメラの電源を切って、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。[📹M] モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

無線通信機能関連

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールしてください（382）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（390）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（378）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

操作関連

タッチ操作ができない

- **[🔧：タッチ操作]** が **[標準]** または **[敏感]** に設定されているか確認してください（📖509）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は **[🔧：動画撮影時シャッターボタンの機能]** の設定を確認してください（📖513）。
- **[📷：C.Fn III-2：ボタン カスタマイズ]** または **[📷：C.Fn III-3：ダイヤル カスタマイズ]** の設定内容を確認してください（📖537、📖542）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンのときは、一部のタブや項目は表示されません。また、メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

［★］マイメニュータブから表示される／［★］タブしか表示されない

- ［★］タブの［**メニュー表示**］が［**マイメニュータブから表示**］または［**マイメニュータブのみ表示**］に設定されています。［**通常表示**］に設定してください（📖550）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- ［📷：**色空間**］を［**sRGB**］に設定してください。［**Adobe RGB**］に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（📖164）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（📖488）。

故障かな？と思ったら

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（📖499）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（📖499）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（📖333）。

[###] が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると [###] と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- **[▶：ハイライト警告表示]** が **[する]** に設定されています（📖371）。

画像に赤い枠が表示される

- **[▶：AFフレーム表示]** が **[する]** に設定されています（📖372）。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
  - 〈**SCN**：🌃、🎇〉モードで撮影した画像
  - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
  - トリミングを行った画像
  - HDR撮影で **[画像位置自動調整：する]** に設定して撮影した画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（📖325）。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- **[▶：画像検索の条件設定]** で再生する画像の絞り込みが行われています（📖365）。検索条件を解除してください。

故障かな？と思ったら

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）の使用をおすすめします（📖251）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[🎥M]モードで撮影してください（📖236）。

テレビに映像が表示されない

- [🔧:ビデオ方式]の[NTSC] [PAL]の設定（📖504）を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（📖323）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（📖248）。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズできない

- JPEGの**S2**とRAW画像は、カメラでリサイズできません（📖358）。

画像をトリミングできない

- RAW画像は、カメラでトリミングできません（📖356）。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。**[🔧:センサークリーニング]**の**[今すぐクリーニング]**を行うと（📖505）、輝点の発生が改善することがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- 【：センサークリーニング】の【今すぐクリーニング】を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（176、505）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、【】が表示されないことがあります（49）。

パソコン接続関連

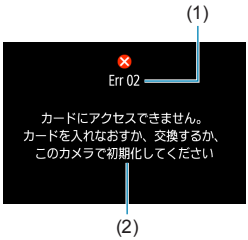
パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください（552）。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、【：タイムラプス動画】を【しない】に設定してください（252）。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理受付窓口へご相談ください。

(1) エラー番号
(2) 原因・対処方法

章目次
目 次
機能目次
索 引

データシート

静止画撮影

● 撮影可能枚数の目安

約305枚（常温+23℃）

・モニター、フル充電のバッテリーパックLP-E17使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

● ISOオートの範囲

撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
Fv/**P**/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～25600*	ISO100～1600*

*［**オートの範囲**］の［**下限値**］［**上限値**］による

・かんたん撮影ゾーン時のISO感度は自動設定

・バルブ撮影時はISO400に設定されます。

章目次 目 次
機能目次 索 引

● 記録画質を選ぶときの目安

（約）

記録画質	記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数	
				標準	高速
JPEG					
◢L	32M	11.1	2720	54	54
◢L		5.6	5380	54	54
◢M	15M	5.8	5190	54	54
◢M		3.0	9860	54	54
◢S1	8.1M	3.6	8390	54	54
◢S1		2.0	14600	54	54
S2	3.8M	1.6	18390	54	54
RAW					
RAW	32M	35.6	850	23	23
CRAW	32M	20.4	1490	34	36
RAW＋JPEG					
RAW ◢L	32M 32M	35.6+11.1	650	23	23
CRAW ◢L	32M 32M	20.4+11.1	960	34	36

- 撮影可能枚数は、当社試験基準32GBカード使用時の枚数
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、当社試験基準SDカード（標準：32GB／高速：UHS-II対応32GB）を使用し、当社試験基準（[連写H] 高速連続撮影、アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
- **ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動する**

● 高速タイプのSDカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、表に示した枚数の連続撮影ができます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

データシート

● 静止画アスペクト比設定時の記録画素数

（約・画素）

記録画質	3：2	4：3
RAW／CRAW	6960×4640（3230万）	6960×4640（3230万）
L	6960×4640（3230万）	6160×4640*（2860万）
M	4800×3200（1540万）	4256×3200*（1360万）
S1	3472×2320*（810万）	3072×2320*（710万）
S2	2400×1600（380万）	2112×1600*（340万）

記録画質	16：9	1：1
RAW／CRAW	6960×4640（3230万）	6960×4640（3230万）
L	6960×3904*（2720万）	4640×4640（2150万）
M	4800×2688*（1290万）	3200×3200（1020万）
S1	3472×1952*（680万）	2320×2320（540万）
S2	2400×1344*（320万）	1600×1600（260万）

- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。

- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- JPEG画像のファイルサイズについては、📖579に記載している値を参考にしてください。[📷：静止画アスペクト比]を設定して同一条件で撮影したときは、[3：2] の設定で撮影したときよりもファイルサイズが小さくなります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影

● 動画が記録できるカード

動画記録サイズ			SDカード
4K	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
FHD	119.9P 100.0P	IPB	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
	59.94P 50.00P	IPB	SDスピードクラス10以上
	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	SDスピードクラス4以上
	HDR動画		
	29.97P 25.00P	IPB	
HD	59.94P 50.00P	IPB	

- 【動画電子IS】：【しない】設定時
- 表の内容は、動画をカードに記録するときに必要なカードの「書き込み／読み取り速度」（要求カード性能）。

データシート

● 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

（約）

動画記録サイズ			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
			8GB	32GB	128GB	
4K	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	8分	35分	2時間21分	860MB/分
FHD	119.9P 100.0P	IPB	8分	35分	2時間22分	858MB/分
	59.94P 50.00P	IPB	17分	1時間10分	4時間43分	431MB/分
	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	35分	2時間20分	9時間23分	216MB/分
	HDR動画					
	29.97P 25.00P	IPB	1時間26分	5時間47分	23時間11分	87MB/分
HD	59.94P 50.00P	IPB	40分	2時間42分	10時間49分	187MB/分

・［動画電子IS］：［しない］設定時

- カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（282）。

● 動画撮影可能時間の目安

約80分（常温+23℃）

- フル充電のバッテリーパックLP-E17使用時
- ［📷：動画記録画質］の［動画記録サイズ］：FHD 29.97P IPB (NTSC)／FHD 25.00P IPB (PAL)、［📷：動画サーボAF］：［する］設定時

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影時のISO感度について

[🎥] モード時

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- **[📷：🎥ISO感度に関する設定]** の **[オートの上限]** を **[H(25600)]** に設定すると（📖279）、自動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。

[🎥M] モード時

- ISO感度を **[AUTO]** に設定したときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- ISOオート設定時に、**[📷：🎥ISO感度に関する設定]** の **[オートの上限]** を **[H(25600)]** に設定すると（📖279）、自動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で設定することができます。なお、**[📷：🎥ISO感度に関する設定]** の **[ISO感度の範囲]** を **[H (25600)]** に設定すると（📖279）、手動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。

データシート

画像の再生

● 撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M	S1	S2
L*	○	○	○
M		○	○
S1			○

● リサイズした画像の画像サイズ

（約・画素）

記録画質	3：2	4：3
M	4800×3200（1540万）	4256×3200*（1360万）
S1	3472×2320*（810万）	3072×2320*（710万）
S2	2400×1600（380万）	2112×1600*（340万）

記録画質	16：9	1：1
M	4800×2688*（1290万）	3200×3200（1020万）
S1	3472×1952*（680万）	2320×2320（540万）
S2	2400×1344*（320万）	1600×1600（260万）

- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- リサイズ条件により、画像がわずかにトリミングされることがあります。

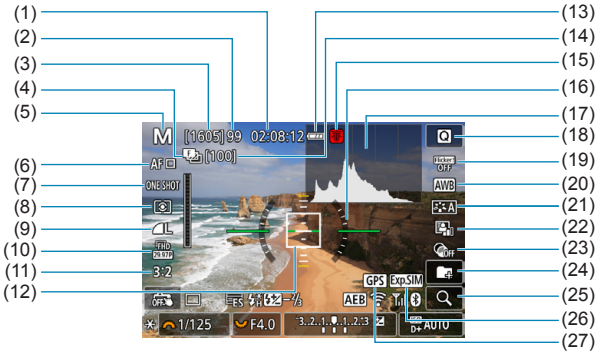
章目次 目 次 機能目次 索 引

情報表示

静止画撮影画面

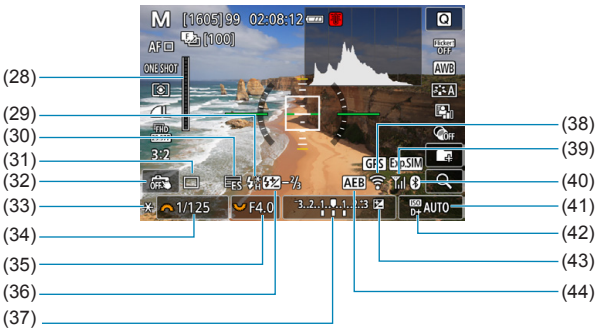
〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1)	動画撮影可能時間
(2)	連続撮影可能枚数
(3)	撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数
(4)	フォーカスブラケット撮影／HDR撮影／マルチショットノイズ低減／バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影／RAWバースト撮影
(5)	撮影モード／シーン判別アイコン
(6)	AF方式
(7)	AF動作
(8)	測光モード
(9)	記録画質
(10)	動画記録サイズ
(11)	静止画アスペクト
(12)	AFフレーム（1点AF）
(13)	バッテリー残量
(14)	フォーカスブラケット撮影残り枚数／インターバルタイマー残り枚数
(15)	温度上昇警告
(16)	水準器
(17)	ヒストグラム
(18)	クイック設定
(19)	フリッカーレス撮影
(20)	ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(21)	ピクチャースタイル
(22)	オートライティングオプティマイザ
(23)	クリエイティブフィルター
(24)	フォルダ作成
(25)	拡大ボタン
(26)	露出シミュレーション
(27)	GPS受信状態

情報表示



(28) RAWインジケーター	(36) ストロボ調光補正
(29) ストロボ充電完了／FEロック／ハイスピードシンクロ	(37) 露出レベル表示
(30) 電子シャッター	(38) Wi-Fi機能
(31) ドライブモード	(39) Wi-Fi電波強度
(32) タッチシャッター	(40) Bluetooth機能
(33) AEロック	(41) ISO感度
(34) シャッタースピード	(42) 高輝度側・階調優先
(35) 絞り数値	(43) 露出補正
	(44) AEB撮影／FEB撮影

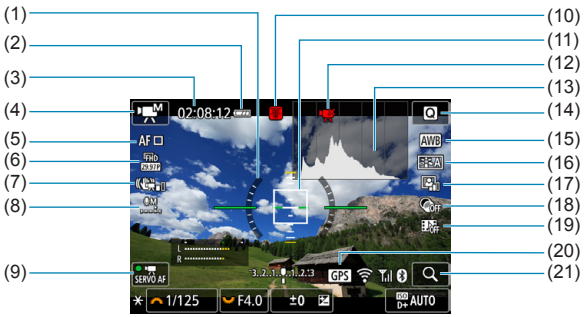
- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（📖514）。
- AF方式が【+追尾優先AF】のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

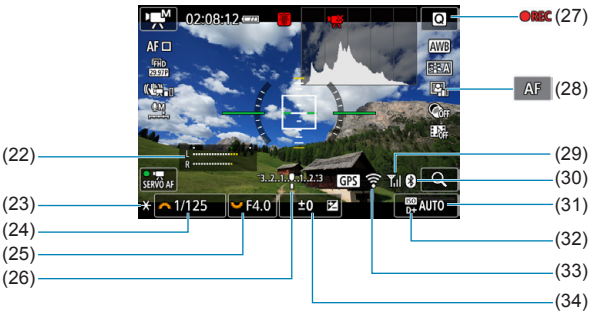
- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1) 水準器	(11) AFフレーム（1点AF）
(2) バッテリー残量	(12) 動画撮影禁止
(3) 動画撮影可能時間／撮影経過時間	(13) ヒストグラム（マニュアル露出時）
(4) 動画撮影モード／タイムラプス動画／シーン判別アイコン	(14) クイック設定ボタン
(5) AF方式	(15) ホワイトバランス／WB補正
(6) 動画記録サイズ	(16) ピクチャースタイル
(7) 動画電子IS	(17) オートライティングオプティマイザ
(8) 録音レベル（マニュアル）	(18) クリエイティブフィルター
(9) 動画サーボAF	(19) ビデオスナップ
(10) 温度上昇警告	(20) GPS受信状態
	(21) 拡大ボタン

章目次
目 次
機能目次
索 引

情報表示



(22) 録音レベルメーター（マニュアル）	(29) Wi-Fi電波強度
(23) AEロック	(30) Bluetooth機能
(24) シャッタースピード	(31) ISO感度
(25) 絞り数値	(32) 高輝度側・階調優先
(26) 露出レベル表示	(33) Wi-Fi機能
(27) 動画撮影中	(34) 露出補正
(28) AF/MF切り換え	

- 〈**INFO**〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（514）。
- AF方式が［**+追尾優先AF**］のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

シーン判別アイコン一覧

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

被写体 / 背景	人物	動いているとき*1	人物以外の被写体 自然や屋外シーン	動いているとき*1	近いとき*2	背景色
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時*1	 *4*5	*3	 *4*5	*3		

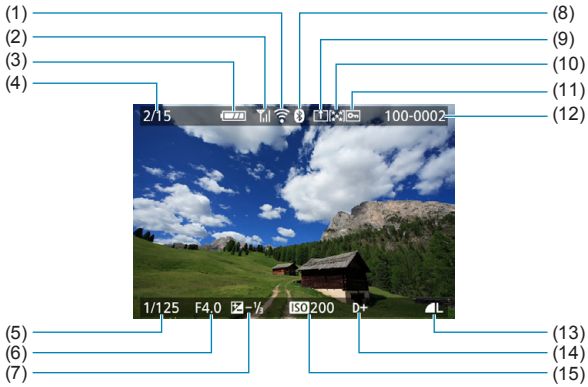
*1: 動画撮影中は表示されません。
*2: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
*3: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
*4: 下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」
*5: 下記のレンズを使用したときに表示されます。
・EF300mm F2.8L IS II USM　・EF400mm F2.8L IS II USM
・EF500mm F4L IS II USM　・EF600mm F4L IS II USM
・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ
*4+*5：*4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

● シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

情報表示

再生画面

● 静止画の簡易情報表示

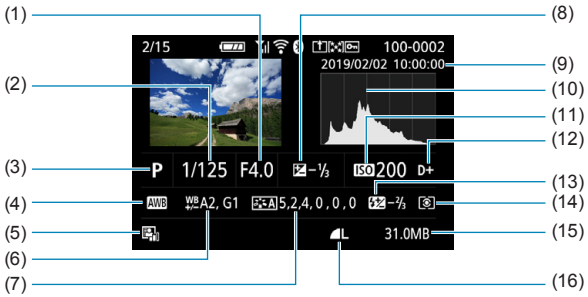


(1)	Wi-Fi機能
(2)	Wi-Fi電波強度
(3)	バッテリー残量
(4)	再生番号／総記録画像数／検索結果画像数
(5)	シャッタースピード
(6)	絞り数値
(7)	露出補正量
(8)	Bluetooth機能
(9)	パソコン／スマートフォンに送付済み
(10)	レーティング
(11)	画像プロテクト
(12)	フォルダ番号ー画像番号
(13)	記録画質／画像加工済み／トリミング
(14)	高輝度側・階調優先
(15)	ISO感度

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

章目次
目 次
機能目次
索 引

● 静止画の詳細情報表示

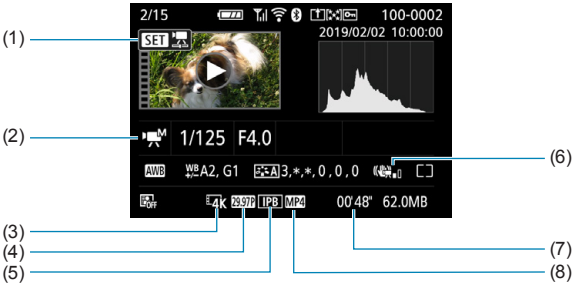


(1)	絞り数値
(2)	シャッタースピード
(3)	撮影モード
(4)	ホワイトバランス
(5)	オートライティングオプティマイザ
(6)	ホワイトバランス補正量
(7)	ピクチャースタイル／設定内容
(8)	露出補正量
(9)	撮影日時
(10)	ヒストグラム（輝度/RGB）
(11)	ISO感度
(12)	高輝度側・階調優先
(13)	ストロボ調光補正量／バウンス／HDR撮影／マルチショットノイズ低減
(14)	測光モード
(15)	ファイルサイズ
(16)	記録画質／画像加工済み／トリミング

* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は（🕮127）、撮影範囲が線で表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、【⚡】が表示されます。
* バウンス撮影を行った画像は、【↱】が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、仕上がり効果のマーク（🕮179）とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、【NR】が表示されます。
* RAW現像、RAWバースト画像からの静止画切り出し、リサイズ処理、トリミング、クリエイティブアシストを行って保存した画像は、【🖼】が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、【⧉】が表示されます。

情報表示

● 動画の詳細情報表示



(1)	動画再生
(2)	動画撮影モード／タイムラプス動画／ビデオスナップ
(3)	画像サイズ
(4)	フレームレート
(5)	圧縮方式
(6)	動画電子IS
(7)	記録時間
(8)	動画記録形式

* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、【】が表示されます。

● 動画再生時、【ピクチャースタイル】の【シャープネス】の【細かさ】【しきい値】は、「*, *」と表示されます。

章目次
目 次
機能目次
索 引

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

章目次
目 次
機能目次
索 引

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

* 規定により英語で表記しています。

第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

●AES-128 Library

Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

LICENSE TERMS

The redistribution and use of this software (with or without changes) is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

1. source code distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;
2. binary distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in their documentation;
3. the name of the copyright holder is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

DISCLAIMER

This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

章目次
目 次
機能目次
索 引

●CMSIS Core header files

Copyright (C) 2009-2015 ARM Limited.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of ARM nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

章目次
目 次
機能目次
索 引

●KSDK Peripheral Drivers, Flash / NVM, KSDK H/W Abstraction Layer (HAL)

(c) Copyright 2010-2015 Freescale Semiconductor, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
* Neither the name of the <organization> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL <COPYRIGHT HOLDER> BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

- バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

章目次
目 次
機能目次
索 引

索　引

数字

1点AF：200, 205
1枚撮影：135
1枚表示：306
[4K] 3840×2160（動画）：243
4Kフレームキャプチャー：317

アルファベット

A

Adobe RGB：164
AEB：143
AEロック：219, 235, 533
AF
　AF速度：276
　AF動作：197
　AFフレーム選択：205
　AF方式：200
　AF方式の限定：534
　AF補助光：199, 217
　エリアAFフレーム：86, 208
　構図変更：76
　コンティニュアスAF：213
　手動ピント合わせ：220
　タッチ&ドラッグAF：214
　縦位置/横位置AFフレーム：534
　電子音：510
　瞳AF：211
　レンズの電子式手動フォーカス：216
AFスタートボタン：61
AFフレーム表示：372
ALL-I：252
Av（絞り優先AE）：110
〈A+〉（シーンインテリジェントオート）：72

B

BGM：313, 314, 355
Bluetooth機能：381, 448, 455
　アドレス：455
　接続：383
BUSY：126

C

〈C1〉/〈C2〉（カスタム撮影）：521

D

DCカプラー：557
DPOF：333

E

Err：577
exFAT：248, 493

F

FAT32：248, 493
FEB：300
FEロック：289
[FHD] 1920×1080（動画）：243
Fv（フレキシブルAE）：114

G

GPS：457

H

[HD] 1280×720（動画）：243
HDMI：280, 323, 511
HDMI HDR：512
HDMI出力：280
HDR絵画調標準：101
HDR逆光補正：93
HDRグラフィック調：101
HDR撮影：178

章目次　目 次
機能目次　索 引

HDR動画撮影：241
HDRビンテージ調：101
HDR油彩調：101

I

ICCプロファイル：164
INFOボタン：63
IPB：245
ISO感度：145, 279
　ISOオートの範囲：148, 578
　ISO感度の範囲：147, 279
　オートの低速限界（静止画）：149
　オートの範囲（静止画）：148

J

JPEG（ジェイペグ）：579

M

M-Fnボタン：34, 62
MF（手動ピント合わせ）：220
MFピーキング：222
MP4：245
MWB：160
M（マニュアル露出）：112

N

NTSC：245, 504

O

ONE SHOT（ワンショットAF）：198

P

PAL：245, 504
P（プログラムAE）：106

Q

[Q]（クイック設定）：69

R

RAW+JPEG：124, 579
RAW現像：343
RAWバーストモード：139
RAW（ロウ）：125

S

〈SCN〉（スペシャルシーン）：36, 80
SD、SDHC、SDXCカード　→カード
SERVO（サーボAF）：198
sRGB：164

T

Tv（シャッター優先AE）：108

U

UHS-II/UHS-I：11
USB（デジタル）端子：554
UTC：459

W

WB（ホワイトバランス）：157
Wi-Fi機能：377
　Android：382
　Camera Connect：382, 388
　CANON iMAGE GATEWAY：428
　EOS Utility：410
　Image Transfer Utility 2：415
　iOS：382
　IPアドレス：446
　MACアドレス：463
　PictBridge：418
　SSID：393, 411, 419
　Wi-Fi設定：454
　WPS (Wi-Fi Protected Setup)：443
　印刷：420

索 引

印刷指定：423
選んで送信：398, 435
カード内全画像送信：402, 439
画像閲覧：388
仮想キーボード：464
画像検索の条件設定：403, 440
カメラアクセスポイントモード：446
公開画像の設定：406
再接続：451
情報表示画面：463
接続先の機器の編集：406, 460
接続先履歴：451, 454
接続情報の消去：461
設定初期化：462
送信画像サイズ：396, 401, 436
注意事項：476
ニックネーム：461
ネットワークの設定：479
ネットワーク変更：444
ネットワーク名：393, 411, 419
パスワード：454
プリンター：418
ペアリング：384
リモート操作：388

かな

あ

赤目緩和：292
赤目補正：352
アクセサリーシュー：35, 302
アクセスランプ：45
アスペクト比　→静止画アスペクト比
アッテネーター：251
後幕シンクロ：295, 299
アルバム（ビデオスナップ）：263, 353
600
安全上のご注意：28

い

位置情報：457
色あい：90, 169
色温度：161
色空間：164, 347
色収差補正：133, 348
色の濃さ：169
印刷
　印刷指定：333
　フォトブック指定：337
インターバルタイマー：189
インデックス表示：310

う

ウィンドカット：250

え

エコモード：496
絵文字：9
エラー表示：577
エリアAFフレーム：86, 208
エリア（地域）：499

お

応用撮影ゾーン：37
オートパワーオフ：497
オートフォーカス　→AF
オートライティングオプティマイザ：151
オートリセット：490
お気に入りマーク：360
温度警告：226, 282
音量（動画再生）：313, 314

か

カード：11, 33, 44

書き込み禁止：44
初期化（フォーマット）：47, 492
トラブル：47, 561
物理フォーマット：492
回折補正：133, 348
階調優先：152
回転（画像）：328, 491
外部ストロボ →ストロボ（スピードライト）
外部マイク：251
顔+追尾優先AF：200, 203
拡大倍率設定：375
拡大表示：207, 220, 309
拡張ISO感度：145, 147, 279, 583
拡張子：124, 245
各部名称：34
カスタム機能：527
カスタム撮影モード：521
画像
AFフレーム表示：372
インデックス表示：310
オートリセット：490
拡大表示：309
画像番号：488
強制リセット：490
検索条件：365
再生：303
撮影情報：307, 591
自動回転：491
ジャンプ表示（画像送り）：367
手動回転：328
消去：329
通し番号：489
取り込み（パソコン）：554
ハイライト警告：371
ヒストグラム：369
プロテクト（保護）：325
レーティング：360
画像送り（ジャンプ表示）：367
画像検索：365
画素数：124, 579
傾き補正：357
家庭用電源：557
カメラ
構え方：59
カメラブレ：138, 193
カメラ
設定初期化：522
簡易情報表示：590
かんたん撮影ゾーン：36
感度 →ISO感度

き

機能ガイド：495
強制リセット：490
魚眼風：100, 341
記録画質：124, 579

く

クイック設定：69
クリエイティブアシスト：78, 349
クリエイティブフィルター：98, 340
グリッド：373, 515
クローズアップ：89

け

言語：502

こ

高感度撮影時のノイズ低減：174
高輝度側・階調優先：152
高速連続撮影：135
故障：558
コントラスト：151, 169
コンパクトパワーアダプター：557

索 引

コンビネーションIS：271

さ

サーボAF
- SERVO：198
- 開始測距点：535
- 動画サーボAF：273, 275, 276

再生：303
先幕シンクロ：299
撮影画像の確認時間：129
撮影可能時間（動画）：582
撮影可能枚数：578
撮影情報表示：514, 585
撮影モード
- Av（絞り優先AE）：110
- 〈A+〉（シーンインテリジェントオート）：72
- 〈C1〉/〈C2〉（カスタム撮影）：521
- Fv（フレキシブルAE）：114
- M（マニュアル露出）：112
- P（プログラムAE）：106
- Tv（シャッター優先AE）：108
- クリエイティブフィルター：98
  - HDR絵画調標準：101
  - HDRグラフィック調：101
  - HDRビンテージ調：101
  - HDR油彩調：101
  - 魚眼風：100
  - ジオラマ風：101
  - 水彩風：100
  - ソフトフォーカス：100
  - トイカメラ風：100
  - ラフモノクロ：100
- スペシャルシーン（SCN）：80
  - HDR逆光補正：93
  - クローズアップ：89
  - 自分撮り：82
  - スポーツ：86
  - 手持ち夜景：92
  - 流し撮り：87
  - 美肌：84
  - 風景：85
  - ポートレート：83
  - 夜景ポートレート：91
  - 料理：90

撮影モードガイド：494
撮像素子の清掃：505
サブ電子ダイヤル：34, 61
サマータイム：500

し

シーンインテリジェントオート：72
シーン判別アイコン：77, 589
ジオラマ風：101, 103, 342
ジオラマ風動画：268
自分撮り：82
絞り込み：111
絞り優先AE：110
シャープネス：169
シャッター方式：188
シャッターボタン：60, 513
シャッターボタンの機能：513
シャッター優先AE：108
ジャンプ表示：367
充電：42, 556
周辺光量補正：131, 347
縮小表示：310
手動ピント合わせ：220
消去（画像）：329
初期化（フォーマット）：47, 492
白黒写真：166, 170
白とび：371
シンクロ設定：295, 299

章目次
目 次
機能目次
索 引

す

水彩風：100, 342
水準器：585, 586
水平補正：272
ストラップ：39
ストロボ
　調光補正：288, 295
ストロボ（スピードライト）
　FEB：300
　FEロック：289
　赤目緩和：292
　外部ストロボ：302
　カスタム機能：300
　撮影できる距離：286
　シンクロ（先幕／後幕）：295, 299
　ストロボ制御（機能設定）：291
　スローシンクロ：293
　調光補正：295
　同調シャッタースピード：302
　内蔵ストロボ：286
　マニュアル発光：294, 297
　ワイヤレス：298
スペシャルシーン（SCN）：80
スポーツ：86
スポット1点AF：200, 205
スポット測光：153
スモール（記録画質）：124
スライドショー：363

せ

静止画アスペクト比：127, 580
静止画の切り出し：321
セイフティシフト：533
設定初期化：522
　カスタム機能：544
　カスタム撮影モード：521
　撮影情報表示：516
　ストロボ機能設定：301
　操作カスタマイズ：544
　マイメニュー：549
　無線通信：462
節電：497
セピア調（モノクロ写真）：170
セルフタイマー：137
全押し：60, 513
センサークリーニング：505

そ

ゾーンAF：201, 205
測光タイマー：155
測光モード：153
ソフトウェア：552
　使用説明書：553
ソフトフォーカス：100, 341

た

ダイジェスト動画：224, 319
タイムラプス動画：252
ダストデリートデータ：176
タッチ音：510
タッチシャッター：186
タッチ操作：68, 308, 509
縦位置画像回転表示：491
縦位置/横位置AFフレーム：534
ダブルタップ：308

ち

チャージャー：38, 42
中央部重点平均測光：153
調光補正：288, 295
長時間露光：192
調色（モノクロ）：170
長秒時露光のノイズ低減：173
著作権情報：523

索 引

て

ディスプレイオフ：497
低速連続撮影：135
デジタル端子：554
デジタルレンズオプティマイザ：132, 347
手ブレ：60, 75
手ブレ補正：218
手持ち夜景：92
テレビで見る：323
電源：49
　オートパワーオフ：497
　家庭用電源：557
　撮影可能枚数：578
　充電：42, 556
　バッテリー残量：50
電子音：510
電池　→電源

と

トイカメラ風：100, 342
動画：229
　AEロック：235
　HDMI出力：280, 511
　HDR動画撮影：241
　圧縮方式：245
　アッテネーター：251
　ウィンドカット：250
　オートスローシャッター：281
　外部マイク：251
　記録時間：249, 582
　グリッド：515
　再生：311
　自動水平補正：272
　自動露出撮影：234
　情報表示：587
　前後カット：315
　ダイジェスト動画：224, 319
　タイムラプス動画：252
　動画記録サイズ：243
　動画記録できるカード：581
　動画サーボAF：273, 275, 276
　動画サーボAF時のAF速度：276
　動画サーボAFの被写体追従特性：275
　動画電子IS：270
　ビデオスナップ：263
　ファイルサイズ：248, 582
　フレーム切り出し：317
　フレームレート：245
　編集：315, 319
　マイク：235, 251
　マニュアル露出撮影：236
　録音／録音レベル：250
通し番号：489
ドライブモード：135
ドラッグ：68
トラブル：558
トリミング（画像）：356

な

内蔵ストロボ：286
流し撮り：87

に

認証マーク：525

の

ノイズ低減
　高感度撮影時：174
　長秒時露光：173
ノーマル（記録画質）：124

は

バースト枚数：126, 579

章目次　目 次
機能目次　索 引

ハイダイナミックレンジ →HDR撮影
ハイライト警告：371
パソコンへの画像取り込み：554
発光モード：294, 297
バッテリー（電池） →電源
バルブ撮影：192
　バルブタイマー：193
半押し：60, 513
汎用ストロボ：302

ひ

ピクチャースタイル：165, 168, 171
被写界深度確認：111
被写体追従特性：275
ヒストグラム：369, 516
日付／時刻：499
ビデオスナップ：263
ビデオ方式：504
瞳AF：211
美肌：84
評価測光：153
表示先設定：518
ピント合わせ →AF

ふ

ファームウェア：525
ファイルサイズ：248, 579, 582
ファイン（記録画質）：124
ファインダー
　表示形式：517
フィルター効果（モノクロ）：170
風景：85
フォーカスブラケット撮影：182
フォーカスモードスイッチ：7, 35, 54, 220, 223, 503
フォーカスロック：76
フォーマット（カード初期化）：47, 492
フォトブック指定：337
フォルダ作成／選択：486
付属品：3
部分測光：153
ブラケティング
　AEB：143
　FEB：300
　WB-BKT：163
　フォーカスBKT：182
フリッカーレス：195
フレーム切り出し：317
フレームレート：245, 504
フレキシブルAE：114
プログラムAE：106
　プログラムシフト：107
プロテクト（保護）：325
雰囲気優先（AWB）：157, 159

へ

ヘルプ：520
　文字サイズ：520

ほ

ポートレート：83
ボタンカスタマイズ：538
ホワイトバランス：157
　色温度指定：161
　オート：159
　ブラケティング：163
　雰囲気優先：157, 159
　補正：162
　ホワイト優先：157
　マニュアル：160
ホワイト優先（AWB）：157, 159

ま

マイク：235, 251
マイメニュー：546

索 引

マニュアルフォーカス：220
マニュアル露出：112, 236
マルチショットノイズ低減：174
マルチファンクション：34, 62

み
ミドル（記録画質）：124

む
無線通信：377

め
メイン電子ダイヤル：34, 61
メニュー：64
　カスタム機能：528
　機能設定：484
　再生：304
　静止画撮影：119
　設定操作：65
　動画撮影：230
　灰色（グレー）表示：67
　マイメニュー：545
　無線通信機能：378
メモリーカード　→カード

も
モードダイヤル：36
モニター：32, 48
　明るさ：498
　角度調整：48
モノクロ：166

や
夜景ポートレート：91

ゆ
油彩風：342

よ
要求カード性能：246, 581

ら
ラージ（記録画質）：124
ラフモノクロ：100, 341

り
リサイズ：358
リモートコントローラー：225
リモートスイッチ：225
リモコン端子：225
料理：90

れ
レーティング：360
レンズ：51, 53
　色収差補正：133, 348
　回折補正：133, 348
　光学補正：130, 278, 347
　周辺光量補正：131, 347
　デジタルレンズオプティマイザ：132, 347
　フォーカスモードスイッチ：54, 221
　ロック解除：52, 55
　歪曲収差補正：131, 347
レンズの電子式手動フォーカス：216
連続撮影可能枚数：126, 579
連続撮影（連写）：135

ろ
録音／録音レベル：250
露出シミュレーション：156
露出設定ステップ：530
露出補正：142
露出補正（M+ISOオート）：113

章目次
目 次
機能目次
索 引

露出レベル表示：586, 588

わ

歪曲収差補正：131, 347
ワンショットAF：198

Canon

本書の記載内容は2020年3月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、お客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

CT0-D245-C
© CANON INC. 2019

章目次
目 次
機能目次
索 引